

令和3年9月6日

山口県教育委員会会議議案

山口県教育委員会

議案

番号	件名	主管課
1	山口県教育支援委員会委員の任命について	特別支援教育推進室

報告事項

番号	件名	主管課
1	新型コロナウイルス感染症に係る対応について	学校安全・体育課 高校教育課
2	令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について	義務教育課
3	令和3年3月公立高等学校等卒業生進路状況調査結果について	高校教育課

議案第 1 号

山口県教育支援委員会委員の任命について

山口県教育支援委員会規則（昭和 53 年山口県教育委員会規則第 4 号）第 3 条第 2 項の規定に基づき、山口県教育支援委員会の委員を別紙のとおり任命する。

令和 3 年（2021年）9 月 6 日

山口県教育委員会

令和3年度 山口県教育支援委員会委員（案）

	氏名	所属・役職	区分	備考
1	福田 修三	(財)山口県肢体不自由児協会 理事	学識経験者	現任
2	西川 浩子	山口県LD親の会「ほっぺ」 会長	学識経験者	現任
3	田中 マキ子	山口県立大学 副学長（大地共創担当） 兼 地域共生センター 所長	学識経験者	現任
4	藤田 久美	山口県立大学社会福祉学部教授	学識経験者	現任
5	松本 正	社会福祉法人ひらきの里 障害者支援施設ひらきの里 施設長	学識経験者	現任
6	松岡 勝彦	山口大学教育学部 教授	学識経験者	現任
7	綿野 友美	よしみクリニック 院長	医師(小児科)	現任
8	田原 卓浩	たはらクリニック 院長	医師(小児科・内科)	現任
9	渡 広子	クボクリニック 精神科医	医師(精神科)	現任
10	池田 卓生	鼓ヶ浦子ども医療福祉センター 耳鼻科医	医師(耳鼻科)	現任
11	吉村 佳子	小郡第一総合病院 眼科医	医師(眼科)	現任
12	松本 寿子	山口県国公立幼稚園・こども園連盟 会長 (下関市立川中幼稚園 園長)	関係教育機関	現任
13	佐野 太	(公財)山口県私立幼稚園協会 副理事長 (学校法人小野田めぐみ学園 小野田めぐみ幼稚園 理事長兼園長)	関係教育機関	新任
	早川 加代子	(公財)山口県私立幼稚園協会 前副理事長	関係教育機関	前任
14	肥塚 新一	山口県保育協会 (幼保連携型認定こども園 社会福祉法人 聖母園 園長)	関係教育機関	新任
15	清永 直志	山口県特別支援教育研究連盟 理事 (下関市立江浦小学校 校長)	関係教育機関	現任

※ 任期：令和2年6月1日～令和4年5月31日

山口県教育支援委員会規則

(趣 旨)

第1条 この規則は、附属機関の設置に関する条例（昭和28年山口県条例第51号）第2条の規定に基づき、山口県教育支援委員会（以下「委員会」という。）の組織、運営その他必要な事項について定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 委員会は、山口県教育委員会（以下「教育委員会」という。）の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議する。

- (1) 県立の特別支援学校に就学しようとする者並びに在学する児童及び生徒のうち、当該学校において障害の種類及び程度を判定することが困難なものについての教育支援に関すること。
- (2) 障害の種類及び程度を判定することが困難であるとして市町教育委員会から依頼のあった者についての教育支援に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、障害のある児童及び生徒の教育支援について教育委員会が特に必要と認める事項に関すること。

(組 織)

第3条 委員会は、委員20人以内で組織する。

2 委員は次に掲げる者のうちから、教育委員会が任命する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 医師
- (3) 関係行政機関の職員
- (4) 関係教育機関の職員

(任 期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 委員会に会長及び副会長各1人を置く。

2 会長及び副会長は、委員が互選する。

3 会長は、会務を総理し、委員会を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会 議)

第6条 委員会の会議（以下「会議」という。）は会長が招集する。

2 会議の議長は、会長をもって充てる。

3 会議は、委員の半数以上が出席しなければ、開くことができない。

4 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(部 会)

第7条 委員会に、委員会から付議された事項を調査審議するため、次に掲げる部会を置く。

- (1) 視覚障害部会
- (2) 聴覚障害部会
- (3) 知的障害部会
- (4) 肢体不自由部会
- (5) 病弱・虚弱部会

2 部会は、委員会の委員で組織する。

3 部会に属すべき委員は、委員会の会長が指名する。

4 前2条の規定は、部会について準用する。この場合において、これらの規定中「会長」とあるのは「部会長」と、「副会長」とあるのは「副部会長」と読み替えるものとする。

(調 査 員)

第8条 委員会に、特別の事項を調査するため必要があるときは、調査員を置くことができる。

2 調査員は、関係行政機関又は関係教育機関の職員のうちから、教育委員会が任命する。

3 調査員は、当該特別の事項に関する調査が終了したときは、解任されるものとする。

(庶 務)

第9条 委員会の庶務は、教育庁特別支援教育推進室において処理する。

(そ の 他)

第10条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、会長が委員会に諮って定める。

学校の新型コロナウイルス対策について（保健衛生管理関係）

学校安全・体育課

1 基本的な考え方

文科省等からの通知を市町教育委員会及び県立学校へ周知するとともに、市町や関係機関と連携し、学校が適切に対応することができるよう保健衛生管理等に係る情報周知、資料提供や支援を行い、感染防止対策の徹底を図る。

2 国の通知に基づく取組

※ 文部科学省「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～」(2021.4.28 Ver6) (R3.4.28 令3 教安体第149号) (以下、衛生管理マニュアル) より

(1) 「新しい生活様式」を踏まえた学校の行動基準（地域の感染レベルについて）

- 県は、8月25日に「ステージⅢ」から「ステージⅣ」に変更
- ステージの変更を受けて、県教委は8月26日から県立学校における地域の感染レベルを「レベル2」から「レベル3」に変更

(参考) 衛生管理マニュアル P.18 より

「新しい生活様式」を踏まえた学校の行動基準

地域の感染レベル	身体的距離の確保	感染リスクの高い 教科活動	部活動 (自由意思の活動)
レベル3	できるだけ2m程度 (最低1m)	行わない	個人や少人数での 感染リスクの低い活動 で短時間での活動に 限定
レベル2	1mを目安に 学級内で最大限の 間隔を取ること	収束局面 感染リスク の低い活動 から徐々に 実施	感染リスク の低い活動 から徐々に実施し、教 師等が活動状況の確 認を徹底
レベル1	1mを目安に 学級内で最大限の 間隔を取ること	適切な感染対策を行った 上で実施	十分な感染対策を行 った上で実施

(参考)

本マニュアル	新型コロナウイルス感染症分科会提言(※)における分類		
レベル3	ステージⅣ	爆発的な感染拡大及び深刻な医療提供体制の機能不全を避けるための対応が必要な段階	(病院間クラスター連鎖などの大規模かつ深刻なクラスター連鎖が発生し、爆発的な感染拡大により、高齢者や高リスク者が大量に感染し、多くの重症者及び死者が発生し始め、公衆衛生体制及び医療提供体制が機能不全に陥ることを避けるための対応が必要な状況。)
	ステージⅢ	感染者の急増及び医療提供体制における大きな支障の発生を避けるための対応が必要な段階	(ステージⅡと比べてクラスターが広範囲に多発する等、感染者が急増し、新型コロナウイルス感染症に対する医療提供体制への負荷がさらに高まり、一般医療にも大きな支障が発生することを避けるための対応が必要な状況。)
レベル2	ステージⅡ	感染者の漸増及び医療提供体制への負荷が蓄積する段階	(3密環境などリスクの高い場所でクラスターが度々発生することで、感染者が漸増し、重症者が徐々に増加してくる。このため、保健所などの公衆衛生体制の負荷も増大するとともに、新型コロナウイルス感染症に対する医療以外の一般医療も並行して実施する中で、医療体制への負荷が蓄積しつつある。)
レベル1	ステージⅠ	感染者の散発的発生及び医療提供体制に特段の支障がない段階	

※「今後想定される感染状況と対策について」(令和2年8月7日新型コロナウイルス感染症分科会提言)

(2) 衛生管理マニュアルにおける「レベル3」に応じた教育活動より

① 身体的距離（座席配置）

レベル3：可能な限り2m（最低1m）確保

□学級規模や施設等に応じて、異なる教室や時間で指導

・学級を2グループに分割

・分散登校、時差登校

※ あくまでも目安であり、座席の間隔に一律にこだわるのではなく、頻繁な換気などを組み合わせることなどにより、現場の状況に応じて柔軟に対応する。

□感染リスクの高い学習活動を中止

・長時間、近距離で対面形式となるグループワーク等

・近距離で一斉に大きな声で話す活動

レベル2：1mを目安に学級内で最大限の間隔をとる

② 給食

レベル3：通常の提供方法による実施は原則困難

□配膳の過程を省略できる品数の少ない献立提供

□給食調理場において弁当容器等に盛り付けて提供

□配膳を伴わない簡易な給食の提供 など

レベル2：感染状況に応じて、通常の提供方法

③ 部活動

レベル3：個人や少人数での感染リスクの低い活動で短時間での活動に限定

※中止、①密集する運動

②近距離で組み合ったり接触したりする場面が多い活動

③向かい合って発声したりする活動

□緊急事態宣言の対象区域に属する地域においては、学校が独自に行う他校との練習試合や合宿等を一時的に制限

□終了後の生徒同士の食事を控える

レベル2：※①②③の活動について、慎重な検討が必要

④ 登校時の健康観察：「レベル2」と同じ

i 風邪等の症状

レベル2・3：家族に風邪症状あり・・・登校しない

ii 健康状態の把握

レベル2・3：原則、校舎に入る前に本人・家族の状況確認

3 県独自の「レベル3」における取組

(1) 随時PCR検査実施対象の拡大

レベル2における、県外との往来を伴う学校行事・大会等に参加した県立学校の児童生徒・教職員を対象とした帰県後のPCR検査に加え、県内学校行事・大会等に参加する際の事前のPCR検査を実施する。

(2) 部活動の活動制限等

原則、校内のみの活動とし、他校との練習試合や合宿等については、原則、実施しない。

ただし、全国大会やコンクール等の各種大会出場に当たってはレベル2の時と同様に以下について特に留意する。

・出場生徒・教職員の大会前後の健康観察

- ・会場への移動時や会食・宿泊時等の大会出場に係る全ての場面における感染防止対策の徹底
- ・大会等主催者が定めるガイドラインの確認及び遵守
- ・随時PCR検査の実施

(3) デルタ株感染拡大防止集中対策オンデマンド配信

- ・期間：8月18日～9月30日
- ・対象：国公立 幼・保・こども園、小・中・高・特別支援学校等の教職員 等
- ・講義内容：「新型コロナウイルス感染症に係る県内の感染状況を踏まえた対応について」、「学校における感染防止対策の留意点」

4 その他

(1) 児童生徒及び教職員のワクチン接種について

- 6月8日、「新型コロナワクチン接種の加速化に向けた知事・19市町長会議」において、小学生（12歳以上）、中・高校生、教職員等を優先接種の対象とする方針を確認
- 現在、希望者に対しては、市町が主体となって接種を積極的に進めている

(2) 緊急事態宣言対象地域等に指定された地域において、学校における濃厚接触者等の特定や臨時休業の判断について

※ 文部科学省「学校で児童生徒等や教職員の新型コロナウイルスの感染が確認された場合の対応ガイドライン」（R3.8.31 令3教安体第536号）より

① 濃厚接触者の候補の考え方

- ・感染者と同居（寮等において感染者と同室の場合を含む）又は長時間の接触があった者
- ・適切な感染防護なしに感染者を介護していた者
- ・感染者の飛沫（くしゃみ、咳、つば等）に直接接触した可能性の高い者（1メートル以内の距離で互いにマスクなしで会話が交わされた場合は、時間の長さを問わずに濃厚接触者に該当する可能性がある）
- ・手で触れることの出来る距離（目安として1メートル）で、必要な感染予防策なしで、感染者と15分以上の接触があった者（例えば、感染者と会話していた者）

② 休業判断までの主な流れ

i 現状

設置者は、保健所の見解や学校医の助言を踏まえ、学校の全部又は一部の臨時休業の要否を検討

ii 変更点

緊急事態宣言対象地域等で保健所の業務が逼迫している地域においては、設置者は、濃厚接触者等のリスト提出後、検査の実施や校舎内の消毒等に要する期間や学校内の感染状況に基づき、学校医等と相談し、学校の全部又は一部の臨時休業の要否、対象、期間を検討



県立学校においては、「学校における新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン（改訂版）」（R2.3.16 令2教安体第849号）に沿って学校医や関係機関と連携を図りながら、感染防止対策の徹底や感染者が発生した場合の対応計画による濃厚接触者等の候補者のリスト作成及び保健所への提供を引き続きしていくこととしている。

学校のコロナウイルス対策について（学習保障関係）

～「新しい生活様式」を踏まえた学習指導について（令和3年8月 山口県教育委員会）より抜粋～

高校教育課

1 基本的な考え方

新型コロナウイルス感染症への対策を徹底し、学習内容や活動内容を工夫しながら、可能な限り授業や各種行事等の教育活動を継続する。

2 「3つの密」を避けた授業の工夫

（1）身体的距離の確保

【レベル3地域】児童生徒の間隔を、可能な限り2メートル（最低1メートル）確保するように座席を配置

【レベル1地域・レベル2地域】児童生徒の間隔を、1メートルを目安に学級内で最大の間隔をとるように座席を配置

なお、座席配置については、各学校の施設の状況や感染リスクの状況に応じて、頻繁な換気等を組み合わせることなどにより柔軟に対応

（2）各教科等の指導における工夫

各教科における「感染症対策を講じてもおお感染のリスクが高い学習活動」については、レベル3地域では行わない。

（例）生徒が長時間、近距離で対面形式となるグループワーク

音楽における「室内で生徒が近距離で行う合唱及び管楽器演奏」

保健体育における「近距離で組み合ったり接触したりする運動」 など

3 時差登校・分散登校等

学校の規模や施設の制約によっては、密集を回避するために、分散登校や時差登校を適宜組み合わせるなどして、教育活動を継続する。

臨時休業や時差・分散登校を実施する場合は、タブレット端末等を活用してオンライン授業や課題の配信、学習状況の把握等を行い、生徒の学習活動を継続する。

4 ICTを活用した学習指導

（1）自宅等における学習に当たってのICTの活用方法（例）

ア オンラインによるホームルーム

毎朝・夕の決まった時間にオンラインによるホームルームを実施し、健康観察や連絡事項の伝達等を行い、自宅等における学習が計画的なものとなるよう留意する。

イ オンライン授業

ウェブ会議システムを活用し、同時双方向型のオンライン授業を実施する。

ウ クラウド上での課題の受け渡しや授業動画の配信

課題や授業動画をクラウド上にアップし、自宅等における学習について指示する。

エ 民間のオンラインによる学習支援サービスや既存の学習コンテンツの活用

スタディサプリ等の民間のオンラインによる学習支援サービスや、文部科学省ホームページ「子供の学び応援サイト」に掲載されている教材や動画等を活用する。

(2) ICTを活用する際の留意点

- 主たる教材である教科書に基づいての指導を基本とし、デジタル教材やオンデマンド動画等も組み合わせて指導する。
- 各教員が作成した課題や動画等については、肖像権や著作権等の侵害がないかなど、校内におけるチェック体制の構築を図る。

5 生徒の出欠の扱い

(1) 学校の全部を臨時休業とした場合

学校の全部を休業とした場合は、該当日は指導要録上の「授業日数」に含まれない。

(2) 分散登校とした場合

学年の全部を休業とした場合は、該当日は指導要録上の「授業日数」に含まれない。

学年の一部を休業とした場合は、該当日は指導要録上の「授業日数」に含まれ、自宅等における学習とした生徒は、指導要録上「出席停止・忌引等の日数」として扱う。

(3) やむを得ず学校に登校できない生徒の出欠の扱い

やむを得ず学校に登校できない生徒については、次の①から④に示す場合は、指導要録上「出席停止・忌引等の日数」として扱い、「欠席日数」には記録しない。

- ① 生徒の感染が判明した場合又は生徒が感染者の濃厚接触者に特定された場合
- ② 生徒に発熱等の風邪の症状がみられる場合
- ③ 医療的ケアが日常的に必要な生徒や基礎疾患等のある生徒について、登校すべきでないと校長が判断した場合
- ④ 感染経路のわからない患者が急速に増えて感染の可能性が高まっているなど、保護者が登校させるべきではないと考えるに合理的な理由があると校長が判断した場合

6 自宅等における学習の取扱い

(1) 学習評価

やむを得ず学校に登校できない生徒に対して、指導計画等を踏まえながら、教員による学習指導を行えば、学習の状況や成果は学校の学習評価に反映することが可能

(2) 指導した内容の取扱い

やむを得ず学校に登校できない生徒に対して行われた学習指導により、十分な学習内容の定着がみられ、再度指導する必要がないものと校長が判断したときには、当該内容を再度学校における対面指導で取り扱わないことが可能

(3) 指導要録上の取扱い

やむを得ず学校に登校できない生徒について、オンラインを活用した学習の指導を実施したと校長が認める場合には、指導要録の「指導に関する記録」の別記として、非常時にオンラインを活用して実施した特例の授業等の記録を学年ごとに作成

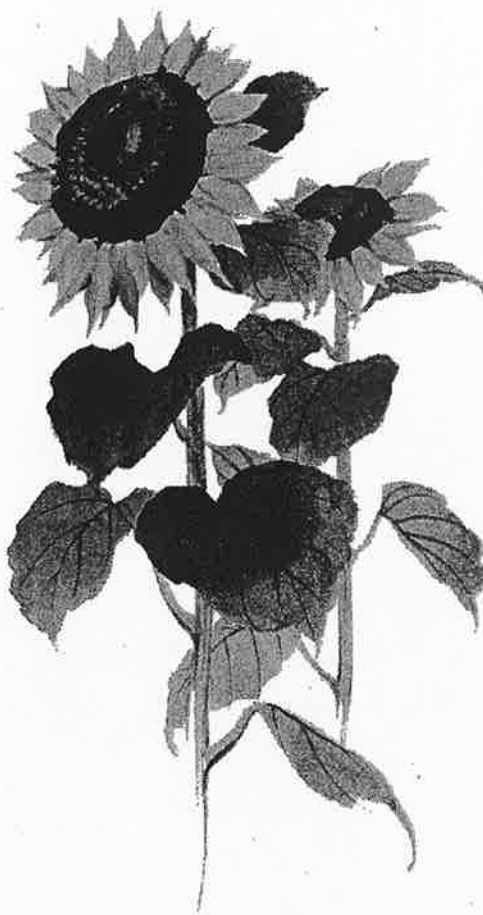
(4) 各学年の課程の修了及び卒業の認定等

臨時休業を行い、学習指導要領に定める標準を踏まえて編成した教育課程の単位数を下回った場合でも、弾力的に対処し、単位の修得の認定を行うことが可能

やむを得ず学校に登校できない状況にあった生徒について、各学年の修了又は卒業の認定に当たっては、弾力的に対処し、進級・進学等に不利益が生じないように配慮

令和 3 年度

全国学力・学習状況調査結果について

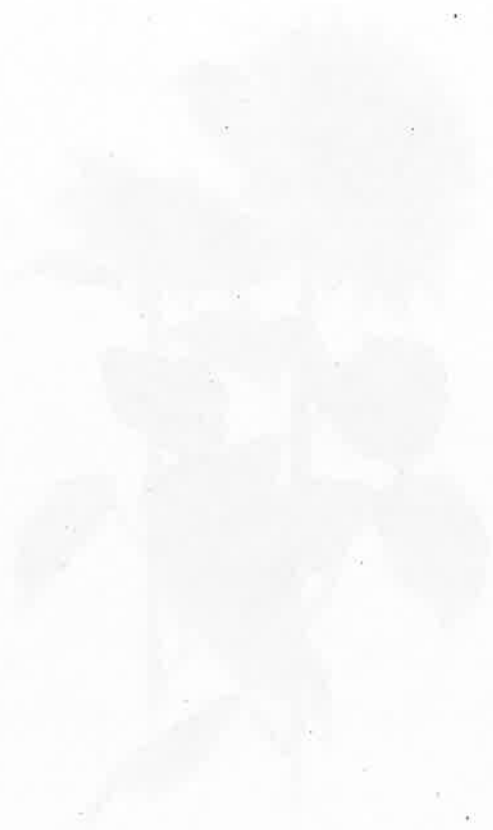


令和 3 年 9 月

山口県教育庁義務教育課

觀摩と研究

丁村の二果樹調査園地を以て例年・近年調査



只日果名研究

廣南郊野園地を以て例年・近年調査

目 次

1 教科に関する結果	P 1
(1) 全体の結果	P 1
(2) 各教科の結果	P 1
(3) 具体的な問題と解答状況	P 7
2 質問紙調査の結果	P 19
(1) 児童生徒質問紙	P 19
(2) 学校質問紙	P 28
3 学力向上に向けた今後の取組	P 38

《令和3年度全国学力・学習状況調査の概要》

- 目 的
- ・義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 - ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 調査期日 令和3年5月27日（木）
- 調査方式 悉皆調査
- 実施学校数・児童生徒数（山口県）
- | | | |
|---------|--------------------------------|---------|
| 【小学校6年】 | 公立小学校 265校、特別支援学校 2校 | 11,018人 |
| 【中学校3年】 | 公立中学校 126校、中等教育学校 1校、特別支援学校 3校 | 10,720人 |
- 調査内容
- ①教科に関する調査（小学校 国語、算数 中学校 国語、数学）
- ・調査問題では、下記1）と2）を一体的に問う。
 - 1）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - 2）知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容
- ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
- ・児童生徒に対する調査（児童生徒質問紙）
 - ・学校に対する調査（学校質問紙）

1 教科に関する結果

(1) 全体の結果

- 小学校では、国語、算数ともに全国平均と同程度という結果であった。
- 中学校では、国語、数学ともに全国平均と同程度という結果であった。

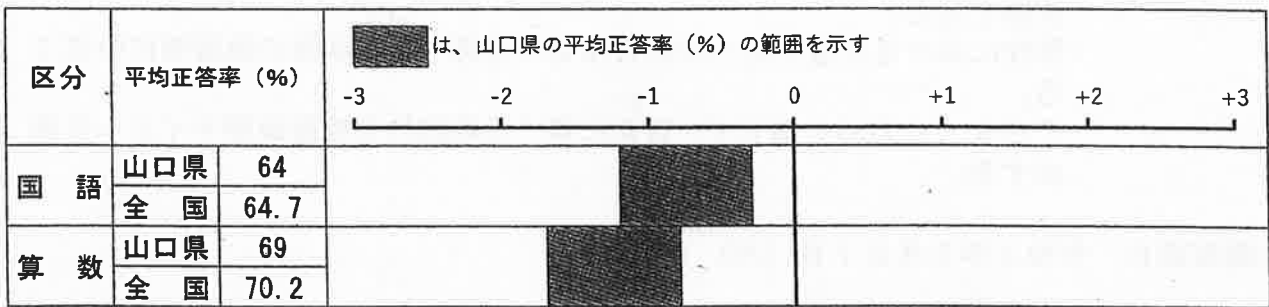
(2) 各教科の結果

①全国と本県の平均正答数、平均正答率の比較

※ 平成29年度から、都道府県等における各教科の平均正答率は整数値で提供されているため、全国平均との差を範囲で示している。

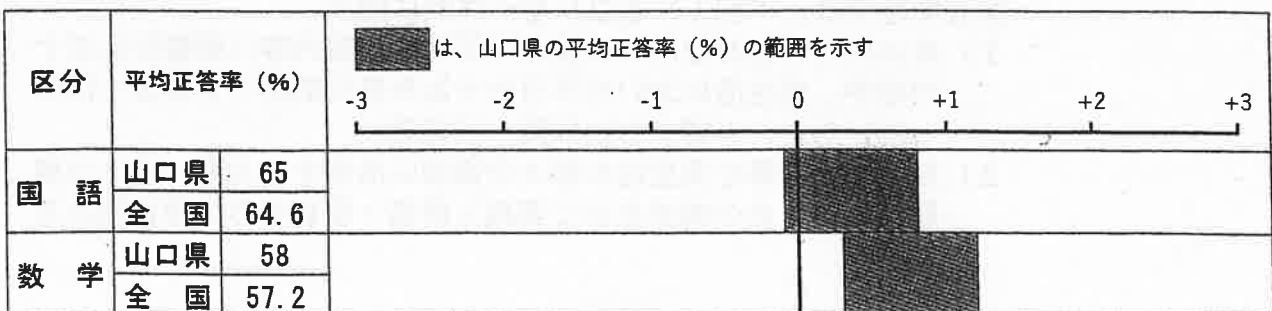
【小学校】

	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国 語	9.0/14	9.1/14	64	64.7
算 数	11.1/16	11.2/16	69	70.2



【中学校】

	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国 語	9.1/14	9.0/14	65	64.6
数 学	9.2/16	9.1/16	58	57.2



○平成31年度

小学校	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	山口県	全国	山口県	全国
国語	9.5/14	8.9/14	68	63.8
算数	9.4/14	9.3/14	67	66.6

中学校	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	山口県	全国	山口県	全国
国語	7.4/10	7.3/10	74	72.8
数学	9.8/16	9.6/16	61	59.8
英語	11.6/21	11.8/21	55	56.0

○平成30年度

小学校	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	山口県	全国	山口県	全国
国語A	8.6/12	8.5/12	72	70.7
国語B	4.6/8	4.4/8	57	54.7
算数A	8.9/14	8.9/14	64	63.5
算数B	5.2/10	5.1/10	52	51.5
理科	9.9/16	9.6/16	62	60.3

中学校	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	山口県	全国	山口県	全国
国語A	24.6/32	24.3/32	77	76.1
国語B	5.5/9	5.5/9	61	61.2
数学A	24.2/36	23.8/36	67	66.1
数学B	6.5/14	6.6/14	46	46.9
理科	18.0/27	17.9/27	67	66.1

○平成29年度

小学校	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	山口県	全国	山口県	全国
国語A	11.4 / 15	11.2 / 15	76	74.8
国語B	5.2 / 9	5.2 / 9	58	57.5
算数A	11.8 / 15	11.8 / 15	79	78.6
算数B	5.0 / 11	5.1 / 11	45	45.9

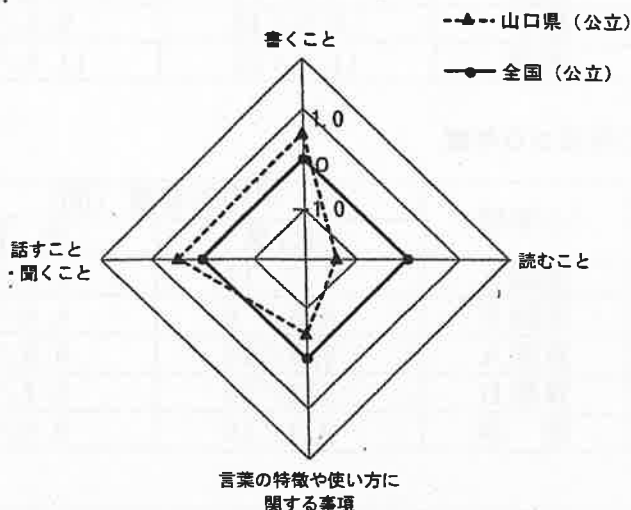
中学校	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	山口県	全国	山口県	全国
国語A	25.4 / 32	24.8 / 32	79	77.4
国語B	6.6 / 9	6.5 / 9	73	72.2
数学A	23.9 / 36	23.3 / 36	66	64.6
数学B	7.4 / 15	7.2 / 15	49	48.1

②領域別平均正答率

【小学校 国語】

「話すこと・聞くこと」「書くこと」については、全国平均をやや上回っている。
 「言語の特徴や使い方にに関する事項」については、全国平均をやや下回り、「読むこと」については、全国平均を下回っている。

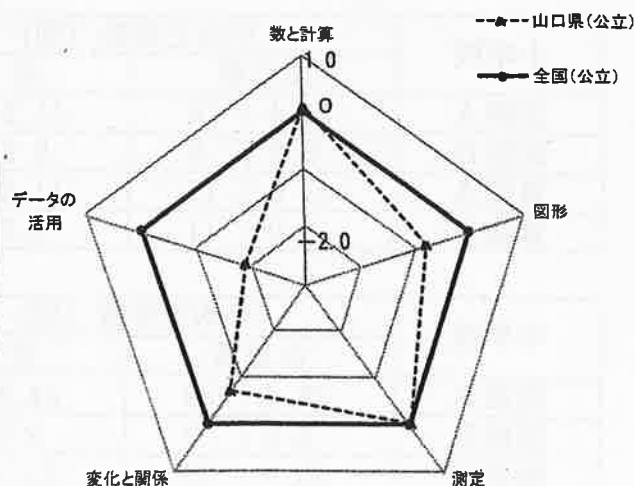
	問題数	平均正答率(%)	全国との差
全体	14	山口県 全国	
話すこと・聞くこと	3	78.3	+0.5
書くこと	2	61.2	+0.5
読むこと	3	45.8	-1.4
言語の特徴や使い方に に関する事項	6	67.8	-0.5



【小学校 算数】

「数と計算」「測定」については全国平均と同程度である。「図形」「量と測定」「データの活用」については、全国平均を下回っている。

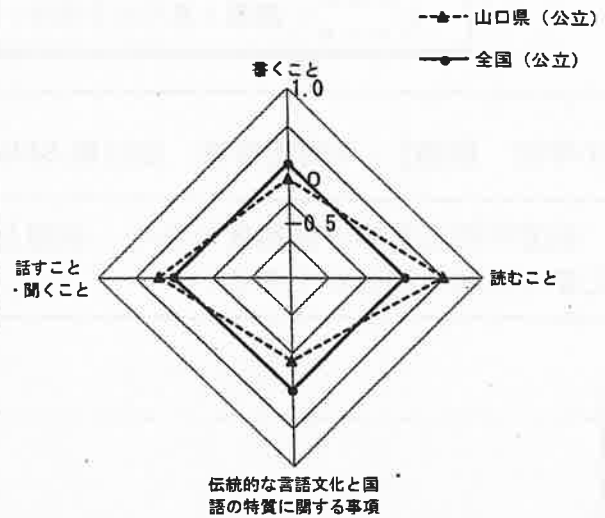
	問題数	平均正答率(%)	全国との差
全体	16	山口県 全国	
数と計算	4	63.2	+0.1
図形	3	57.1	-0.8
測定	3	74.8	0.0
変化と関係	3	75.2	-0.7
データの活用	5	74.1	-1.9



【中学校 国語】

「話すこと・聞くこと」「読むこと」については、全国平均をやや上回っている。
 「書くこと」については、全国平均と同程度であり、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、全国平均をやや下回っている。

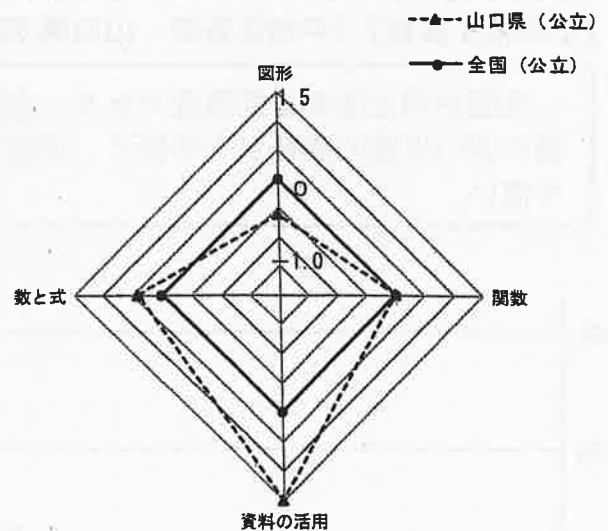
	問題数	平均正答率(%)		全国との差
全体	14	山口県	全国	
話すこと・聞くこと	3	80.1	79.8	+0.3
書くこと	3	56.9	57.1	-0.2
読むこと	4	49.0	48.5	+0.5
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	74.7	75.1	-0.4



【中学校 数学】

「数と式」については、全国平均をやや上回り、「資料の活用」については、全国平均を上回っている。「関数」については、全国平均と同程度、「図形」については、全国平均をやや下回っている。

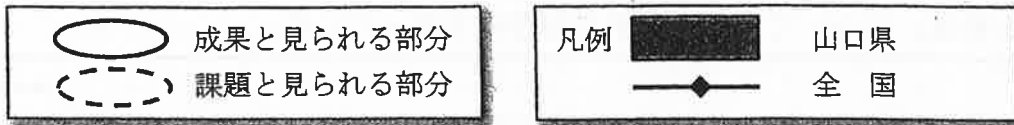
	問題数	平均正答率(%)		全国との差
全体	16	山口県	全国	
数と式	5	65.3	64.9	+0.4
図形	4	50.8	51.4	-0.6
関数	3	56.4	56.4	0
資料の活用	4	55.3	53.8	+1.5



③正答数分布

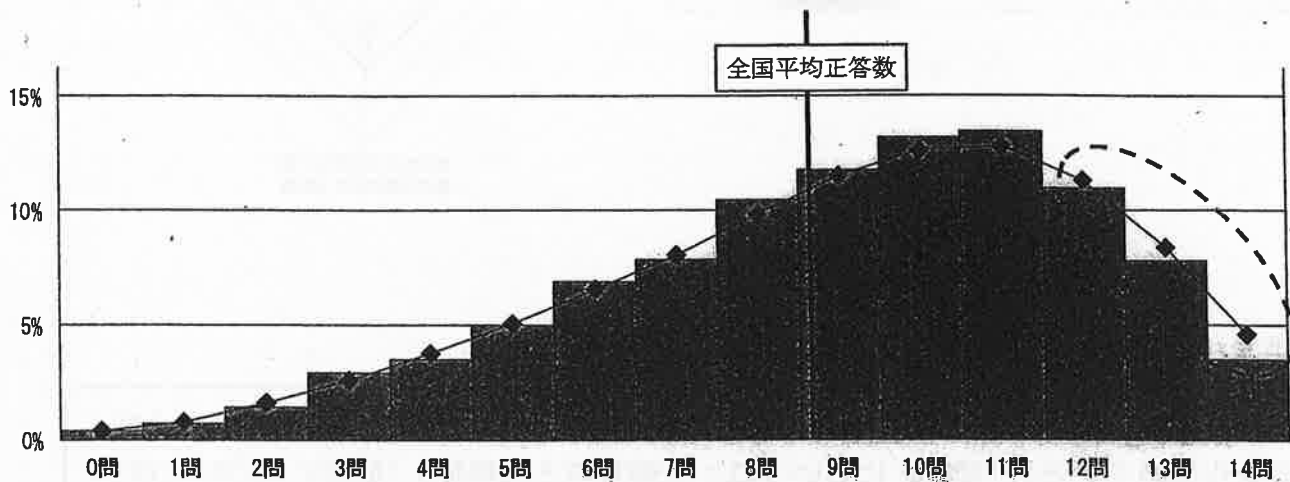
[グラフについて]

横軸は児童生徒が正答した問題数、縦軸は正答数ごとの児童生徒の割合 (%) を示している。



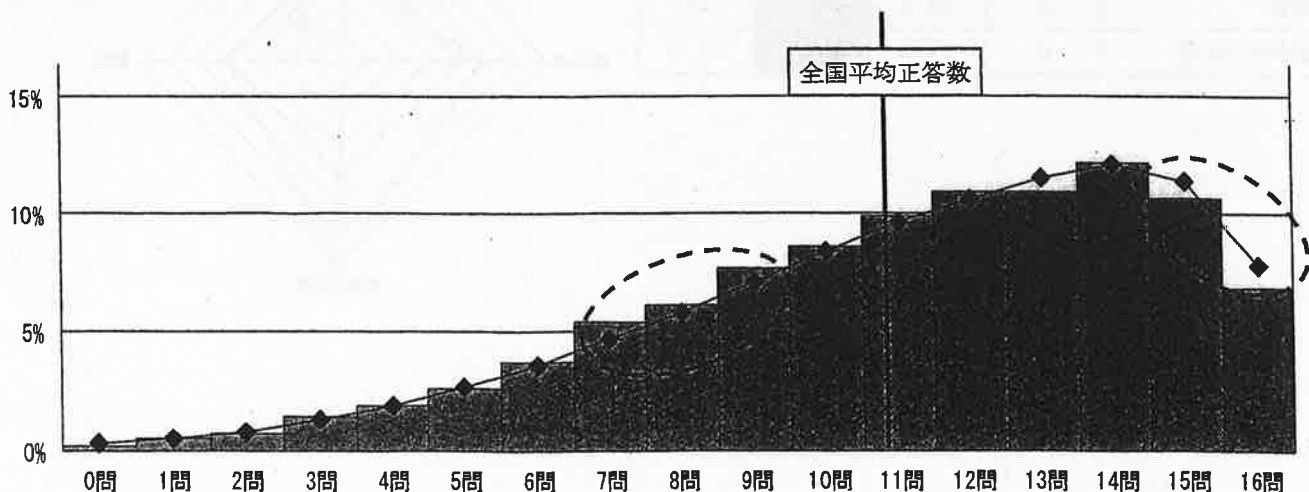
【小学校 国語】(平均正答率 山口県 64%、全国 64.9%)

全国平均正答率と同程度であり、全国と同様の分布状況にあるが、全国と比べ全問正答の児童の割合がやや低い。



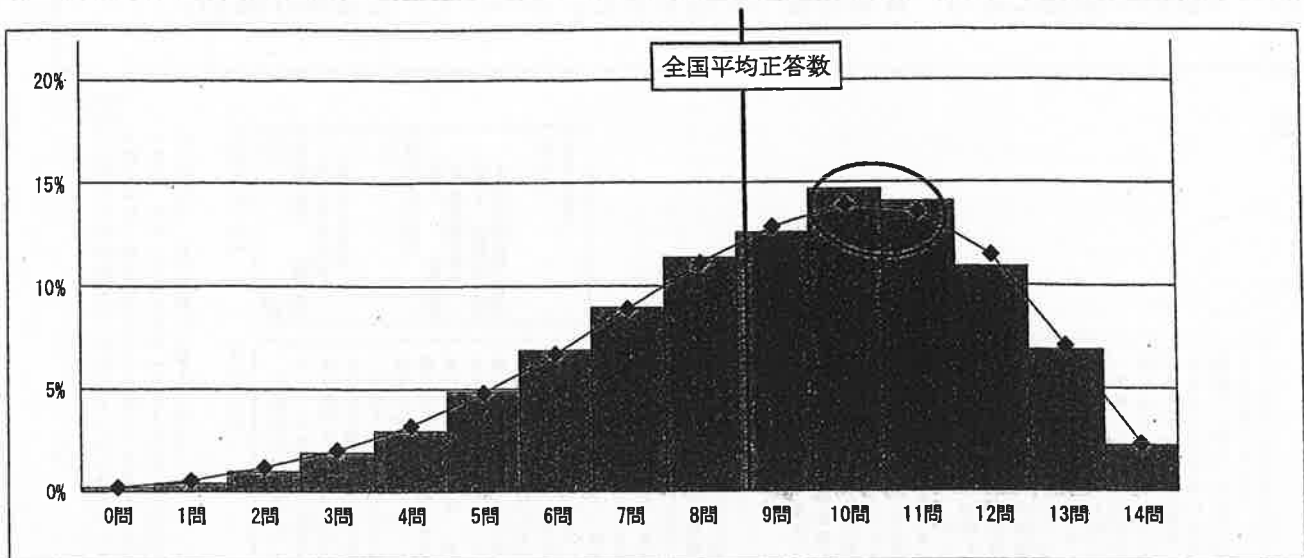
【小学校 算数】(平均正答率 山口県 69%、全国 70.3%)

全国平均正答率と同程度であり、全国と同様の分布状況にあるが、全国と比べ正答数の多い児童の割合がやや低く、全国平均正答数より少ない正答数の児童の割合がやや高い。



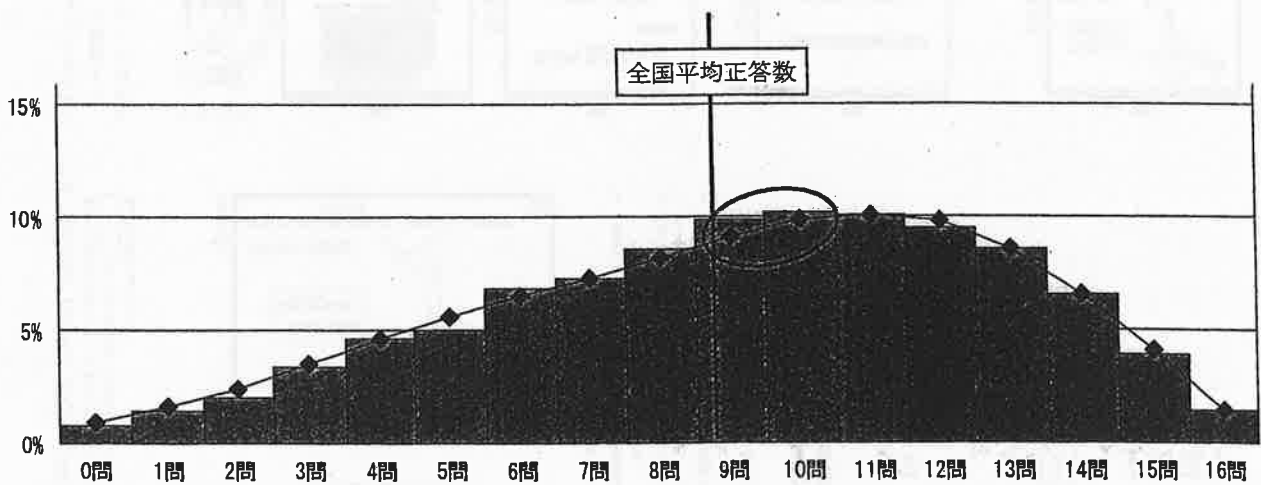
【中学校 国語】（平均正答率 山口県 65%、全国 64.9%）

全国平均正答率と同程度であり、全国と同様の分布状況にあるが、全国と比べ正答数の多い生徒の割合がやや高い。



【中学校 数学】（平均正答率 山口県 58%、全国 57.5%）

全国平均正答率と同程度であり、全国と同様の分布状況にあるが、全国と比べ正答数の多い生徒の割合がやや高い。



(3) - ① 具体的な問題と解答状況 一小学校国語一

○相当数の児童ができている点

○ 「目的や意図に応じ、資料を使って話すこと」について、正答率が高い。

1 三

1 上野さんの学級では、興味をもった人物について調べ、スピーチで紹介し合うことにしました。上野さんは、津田梅子について調べ、メモをもとに資料を動画に映しながらスピーチの練習をしています。次は、上野さんの「スピーチメモ」、「スピーチ」から(資料①)から(資料④)です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

「スピーチメモ」

〔はじめ〕
 ○話題の提示 (資料①)
 ・新五千円札の「顔」
 ・津田さんの説明
 〔守〕
 ○津田さんの業績 (資料②)
 ・業績1 女子英学塾を設立
 ・業績2 (資料③) 女性の英語教師を育成
 ○自分の意思 (資料④)

「スピーチ」

(資料①)を示す) みなさん、これを見てください。今度新しい五千円札の「顔」となるのは、津田梅子さんです。私は、どのような業績を残した人なのか調べてみました。
 津田さんは、今から約百年前の教育者で、女子教育の発展に力をつくした人です。日本初の女子留学生として六歳から十一年間、アメリカで教育を受けた津田さんは、女性のための新しい学校を日本につくりたいという夢をもつようになります。津田さんは、社会に出て活躍する女性を育てる教育の実現を目指したのです。そんな津田さんの業績の中から、二つのことを紹介します。
 (資料②)を示す) 一つは、「女子英学塾」を設立したことです。津田さんは、二十四歳で再びアメリカに渡り、大学で学びます。そして一九〇〇年、三十五歳のときに、日本で学校を設立するという長年の夢を実現しました。これが女子英学塾で、今の大学と同じような勉強をする学校です。当時の日本には、女性の通えるこのような学校がほとんどありませんでした。

ありませんでした。
 (資料③)を示す) もう一つの業績は、この学校で女性の英語教師を育成したこと。女子英学塾では、学生が英語教師の資格をとることを目標にかけつけていました。津田さんは、授業の中で、よく学生たちと英語で議論を交わしました。学生がどんな意見を言っても批判することはありませんでしたが、はっきりと自分の意見を言わないときは厳しく指導をしました。そして開校から三年後、第一回卒業生の半数以上が、女性で初めての英語教師の資格試験の合格者となりました。
 (資料④)を示す) この地図を見てください。このように、津田さんは、社会に出て活躍する女性を世の中に送り出したのです。津田さんは、信念をもって夢を成し遂げ、新たな道を切り開いた人だと思っています。津田さんの、だれもが社会で活躍する可能性を広げた業績は、素晴らしいと思います。私は、津田さんのこの業績が、新しいお札の「顔」となることにつながったのだと思います。

資料① 新五千円札の「顔」津田梅子(1864-1929年) (資料①)

資料② 津田梅子の業績1 1900年 女子英学塾を設立 (資料②)

資料③ 津田梅子の業績2 女性の英語教師を育成 (資料③)

資料④ 教師になった卒業生の勤務校のある場所 (1903-1912年) (資料④)

上野さん

三 上野さんは、「スピーチ」の練習をふり返り、(資料④)についての説明を加えて話すことにしました。上野さんは、どのように話すでしょう。次の「スピーチの一部」の□に入る内容として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

資料④ 教師になった卒業生の勤務校のある場所 (1903-1912年) (資料④)

□は勤務校のある市や町など

「スピーチの一部」
 (資料④)を示す) この地図を見てください。このように、津田さんは、社会に出て活躍する女性を世の中に送り出したのです。

上野さん

- 1 黒丸の印(○)の分布が示すように、教師になった卒業生は、一生涯に学びました。
- 2 黒丸の印(○)の分布が示すように、教師になった卒業生は、日本のさまざまな地域で働きました。
- 3 黒丸の印(○)の分布が示すように、教師になった卒業生の数は、年々増加していききました。
- 4 黒丸の印(○)の分布が示すように、教師になった卒業生の勤務校は、一部の地域にかたよっていました。

【正答】 1 三 2

	正答率
山口県	81.0%
全国	81.0%

●課題のみられる点

● 「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けること」について、課題がみられる。

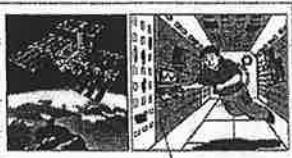
2 三

宇宙ステーションでヘッドレストカバーを交換する必要があります。そのため、一つ一つ取り外さなければならぬホックやボタンより留め外しの簡単な面ファスナーの方が、留め具として使われています。留め具も注目する新幹線に使われたことで話題となり、その存在が日本中に知られるようになりました。

一九八〇年代には、私たちの身近にある製品でも使われるようになりました。財布やカバン、かさなどの生活用品をはじめ、サボリタイや血圧計の巻を付けバンドなどの医療用品にも広がって使われています。布のように柔軟性があり、物や体の形にぴったり合わせることができる面ファスナーが通っていたからです。中でも大流行したのが、面ファスナーを使った運動ウェアです。ひざぐつに比べ、手間を省けず目的を好みに合わせてしめくあい調節することができるのが支持されたのです。同時に、素材の開発も進められました。現在では水に強く、熱にも強い素材で作られているものもあります。

また、しっかりとくっつき簡単にががすことが出来る面ファスナーは、宇宙でも使われています。地球のまわりを回る国際宇宙ステーションの中には無重力状態のため、物がうかびます。そこで活躍しているのが面ファスナーです。国際宇宙ステーションのかさや天井には、あらゆる場所に面ファスナーがつけられていきます。ペンやスプーン、カメラやコンピュータなど、身の回りの全ての物が固定できるようになっています。

一人の気づきから誕生した面ファスナーは、人びとの要求に応える形で、活躍の場を広げられました。身近な生活場面だけでなく、宇宙空間にまで広がり、さらなる便利さが追求されています。

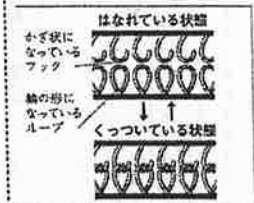


国際宇宙ステーションとその内部

面ファスナーは、かざやくつなど、さまざまな製品の留め具として使われています。簡単にくっつけたり、はがしたりすることが出来る、とても便利な道具です。

面ファスナーは、一九四八年にスイスで発明された。あるとき、ゴボウの実はたくさんついていることに気がつきました。山に登ったジョルジュ・テ・メストラルは、火の毛に野生のゴボウの実がたくさんついていることに気がつきました。不思議に思い、その実を持ち帰って顕微鏡でくわしく調べてみると、ゴボウの実は先の曲がったかざ状のトゲでおおわれていることがわかりました。そのトゲが火の毛にからみついていたのです。このことをヒントにメストラルは研究を続け、数年後、特殊な素材を使い、面ファスナーを作り出しました。

一九六〇年に、日本ではじめて面ファスナーの製造・販売が始まりました。しかし、そのよさや使い道はなかなか世の中に伝わりませんでした。広く知られるようになったきっかけは、一九六四年十月の東海運新幹線の開業でした。新幹線の座席のヘッドレストカバー（頭をさえる布）の留め具として、面ファスナーが採用されたのです。新幹線の清掃作業の際には、



面ファスナーの仕組み

2 相川さんの学校では、最近にある便利なものについて調べています。相川さんは、面ファスナーを選びました。次は、相川さんが選んだ「資料」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

「資料」



【正答例】 2 三

メストラルは、ゴボウの実が犬の毛にからみついていたことをヒントに、かざ状のフックが輪の形をしたループに引っかかることでくっつく仕組みの面ファスナーを作り出した。(80字)

	正答率
山口県	33.3%
全国	34.4%

※左の行へてう用紙は下書き用なので、後でも検校なくともかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※の印から書きましょう。どちらのうで打を覚えて、続けて書きましょう。

三 相川さんは、「資料」の——部を読み、面ファスナーのくっつく仕組みについて考えています。メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出しましたか。次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- ヒントになったことと、面ファスナーのくっつく仕組みが分かるように書くこと。
- 「資料」の中の文章と——の「面ファスナーの仕組み」から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 五十文字以上、八十文字以内にとめて書くこと。



相川さん

○改善傾向がみられる点

○ 「目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」について改善傾向がみられる。

3 二

3

丸山さんの学校では、国語の学習で、気持ちよく学校生活を送ることができるよう、自分の考えを学校の友達に主張する文章を書くことにしました。次は、丸山さんが書いた「文章の下書き」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【文章の下書き】

一人一人が責任をもってかたづけよう

丸山 理子

わたしは、だれもが気持ちよく生活するために、一人一人が責任をもって使った物をかたづけることが大切だと考えます。
 みなさんは、休み時間後の教室にボールが散らばったまま、ころがっているのを見かけたことはありませんか。わたしは、ときどき見かけることがあります。時には、みんなが使っていた一輪車がかたづけられずに残っています。また、遊具置き場では、一輪車や竹馬が決められた所に置かれず、まわりの方にうつみまわられています。かたづけわすれたり時間がなくてかたづけられなかったりすることが、工場のいん家のだと思えます。その他のにも、遊具のつたらずぐに遊具をかたづけることがむずかしい場合もあるでしょう。それでも、きちんとかたづければ、わたしたちは気持ちよく遊ぶことができると思います。
 さちんとかたづけることが大切ならば、そうじたん当の人などがかたづけられればよいという考えもあるかもしれません。確かに、たん当が決まっていれば、その人がかたづけてくれるでしょう。しかし、わたしは、使った人がかたづけなければならないと思います。

遊具だけではありません。そうじの道具や図書館の本も、使った人が元の場所にきちんとかたづけおけば、次に使う人は気持ちよく利用することができると思います。
 学校の中がきれいになると、わたしたちは気持ちよく生活できます。そのためには、わたしは、一人一人が責任をもってかたづけることが大切だと考えます。

二 丸山さんは、部会の「そうじたん当の人などがかたづけられればよい」と考える人を説得するために、「西田さんの話」を用いて「文章の下書き」の部会をくわしく書き直そうとしています。あとの条件に合わせて書きましょう。

【西田さんの話】(遊具置き場のそうじ担当)

毎日、そうじ担当が協力して遊具をかたづけています。でも、そのために時間が足りなくなっています。はきそうじやふきそうじまで手が回らなくなることがあります。そんなときは、きれいにそうじができなくて困ります。



西田さん

(条件)

- 「そうじたん当の人などがかたづけられればよい」という考えに反対する意見と、その理由を書きましょう。
- 【西田さんの話】から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 六十字以上、百字以内で書くこと。

【正答例】 3 二

しかし、遊具置き場のそうじは、かたづけで時間が足りなくなり、はきそうじやふきそうじに手が回らないことがあるそうです。たん当の人だけに任せると大変なので、わたしは、使った人がかたづけるべきだと思います。(100字)

	正答率
山口県	59.1%
全国	56.6%

(3) -② 具体的な問題と解答状況 一小学校算数一

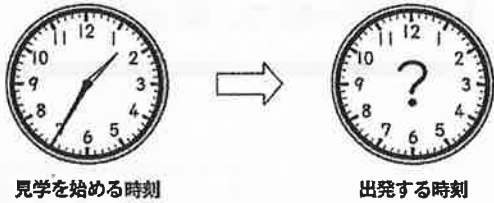
○相当数の児童ができている点

○ 「条件に合う時刻を求めること」について、正答率が高い。

1 (4)

(4) たけるさんたちは、城に着きました。
午後1時35分から見学を始めて、50分後に出発することになりました。
出発する時刻は午後何時何分ですか。その時刻を書きましょう。

【正答】 1 (4)午後2時25分



	正答率
山口県	90.0%
全国	89.2%

○ 「棒グラフから、数量や項目間の関係を読み取ること」について、正答率が高い。

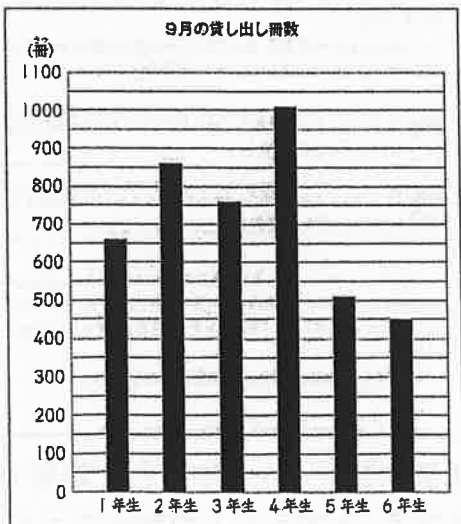
3 (1) (2)

ひよりさんたちは、10月の図書委員会で、図書室の本の貸し出しの様子について話し合っています。



最近、5年生と6年生は、ほかの学年より本を借りていないのではないですか。

そこで、9月の貸し出し冊数を調べ、下のグラフに表しました。



(1) 左のグラフの、6年生の貸し出し冊数は何冊ですか。
下のアからエまでの中から、最もふさわしいものを1つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 401冊
- イ 405冊
- ウ 410冊
- エ 450冊

(2) 9月の貸し出し冊数について、左のグラフからどのようなことがわかりますか。

下のアからエまでの中から、最もふさわしいものを1つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 貸し出し冊数がいちばん多い学年は、2年生である。
- イ 2年生の貸し出し冊数は、3年生の貸し出し冊数の約2倍である。
- ウ 5年生の貸し出し冊数は、4年生の貸し出し冊数の半分くらいである。
- エ 1年生と3年生の貸し出し冊数の差は、約200冊である。

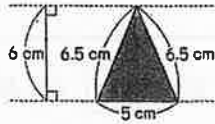
【正答】 3 (1) エ (2) ウ

(1)	正答率	(2)	正答率
山口県	95.6%	山口県	90.5%
全国	95.8%	全国	90.7%

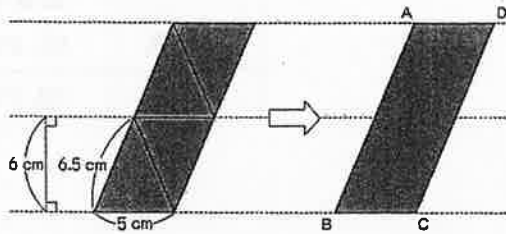
●課題のみられる点

- 「複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述すること」について、課題がみられる。

2 (3) (3) 次のような二等辺三角形があります。



上の二等辺三角形を4つ使い、次のように、同じ長さの辺どうしを合わせて、平行四辺形ABCDをつくりました。



平行四辺形の面積の公式を使って、平行四辺形ABCDの面積を求めます。

辺BCを底辺としたときの面積の求め方を、式や言葉を使って書きましょう。そのとき、平行四辺形ABCDの高さをどのように求めたのかわかるようにしましょう。

また、平行四辺形ABCDの面積が何cm²になるのかも書きましょう。

【正答例】 2 (3) 辺BCを底辺としたとき、高さは、 $6 \times 2 = 12$ で、12 cmです。
平行四辺形ABCDの面積は、 $5 \times 12 = 60$ で、60 cm²です。

	正答率
山口県	44.4%
全国	46.0%

- 「帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述すること」について、課題がみられる。

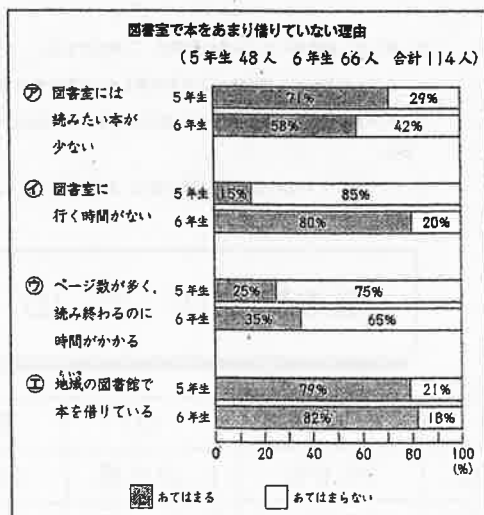
	正答率
山口県	48.6%
全国	52.0%

3 (4) (4) 次に、ひよりさんたちは、読書が好きなのに、図書館で本をあまり借りなかった114人に着目しました。



図書館で本をあまり借りていない理由について、5年生と6年生で、ちがいがいるのでしょうか。

そこで、114人分のアンケート調査の結果を、5年生と6年生に分けて、下のグラフに表しました。



ひよりさんたちは、左のグラフをもとに、気づいたことについて話し合っています。

そうたさんとあやのさんは、左のグラフの中の⑦から⑩までの4つの項目について、「あてはまる」と答えた人の割合に着目しました。



5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合が同じくらい項目があります。



5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合が大きくちがう項目もありますね。

左のグラフについて、5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合のちがいが、いちばん大きい項目はどれですか。また、その項目について、「あてはまる」と答えた5年生と6年生の割合はそれぞれ何%ですか。

項目とそれぞれの割合を、言葉と数を使って書きましょう。


【正答例】 3 (4) 5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合のちがいが、いちばん大きいこう目は、⑧図書館に行く時間がないです。
5年生が15%で、6年生が80%です。


○改善傾向がみられる点

○ 「小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述すること」について、改善傾向がみられる。

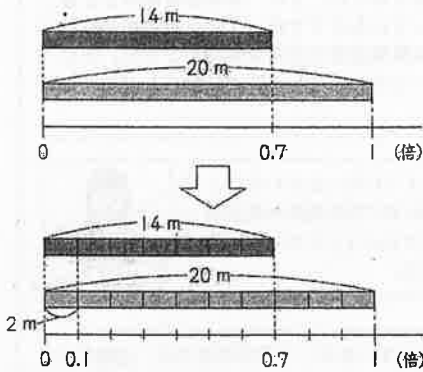
4 (3)


(a) 14 mのテープと20 mのテープがあります。
こはるさんたちは、14 mは20 mの何倍かについて考えています。

 $14 \div 20 = 0.7$ で、0.7倍です。0.7倍というのは、20 mを1としたとき、14 mが0.7にあたることを表していましたね。


 20 mを1としたとき、14 mが本当に0.7にあたるのかな。


れんとさんの話を聞いて、ゆうまさんは、20 mを1としたときに14 mが0.7にあたるわけについて、20 mを10等分した1つ分の長さが0.1にあたることをもとにして考え、下のように図をかいて説明しました。



【ゆうまさんの説明】
 20 mを1としたとき、0.1にあたる長さは2 mです。
14 mは、2 mの7つ分になるので、20 mを1としたときの0.7にあたります。

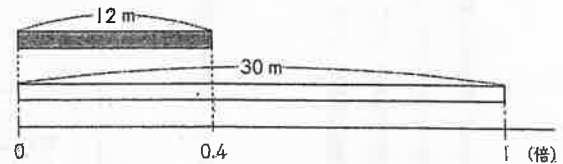
12 mのテープと30 mのテープもあります。
たくみさんたちは、12 mは30 mの何倍かについて考えています。

 $12 \div 30 = 0.4$ で、0.4倍です。

 30 mを1としたとき、12 mが本当に0.4にあたるのかな。

30 mを1としたときに12 mが0.4にあたるわけを、【ゆうまさんの説明】と同じように、0.1にあたる長さがわかるようにして、言葉や数を使って書きましょう。

※ 必要ならば、下の図を使って考えてもかまいません。



【正答例】 4 (3)
30 mを1としたとき、0.1にあたる長さは3 mです。
12 mは、3 mの4つ分になるので、30 mを1としたときの0.4にあたります。

	正答率
山口県	54.4%
全国	51.5%

(3) -③ 具体的な問題と解答状況 - 中学校国語 -

○相当数の生徒ができている点

○ 「質問の意図を捉えること」について、正答率が高い。

1 二

- 1 石川さんの発言の中で納得できなかったことについて、発言の根拠を明らかにするために質問をしている。
- 2 石川さんの発言の中で理解できなかったことについて、発言の意図を確かめるために質問をしている。
- 3 石川さんの発言の中で関心をもったことについて、さらに詳しく知するために質問をしている。
- 4 石川さんの発言の中で共感したことについて、共通点を明確にするために質問をしている。

二 話し合いの一部における青空中学校の山下さんの発言⑤について説明したものと最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

① 各校の取り組みについて、質疑応答に入ります。今日は、原則として、一つの質問に対する答えが終わってから、次の質問をするようにしてください。地域清掃活動を活性化させるために、他校に聞きたいことはありませんか。

第一中学校 本田さん(司会)

② 第一中学校に質問があります。担当する清掃場所を細かく分ける取り組みに興味をもったのですが、その取り組みで清掃活動はどのように活性化したのですか。

青空中学校 山下さん

③ 第一中学校では、清掃場所を細かく分け、担当する場所を自分たちで決めることによって、一人一人が責任をもって活動するようになりました。また、本校は地域の方と合同で清掃活動を行っているのですが、そのための事前打ち合わせに、昨年度は担当場所の代表も参加しました。その結果、地域の方といっそう協力して取り組むことができましたようになりました。

第一中学校 石川さん

④ 一人一人が責任をもって活動するようになったということですね。また、地域の方との打ち合わせに担当場所の代表が参加したことも、活性化につながったということでした。青空中学校の山下さん、よろしいですか。

第一中学校 本田さん(司会)

⑤ はい。ありがとうございます。青空中学校では、生徒だけで清掃活動を行っていますが、今後は地域の方と合同で行うことも検討してみたいと思います。そこで、もう少し質問したいことがあります。第一中学校では、地域の方との合同の清掃活動をどのような手順で進めているのかを、具体的に教えてくださいませんか。

青空中学校 山下さん

⑥ 西中学校でも、地域の方との合同の清掃活動を考えたいと思います。また、実施回数も見直そうと思うのですが、回数を増やしたことで生徒たちの取り組み方がどう変わったのかを、青空中学校に質問したいです。

西中学校 大野さん

【正答】 1 二 3

	正答率
山口県	93.4%
全国	92.5%

●課題のみられる点

● 「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつこと」について、課題がみられる。

3 四

3 次は、夏目漱石の作品「吾輩は猫である」の本のカバーに書かれている「紹介」と「文章の一部」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【紹介】
 中学教師の苦沙弥先生の家で暮らす猫「吾輩」がら見れば、世の中は全くもって滑稽なもの。周囲の様子を観察し、様々に評価する。ユーモアあふれる長編小説である本作は、漱石が二十八歳のときに発表して以来、多くの読者に愛されてきた。今なお、多くの人の共感を呼ぶ名作。

【文章の一部】
 四 「紹介」に「……線部」様々に評価する」とありますが、「文章の一部」では、「吾輩」は「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしていますか。また、あなたは、そのような「吾輩」の接し方をどう思いますか。次の条件1と条件2にしたがつて書きなさい。
 なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間書きを加えたりしてもかまいません。

条件1 「文章の一部」から、「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用した上で、「吾輩」が「黒」に対してどのような接し方をしていることが分かるのかを書け。と。
 条件2 条件1のような「吾輩」の接し方について、あなたの考えを具体的に書け。と。

【正答例】 3 四
 「はなはだ御しやすい猫である」と評価しており、「吾輩」は「黒」の機嫌をとるような接し方をしていることが分かる。私は、このような「吾輩」の接し方はとても賢いと思う。

	正答率
山口県	21.1%
全国	20.5%

○改善傾向がみられる点

○ 「書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考えること」について、改善傾向がみられる。

2 二

2 山田さんは、国語の時間に、「言葉の使い方について」というテーマで意見文を書いていました。次は、山田さんが書いた「意見文の下書き」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。(1)から(4)は、段落の番号を表します。

【意見文の下書き】

1 SNS（ソーシャルネットワークワーキングサービス）などを活用し、インターネット上で文字を通したりやりとりをする機会が増えてきている。私は、SNSでやりとりをする際は、相手にどう伝わるかをよく考えながら言葉を選んで使うべきだと思う。SNSは少ない文字数で自分の思いや考えを表現することが多く、相手に伝えたいことが正しく伝わらないことがある。

2 以前、私は次のような経験をした。SNSを使い、みんなと待ち合わせの相談をしていたときのことである。

一人の友達に対して、待ち合わせの場所までの交通手段を尋ねるつもりで「何で来るの。」と書いたところ、「べうして行ってはダメなの。」という返信が来て、はっとさせられたことがあった。友達は、私の言葉を「なぜ来るのか。」という意味で捉えてしまったのだ。そのとき私が、友達に誤解を生まないようにいねいに書いていれば、このようなことは起こらなかっただろう。

3 皆さんの中には、友達同士であれば短い言葉でも十分に意思疎通が図れると考えたり、短い言葉でやりとりができる手軽さこそがSNSのよさだと考えたりする人もいるだろう。しかし、伝えたいことが正しく伝わらなければ、私が経験したように相手に誤解を与え、不快な思いをさせてしまうこともあるのだ。

4 SNSで自分の思いや考えを表現する場合には、内容を相手に正しく伝えるために、言葉を十分に吟味して使うことが大切だ。少なくともあの経験以来、私は、SNSを使ってやりとりをする際には、自分が書いた言葉が必ず読み返してから発信するようにしている。

二 山田さんが書いた「意見文の下書き」の構成はどのような工夫がありますか。複数の段落に着目して、あなたの考えを簡潔に書き、その際、(1) (4)などの段落の番号を示しながら書くこと。
なお、読み返して文章を直したときは、一筆線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

【正答例】 2 二

1段落で自分の意見を述べ、4段落で繰り返して述べるという工夫があり、伝えたいことが明確になっていてよいと思う。

	正答率
山口県	75.5%
全国	74.5%

(3) -④, 具体的な問題と解答状況 - 中学校数学 -

○相当数の生徒ができている点

○ 「与えられたデータから中央値を求めること」について、正答率が高い。

5 下の記録は、ある中学校の男子生徒10人が反復横とびを20秒間行ったときの結果を、回数の少ない方から順に並べたものです。

記録

43	46	46	52	53	55	56	56	56	57
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

(単位: 回)

反復横とびの記録の中央値を求めなさい。

【正答】 5 54

	正答率
山口県	85.6%
全国	84.5%

○ 「ヒストグラムからある階級の度数を読み取ること」について、正答率が高い。

8 桃花さんは、5月にA市のキャンプ場に行くことになりました。キャンプの準備をするために、キャンプ場の過ごしやすさについて、気候に着目し、A市の昨年5月の最高気温、最低気温、日照時間、最大瞬間風速、降水量をインターネットで調べました。さらに、調べた最高気温から最低気温をひいて気温差を求め、下の表のようにまとめました。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

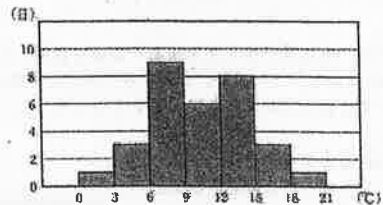
(1) 桃花さんは、前ページの調べたこと表から、気温差が大きい日や小さい日があることが気になり、気温差の分布のようすを、次のヒストグラムにまとめました。例えば、気温差が3℃以上6℃未満の日が3日あったことを表しています。

調べたこと

日付	最高気温 (℃)	最低気温 (℃)	気温差 (℃)	日照時間 (時間)	最大瞬間風速 (m/秒)	降水量 (mm)
1日	20.9	6.9	14.0	5.8	7.4	0.0
2日	25.9	9.1	16.8	12.0	7.3	0.0
3日	27.3	12.8	14.5	10.3	8.2	0.0
4日	20.3	11.8	8.5	2.5	9.5	0.0
5日	23.5	9.4	14.1	9.9	11.9	0.5
6日	13.2	5.5	7.7	0.1	8.7	2.0
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
31日	20.9	9.2	11.7	2.2	9.1	0.0

○日照時間とは、1日のうちで、日光によってものの影ができた時間の合計のこと。

気温差のヒストグラム



気温差が9℃以上12℃未満の階級の度数を求めなさい。

【正答】 8 (1) 6

	正答率
山口県	85.0%
全国	83.0%

●課題のみられる点

● 「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること」について、課題がみられる。

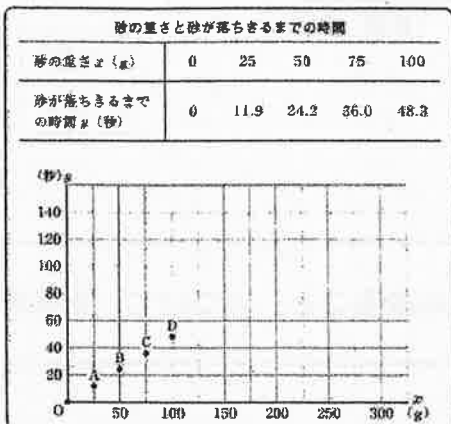
	正答率
山口県	28.3%
全国	27.7%

7 (2)

7 学級委員の健斗さんは、2分間スピーチの時間をはかるための秒時計をペットボトルで作ることにしました。その秒時計は、ペットボトルに砂を入れ、砂を落とすための穴をあけた厚紙をペットボトルの蓋にはさんで作ります。
健斗さんは、ペットボトルに入れる砂の重さを決めると、砂が落ちきるまでの時間が決まるとききました。そこで、砂の重さが x (g) のときに、砂が落ち始めてから落ちきるまでの時間を y (秒) とし調べ、その結果を、次のように表にまとめ、下のグラフに表しました。



調べた結果



(2) 健斗さんは、2分をはかるために、秒時計に必要な砂の重さを調べます。

そこで、調べた結果のグラフにおいて、原点 O から点 D までの点が一直線上にあるとし、砂の重さが増えてもすべての点が一直線上にあると考えることにしました。

このとき、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明しなさい。ただし、実際に必要な砂の重さを求める必要はありません。

【正答例】 7 (2) 原点 O を通る直線のグラフをかき、 $y=120$ のときの x 座標を読む。

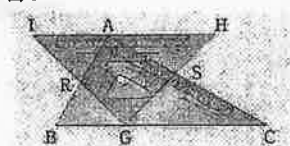
● 「ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現すること」について、課題がみられる。

9 (3)

(3) 二人は、左に動かす三角定規を、斜辺を底辺としたときの高さが $\triangle ABC$ と等しい 45° 、 45° 、 90° の三角定規に変えて、重なったとこにできる四角形について考えることにしました。

右の図6のように、 45° 、 45° 、 90° の三角定規を $\triangle GHI$ とし、辺 AB と辺 IG 、辺 HG と辺 AC の交点をそれぞれ点 R 、 S とすると、四角形 $ARGS$ ができます。

図6



点 G が辺 BC 上にあり、辺 HI が辺 BC と平行になるように、 $\triangle GHI$ を左に動かしたとき、二人は、四角形 $ARGS$ が長方形にならないと考え、次のような図7、図8をかきました。

図7

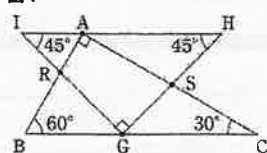
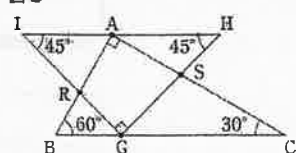


図8



二人は、図7、図8で、四角形 $ARGS$ が長方形にならないことから、四角形 $ARGS$ がどんな四角形になるか話し合っています。

直輝さん「 $\triangle GHI$ を動かすと四角形 $ARGS$ の4つの辺の長さはそれぞれ長くなったり短くなったりするよ。角の大きさはどうなるかな。」
由衣さん「 $\angle RAS$ と $\angle RGS$ の大きさはそれぞれ 90° で変わらないね。 $\angle ARG$ と $\angle ASG$ の大きさはどうかな。」

$\triangle GHI$ を動かしても、四角形 $ARGS$ の $\angle ARG$ と $\angle ASG$ の和はいつでも 180° になります。このほかに、 $\angle ARG$ 、 $\angle ASG$ の大きさについて、いつでもいえることを書きなさい。

	正答率
山口県	26.5%
全国	28.8%

【正答例】 9 (3) $\angle ARG$ 、 $\angle ASG$ のそれぞれの大きさは変わらない。

○改善傾向がみられる点

○ 「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること」について、改善傾向がみられる。

6 (2)

6 自然数を5つずつに区切った表があります。この表で、縦に2つ、横に2つの数が入る四角で4つの数を囲みます。例えば、右の図1のように四角で4つの数を囲むとき、左上の数は3、右上の数は4、左下の数は8、右下の数は9になります。

図1

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15

優太さんと真菜さんは、右の図2のように、4つの数を囲んで、それら4つの数の和がどんな数になるかを調べています。

図2

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25
26	27	28	29	30
31	32	33	34	35

1, 2, 6, 7のとき $1 + 2 + 6 + 7 = 16 = 4 \times 4$
 9, 10, 14, 15のとき $9 + 10 + 14 + 15 = 48 = 4 \times 12$
 22, 23, 27, 28のとき $22 + 23 + 27 + 28 = 100 = 4 \times 25$

優太さんは、これらの結果から、四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になると予想しました。

(2) 二人は、四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることが成り立つかどうかについて話し合っています。

優太さん「左上の数が1のとき、左下の数が6になっているね。四角で4つの数を囲むとき、左上の数に5をたすと左下の数になっているよ。」
 真菜さん「そうなるのは、自然数を5つずつで区切っているからだね。」
 優太さん「左上の数を n とすると、左下の数は $n+5$ と表すことができるね。」
 真菜さん「右上の数と右下の数も n を使って表して、4つの数の和について調べてみよう。」

「四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になる」という優太さんの予想が成り立つことの説明を完成しなさい。

説明

n を自然数として、四角で囲んだ4つの数のうち、左上の数を n とすると、右上の数は $n+1$ 、左下の数は $n+5$ 、右下の数は $n+6$ と表される。これら4つの数の和は、

$$n + (n + 1) + (n + 5) + (n + 6)$$

$$=$$

【正答例】6 (2)

$n+3$ は自然数だから、 $4(n+3)$ は4の倍数である。したがって、四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数である。

	正答率
山口県	63.1%
全国	61.8%

2 質問紙調査の結果

※R2山口県のデータについては、昨年10月に県が独自に実施した質問紙調査の結果であり、「参考値」として記載（全国調査は実施していない）

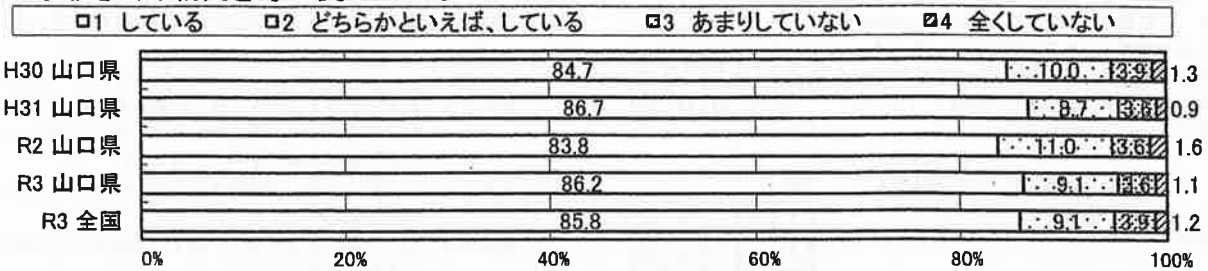
(1) 児童生徒質問紙

① 子どもの意識・生活習慣

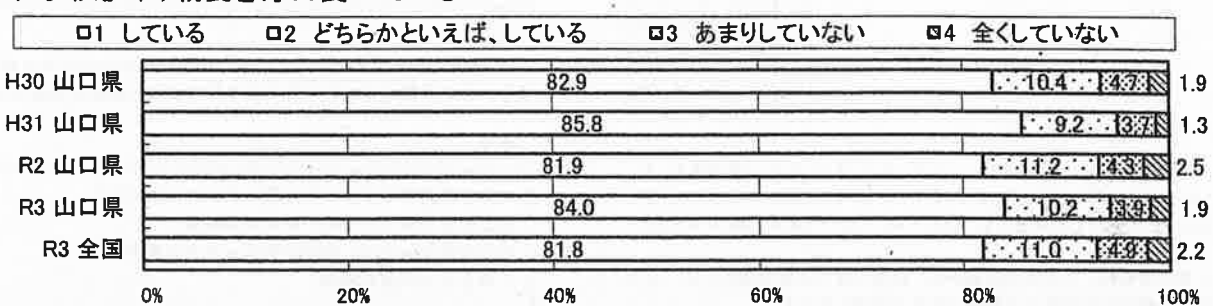
ア 朝食を毎日食べている

○ 朝食を毎日食べていると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高く、前年度より増加している。

【小学校】(1)朝食を毎日食べている



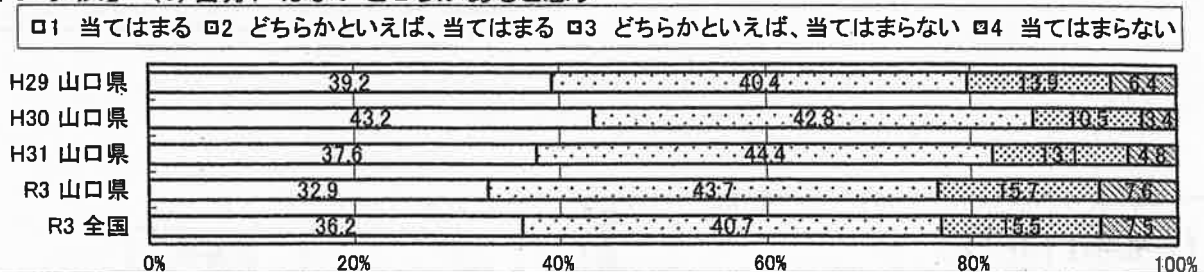
【中学校】(1)朝食を毎日食べている



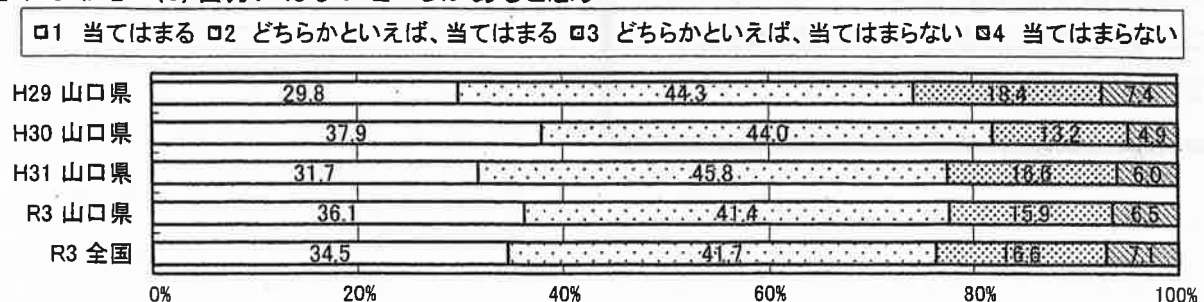
イ 自分にはよいところがある

● 自分にはよいところがあると思うと肯定的に回答した児童生徒の割合は、減少傾向が見られ、特に小学校は全国と比べて低い。

【小学校】(6)自分にはよいところがあると思う



【中学校】(6)自分にはよいところがあると思う

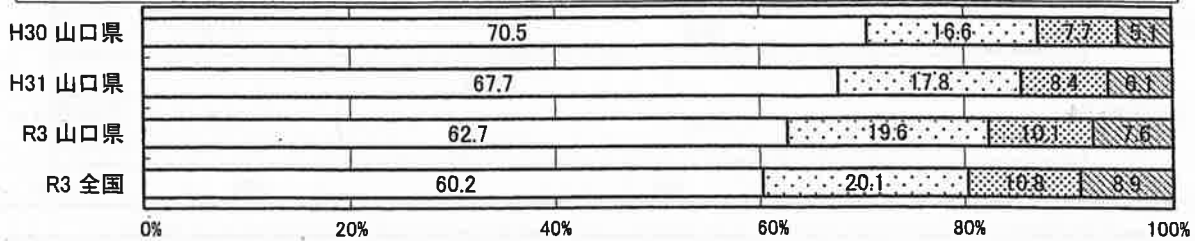


ウ 将来の夢や目標を持っている

- 将来の夢や目標を持っていると回答している児童生徒の割合は、全国と比べて高いものの、減少傾向がみられる。

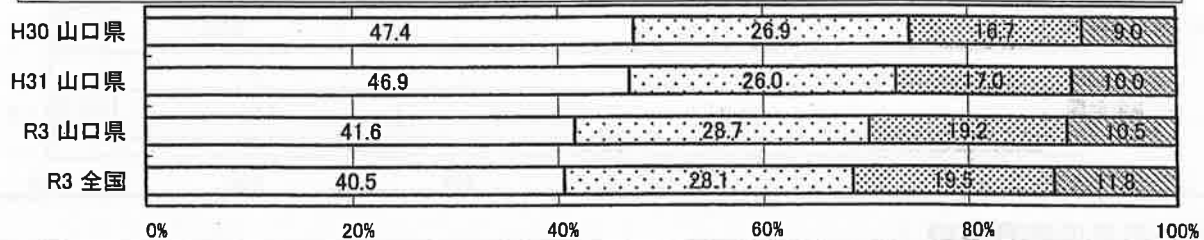
【小学校】 (7) 将来の夢や目標を持っている

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



【中学校】 (7) 将来の夢や目標を持っている

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない

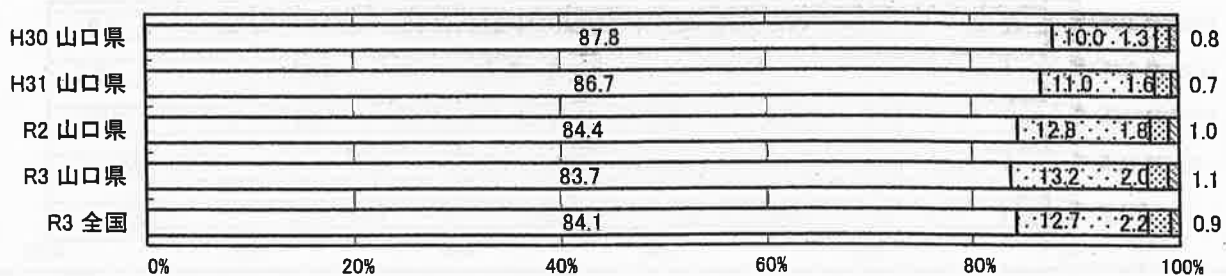


エ いじめは絶対にいけない

- いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うと回答した児童生徒の割合は、前年度より減少しており、特に小学校は全国と比べて低い。

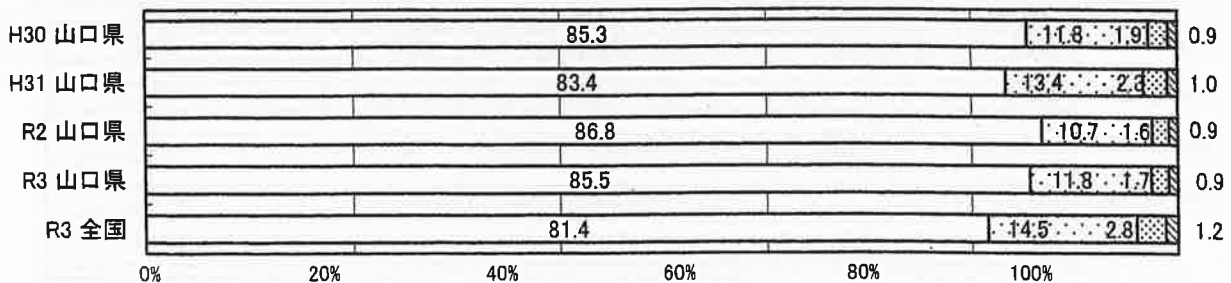
【小学校】 (11) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



【中学校】 (11) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない

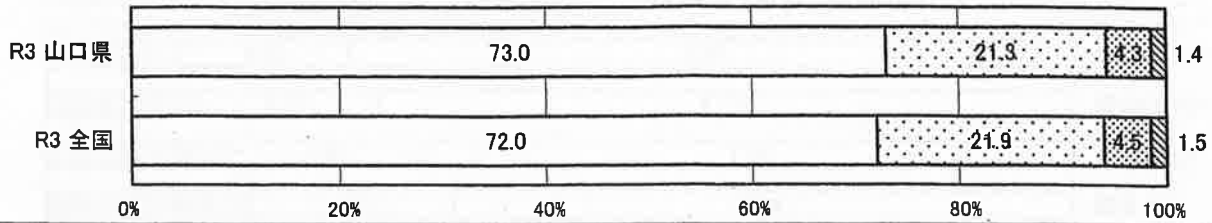


オ 友達と協力するのは楽しい

○ 友達と協力するのは楽しいと回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

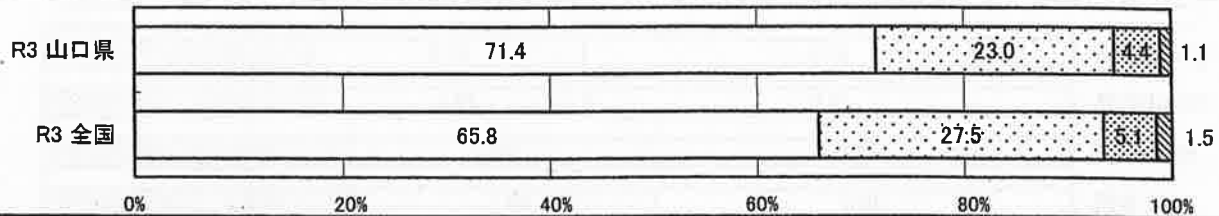
【小学校】 (16) 友達と協力するのは楽しい

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



【中学校】 (16) 友達と協力するのは楽しい

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない

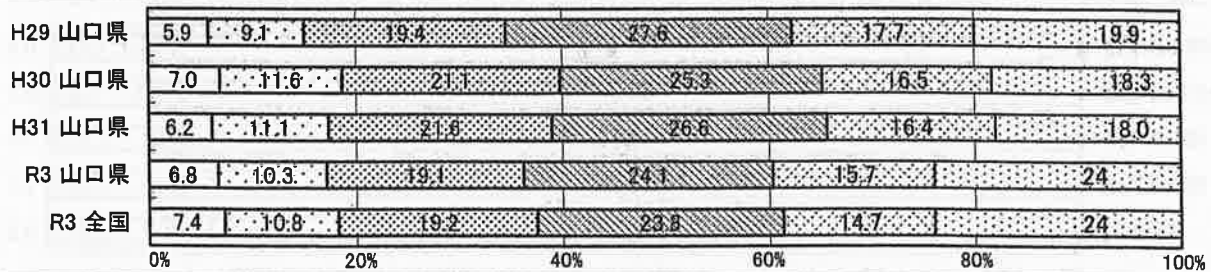


カ 平日の読書時間

● 学校の授業時間以外に、平日、1日当たり30分以上読書をする児童生徒の割合は減少傾向にあり、特に小学校は全国と比べても低い。

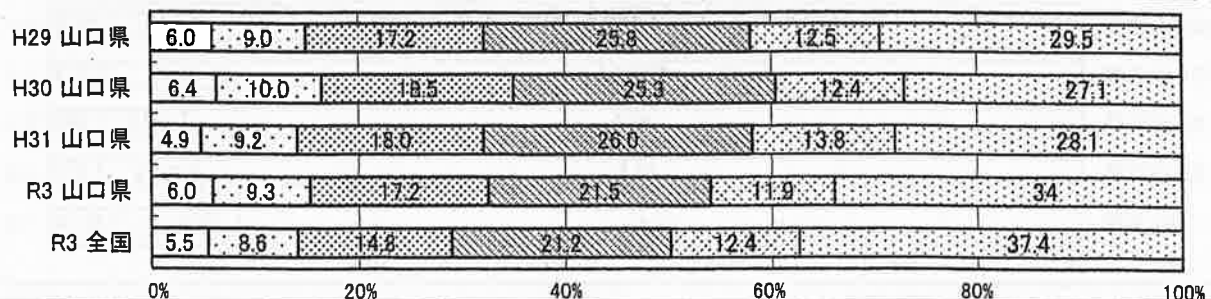
【小学校】 (21) 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか

□1 2時間以上 □2 1時間～2時間 □3 30分～1時間 □4 10分～30分 □5 10分より少ない □6 全くしない



【中学校】 (21) 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか

□1 2時間以上 □2 1時間～2時間 □3 30分～1時間 □4 10分～30分 □5 10分より少ない □6 全くしない

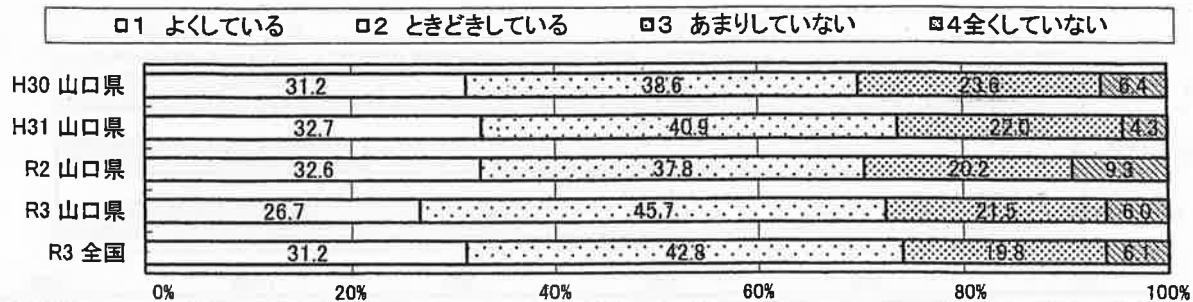


② 学習習慣・ICT

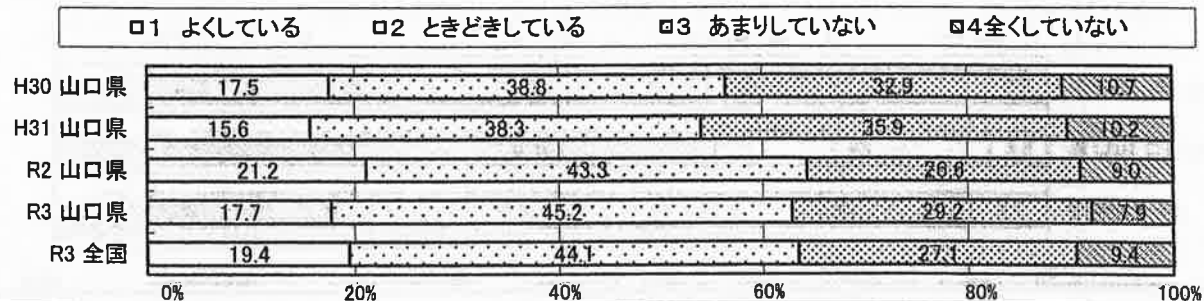
ア 自分で計画を立てた学習

- 家で自分で計画を立ててよく勉強していると回答した児童生徒の割合は前年度より減少しており、全国と比べても低い。

【小学校】(17)家で自分で計画を立てて勉強をしていますか



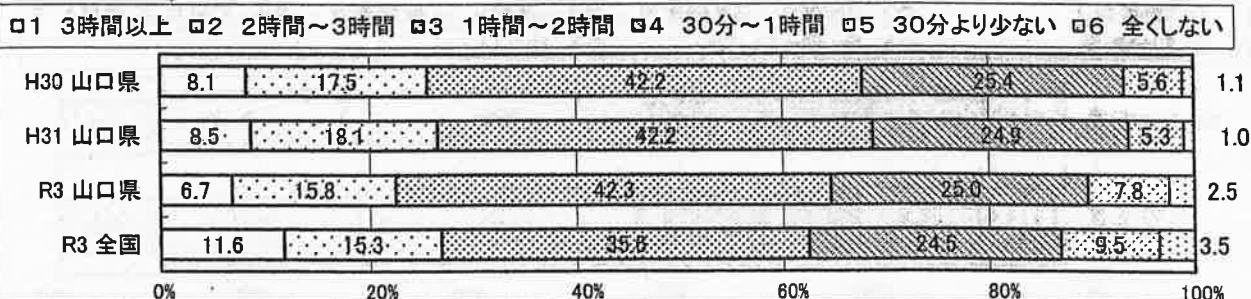
【中学校】(17)家で自分で計画を立てて勉強をしていますか



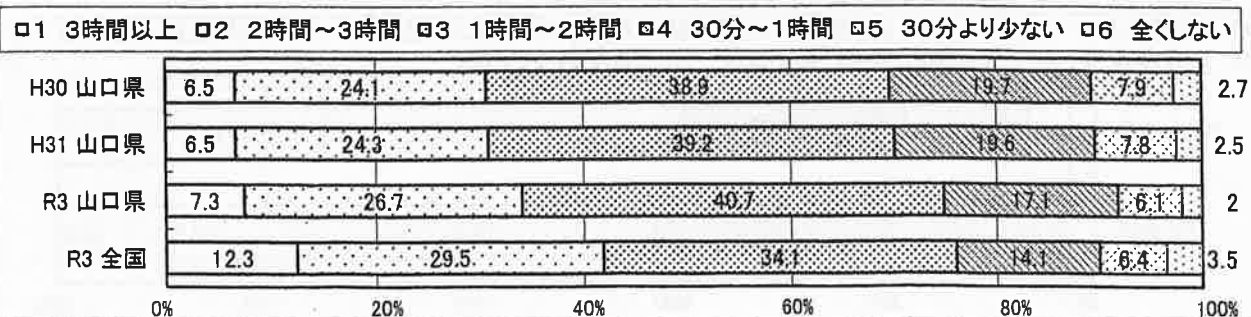
イ 平日の学習時間

- 学校の授業時間以外に、平日、3時間以上、2時間～3時間勉強すると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて低い。

【小学校】(18)学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



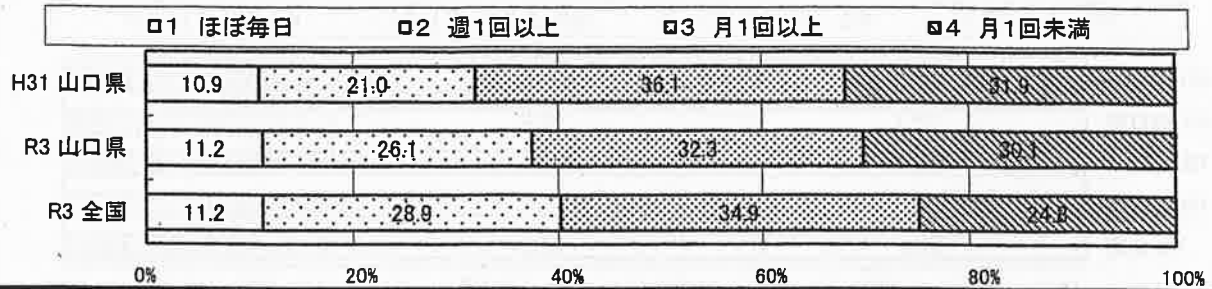
【中学校】(18)学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



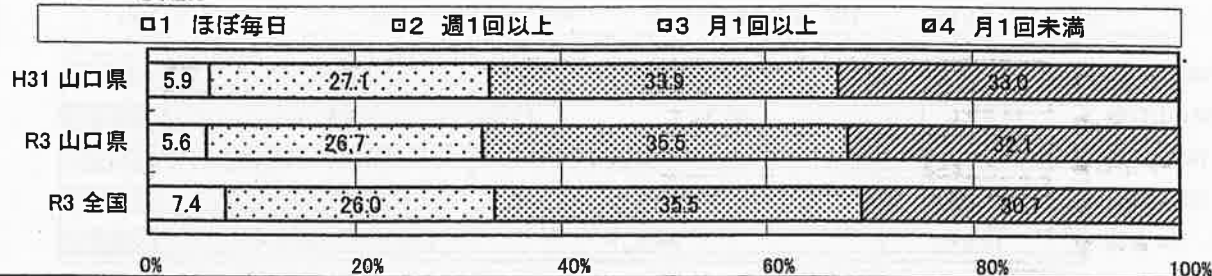
ウ コンピュータやICTをどの程度活用したか

- 前学年までに受けた授業で、コンピュータなどのICTを月1回以上使用したと回答した児童生徒の割合は、増加傾向にあるものの、全国と比べて低い。

【小学校】(26)5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか



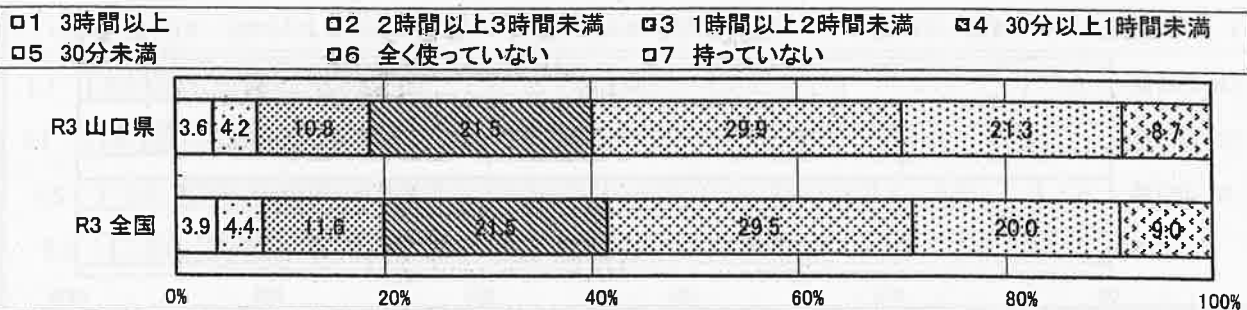
【中学校】(26)1,2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか



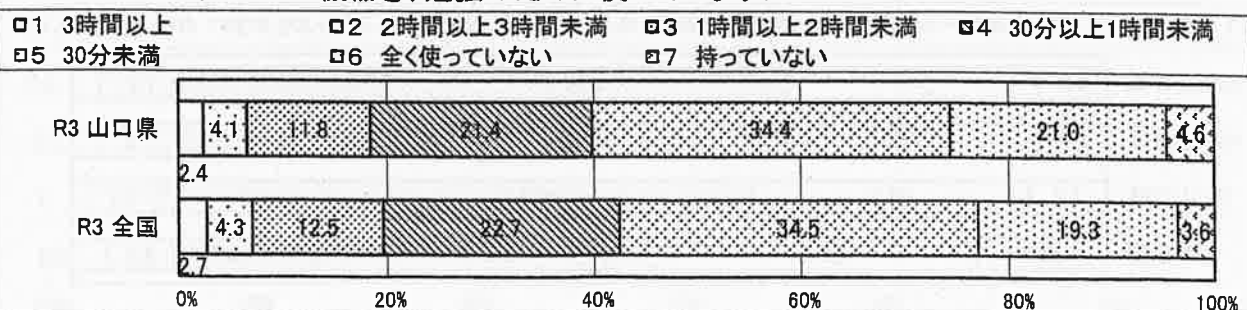
エ 勉強のためのICT機器の使用時間

- 平日、1日当たりにICT機器を30分以上勉強のために使っている児童生徒の割合は、全国と比べて低い。

【小学校】(29)普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか



【中学校】(29)普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか



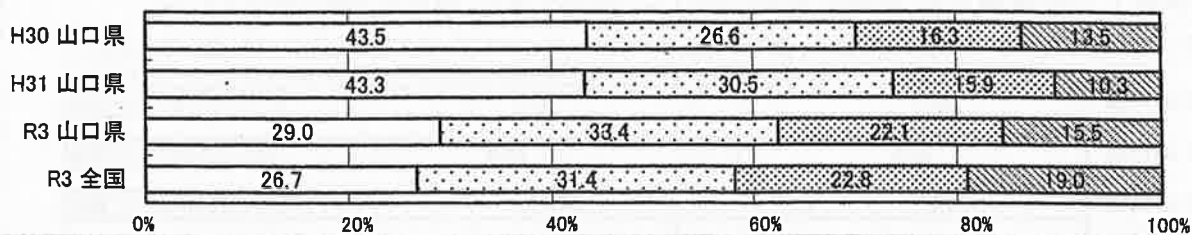
③ 地域や社会との関わり

ア 地域行事への参加

○ 今住んでいる地域の行事に参加していると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

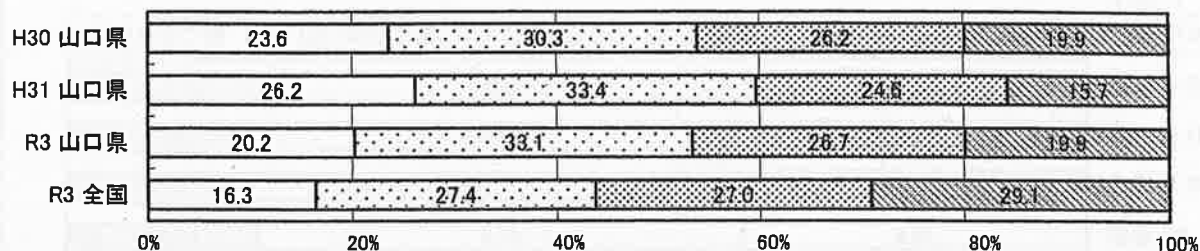
【小学校】(24)今住んでいる地域の行事に参加している

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



【中学校】(24)今住んでいる地域の行事に参加している

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



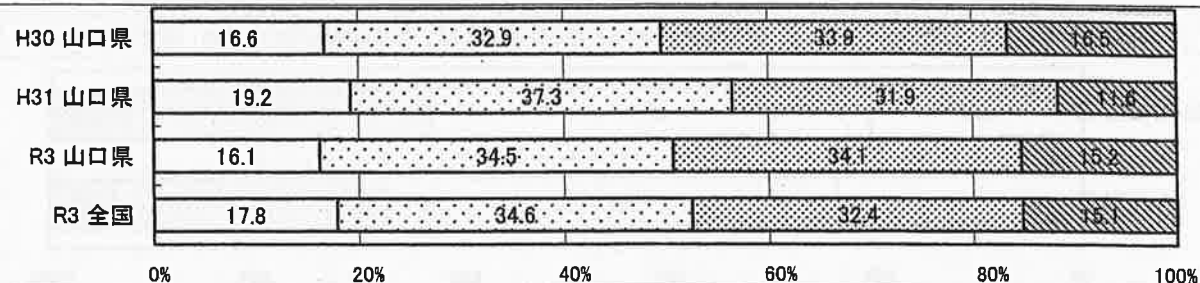
イ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考える

● 小学校では、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあると回答した児童の割合は、全国と比べて低く、一昨年度より減少している。

○ 中学校では、全国と比べて高く、増加傾向がみられる。

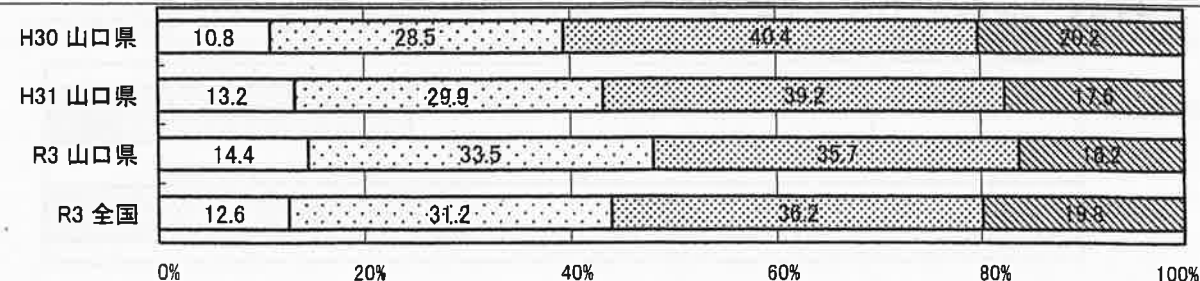
【小学校】(25)地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



【中学校】(25)地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



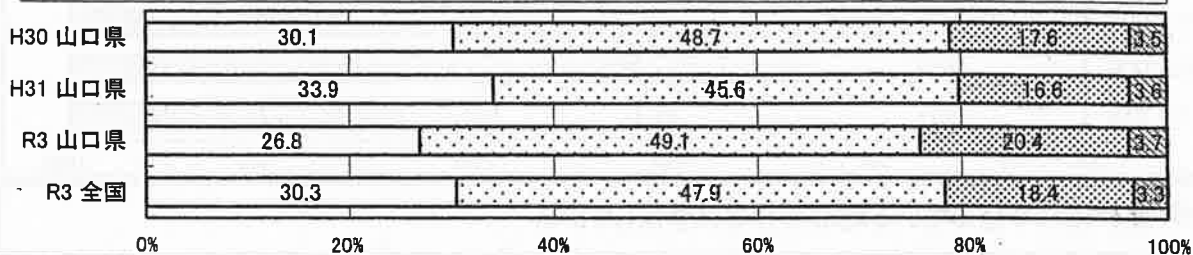
④ 学びに向かう姿勢・授業

ア 課題の解決に向けた主体的な取組

- 小学校では、授業において課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童の割合は、全国と比べて低く、一昨年度より減少している。
- 中学校では、全国と比べて高く、増加傾向がみられる。

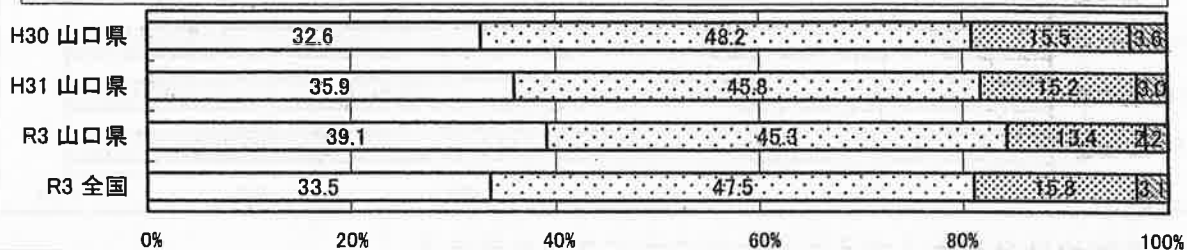
【小学校】(33)授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



【中学校】(33)授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない

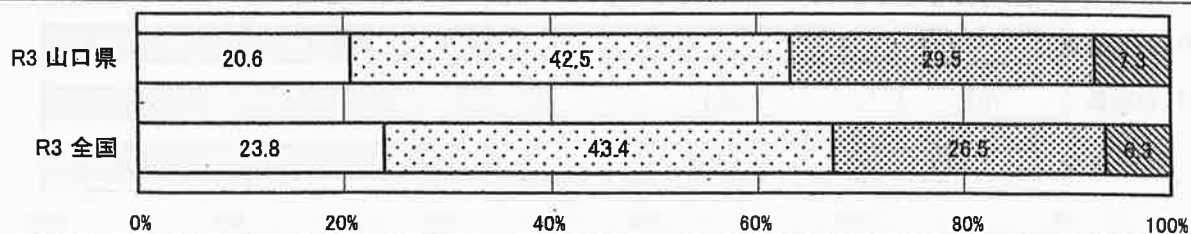


イ 各教科で学んだことを生かしながら、新しいものを作り出す活動

- 小学校では、授業において各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、新しいものを作り出したりする活動を行っていた児童の割合は、全国と比べて低い。
- 中学校では、全国と比べて高い。

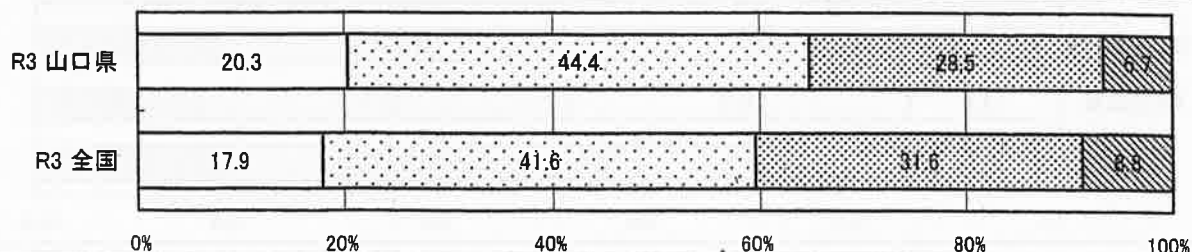
【小学校】(34)授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていた

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



【中学校】(34)授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていた

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない

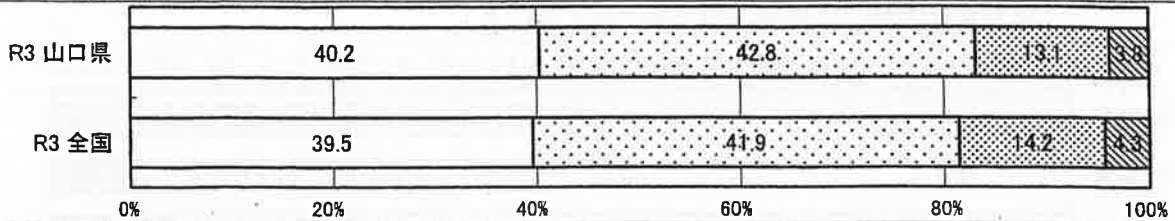


ウ 学習者にあった教え方、教材、学習時間

○ 授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間になっていたと回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

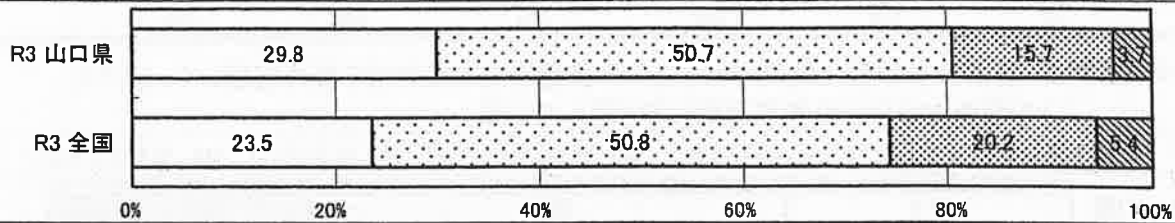
【小学校】(35)授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



【中学校】(35)授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない

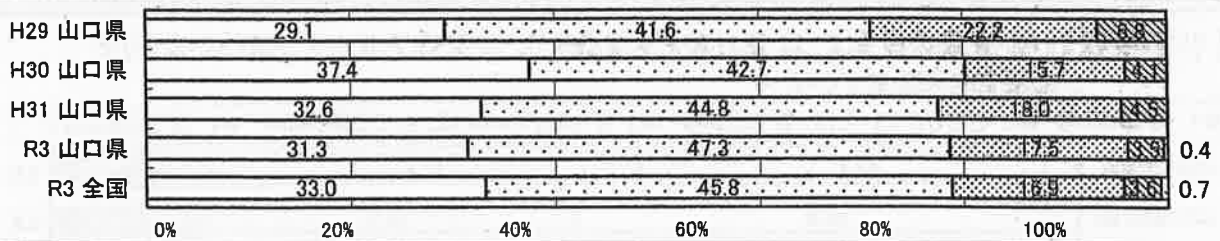


エ 話し合いで自分の考えを深めたり広げたりする

○ 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広めたりすることができていると回答した児童生徒の割合は、小学校では、全国と同程度であり、中学校では、全国より高い

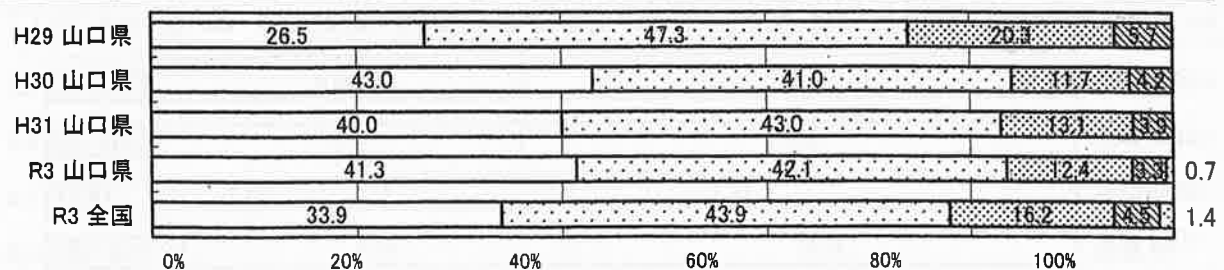
【小学校】(37)学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない
 □4 当てはまらない □5 話し合う活動を行っていない



【中学校】(37)学級の生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない
 □4 当てはまらない □5 話し合う活動を行っていない

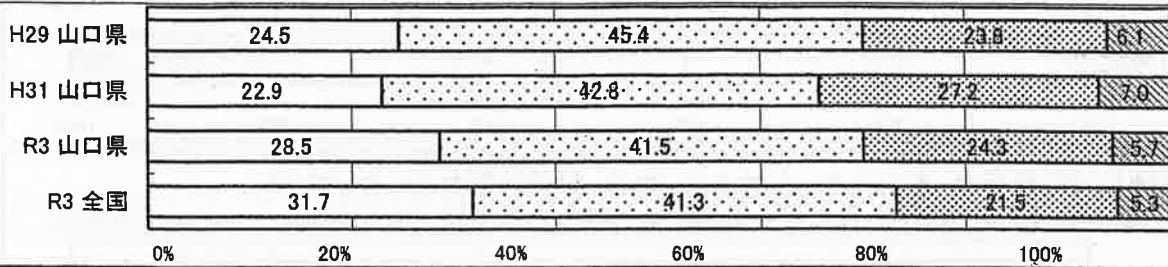


オ 総合的な学習の時間での情報収集や発表等の学習活動

- 小学校では、総合的な学習の時間に、自分の課題を立てて情報収集したり、発表したりするなどの学習活動に取り組む児童の割合は、一昨年度よりも高いものの、全国と比べて低い。
- 中学校では、全国と比べて高いものの、減少傾向がみられる。

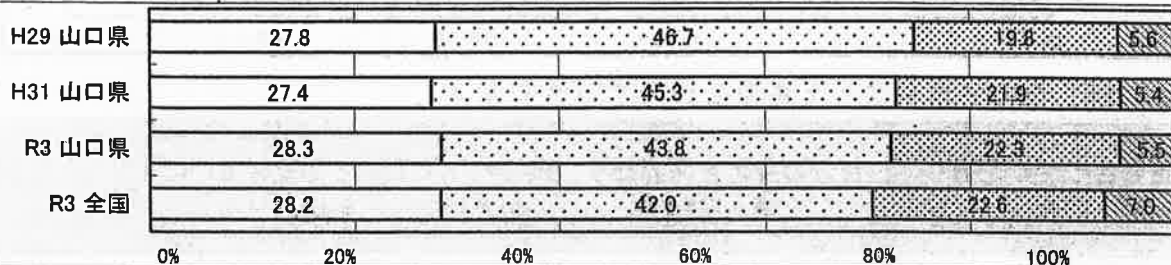
【小学校】(39)総合的な学習の時間では、自分の課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



【中学校】(39)総合的な学習の時間では、自分の課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない

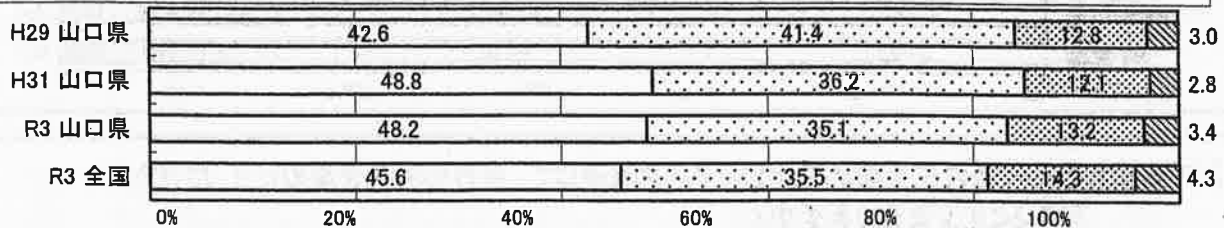


カ 道徳の時間で考えを深める、グループで話し合う

- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

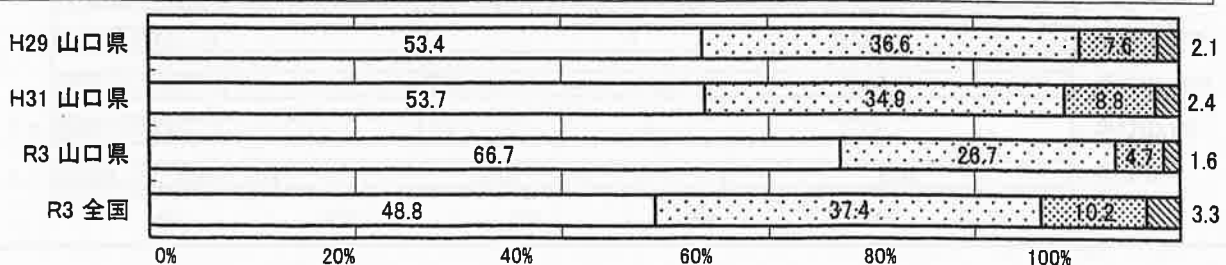
【小学校】(42)道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



【中学校】(42)道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



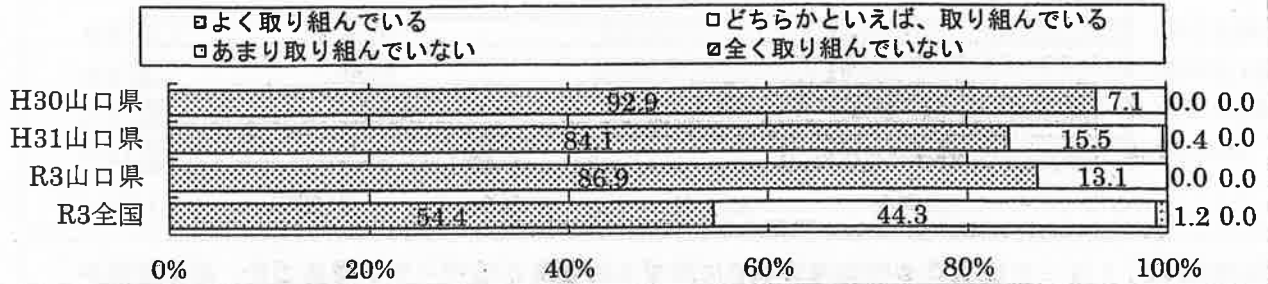
(2) 学校質問紙

① 学校運営

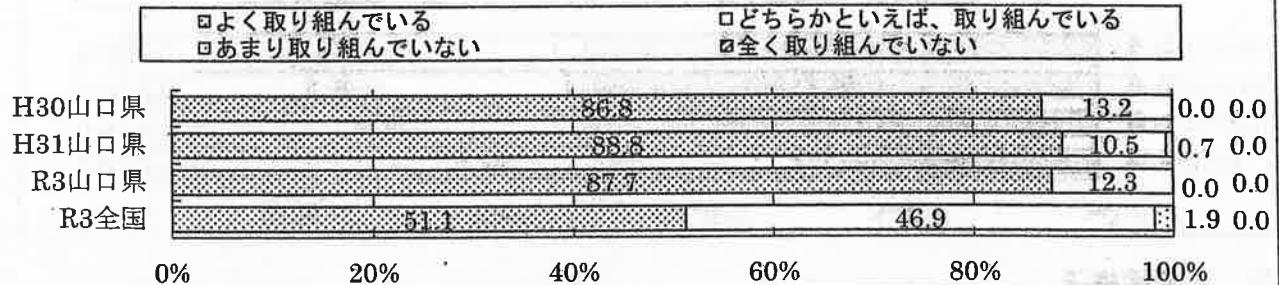
ア 学校としての組織的な取組

○ 学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいる学校の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】 17 学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいる



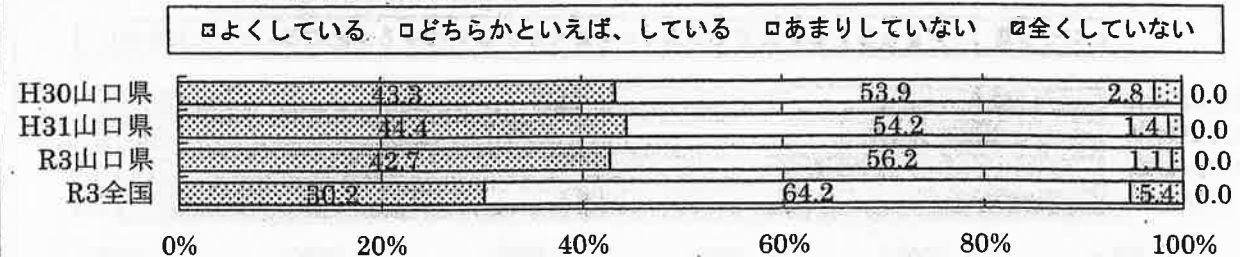
【中学校】 17 学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいる



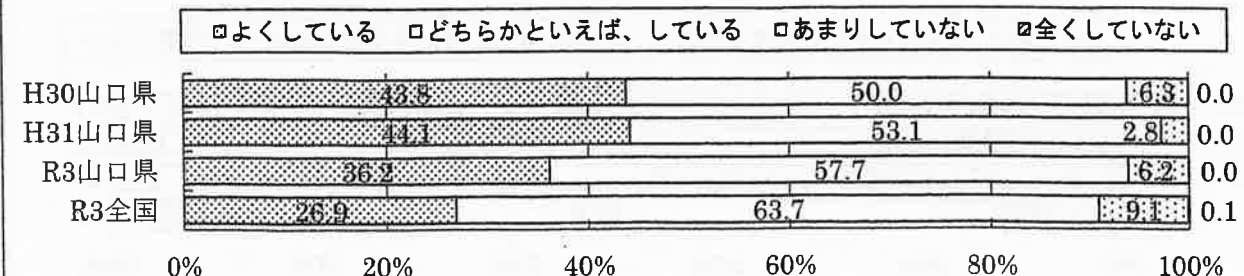
イ 横断的な視点で、教育の内容を組織的に配列して指導計画を作成

● 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している学校の割合は、全国と比べて高いものの、例年より減少している。

【小学校】 18 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している



【中学校】 18 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している

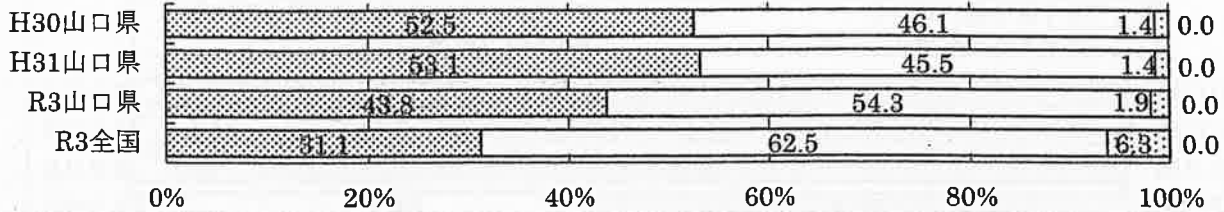


ウ 子どもの姿や地域に関するデータ等に基づいたPDCAサイクルの確立

- 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データに基づき、教育課程を編成し、実施し評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している学校の割合は、全国と比べて高いものの、減少傾向にある。

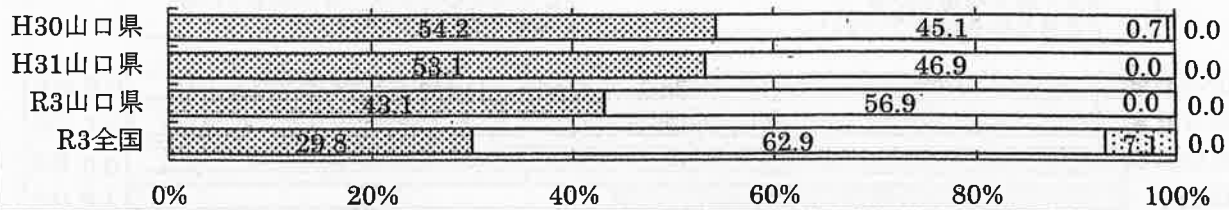
【小学校】 19 児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している

□よくしている □どちらかといえば、している □あまりしていない □全くしていない



【中学校】 19 生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している

□よくしている □どちらかといえば、している □あまりしていない □全くしていない



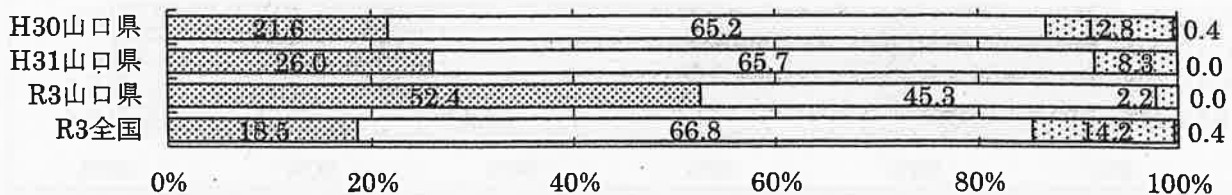
② 学習指導

ア 課題解決に向けて主体的に取り組む子どもの姿

- 授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる学校の割合は全国と比べて高く、「そう思う」と回答している学校の割合が、例年より高まっている。

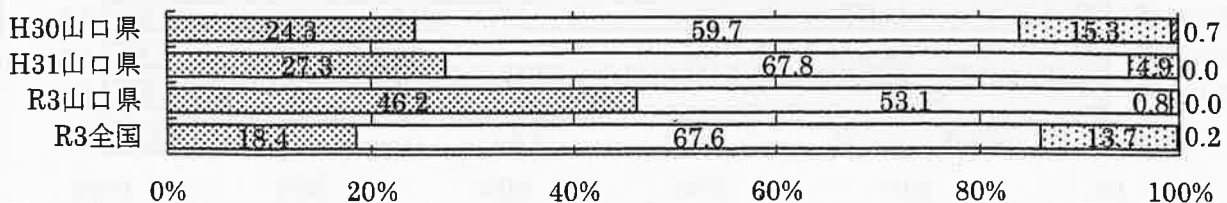
【小学校】 29 児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる

□そう思う □どちらかといえばそう思う □どちらかといえばそう思わない □そう思わない



【中学校】 29 生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる

□そう思う □どちらかといえばそう思う □どちらかといえばそう思わない □そう思わない

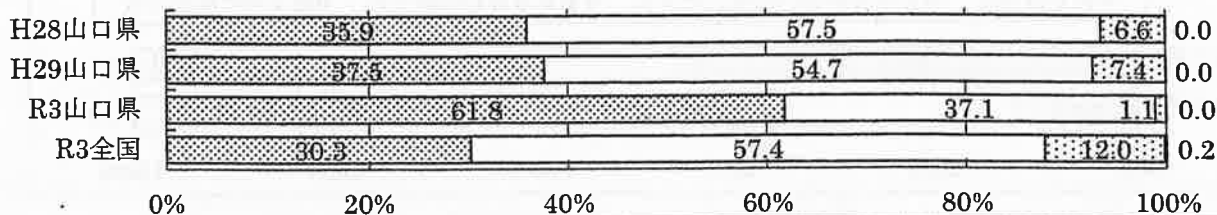


イ 学習活動の工夫

○ 授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた学校の割合は全国と比べて高く、「よく行った」と回答している学校の割合が、例年より高まっている。

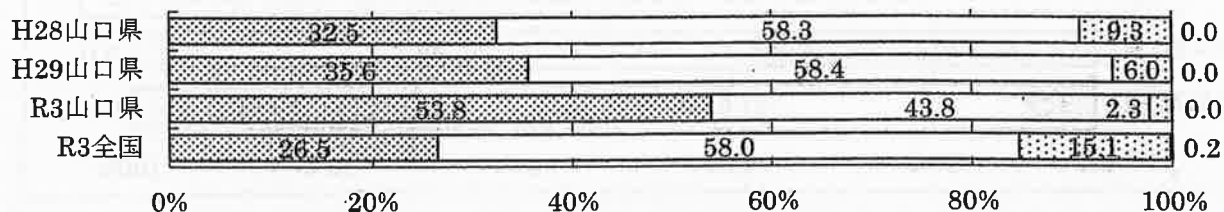
【小学校】 34 授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた

□よく行った □どちらかといえば、行った □あまり行わなかった □全く行わなかった



【中学校】 34 授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた

□よく行った □どちらかといえば、行った □あまり行わなかった □全く行わなかった

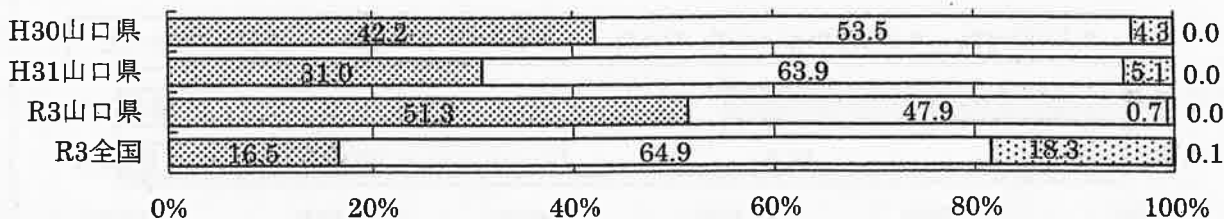


ウ 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かす機会の設定

○ 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた学校の割合は、全国と比べて高く「よく行った」と回答している学校の割合が、例年より高まっている。

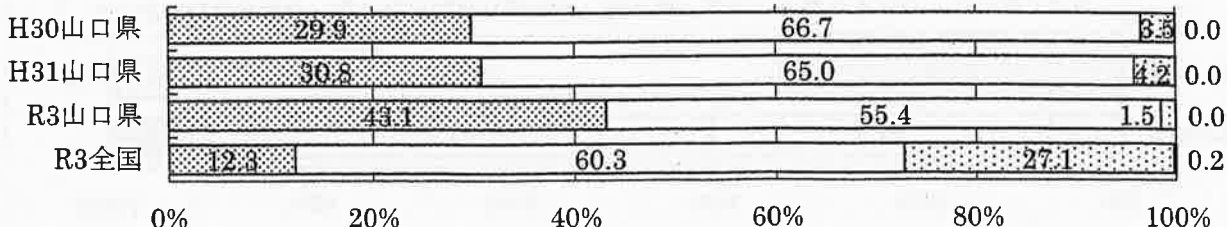
【小学校】 37 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた

□よく行った □どちらかといえば、行った □あまり行わなかった □全く行わなかった



【中学校】 37 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた

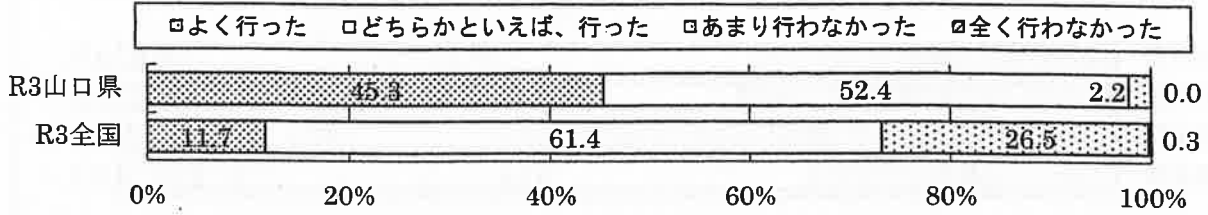
□よく行った □どちらかといえば、行った □あまり行わなかった □全く行わなかった



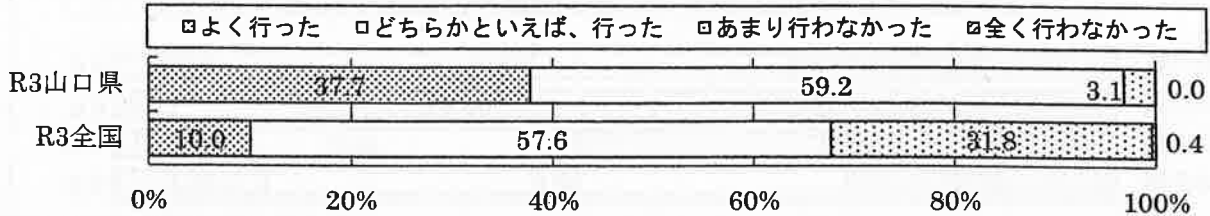
エ 過程を重視した学習指導

○ 知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に想像したりすることに向かう過程を重視した学習を計画的に取り入れた学校の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】 38 知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に想像したりすることに向かう過程を重視した学習を、計画的に取り入れた



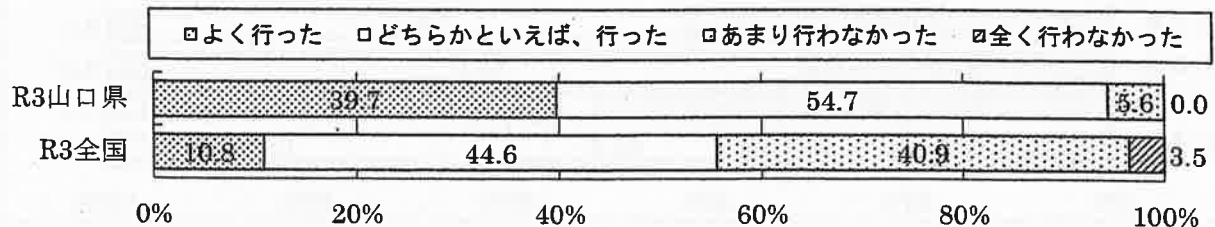
【中学校】 38 知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に想像したりすることに向かう過程を重視した学習を、計画的に取り入れた



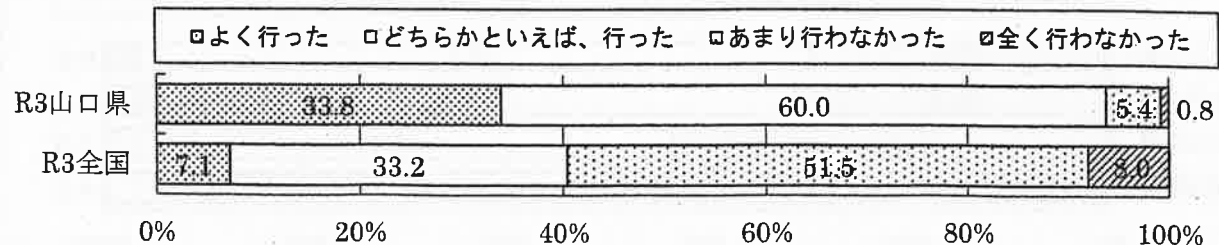
オ 調べたことや考えたことを文章でまとめる指導

○ 各教科等の授業などで、調べたことや考えたことを400字詰め原稿用紙2枚、3枚程度で児童生徒にまとめさせる指導をした学校の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】 39 各教科等の授業などで、調べたことや考えたことを800字（400字詰め原稿用紙2枚）程度で児童にまとめさせたことがあった



【中学校】 39 各教科等の授業などで、調べたことや考えたことを1200字（400字詰め原稿用紙3枚）程度で生徒にまとめさせたことがあった

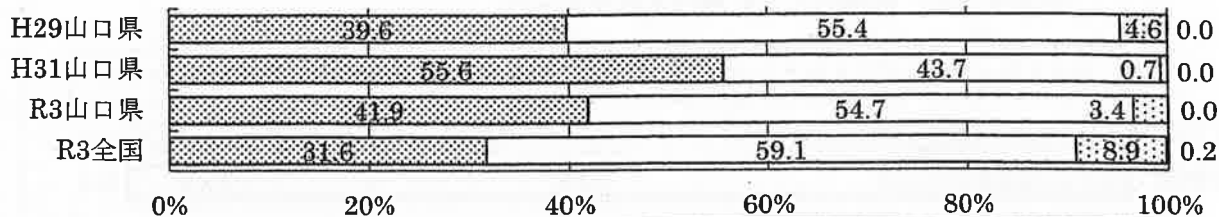


カ 総合的な学習の時間における指導

- 総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている学校の割合は、全国と比べて高いものの、例年より減少している。

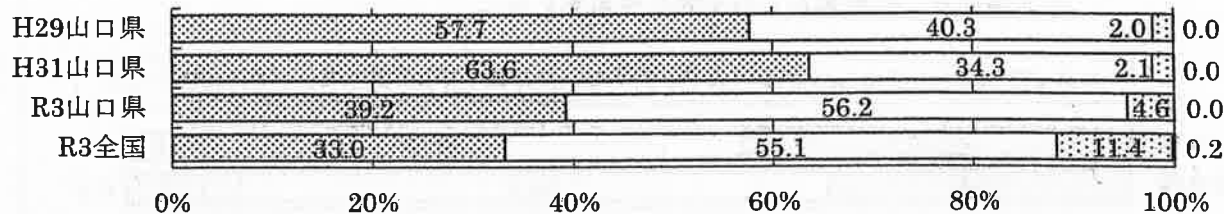
【小学校】 4 1 総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている

□よくしている □どちらかといえば、している □あまりしていない □全くしていない



【中学校】 4 1 総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている

□よくしている □どちらかといえば、している □あまりしていない □全くしていない

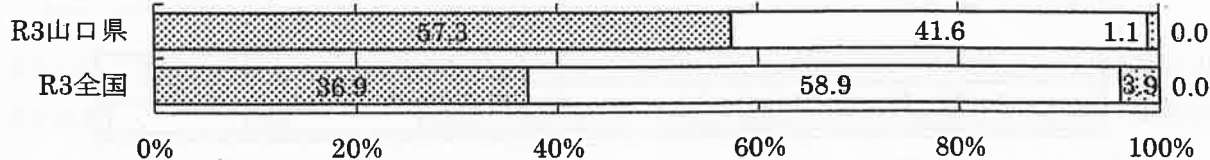


キ 指導改善や学習改善につながる学習評価

- 児童生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かすことを心がけた学校の割合は、全国と比べて高い。

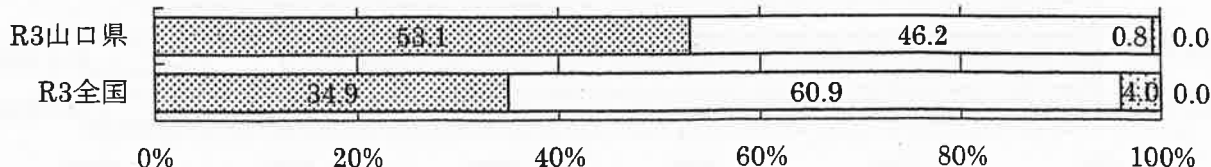
【小学校】 4 5 児童の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かすことを心がけた

□よく行った □どちらかといえば、行った □あまり行わなかった □全く行わなかった



【中学校】 4 5 生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かすことを心がけた

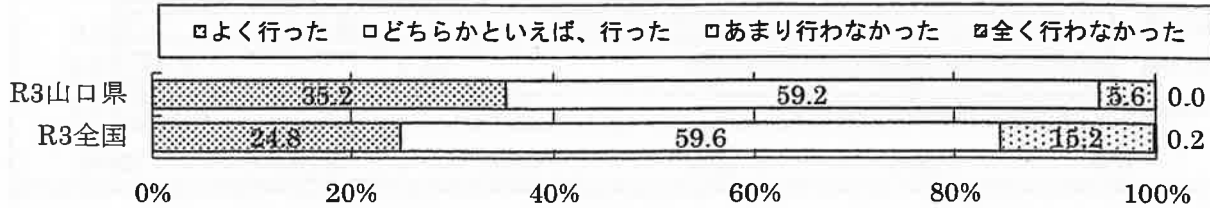
□よく行った □どちらかといえば、行った □あまり行わなかった □全く行わなかった



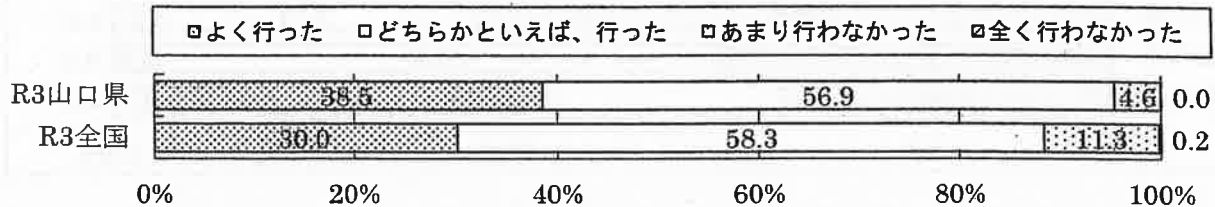
ク 評価規準や評価方法の明確化・共有化、校内組織の活用

- 創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用など、組織的かつ計画的な取組をした学校の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】 47 創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用など、組織的かつ計画的な取組をした



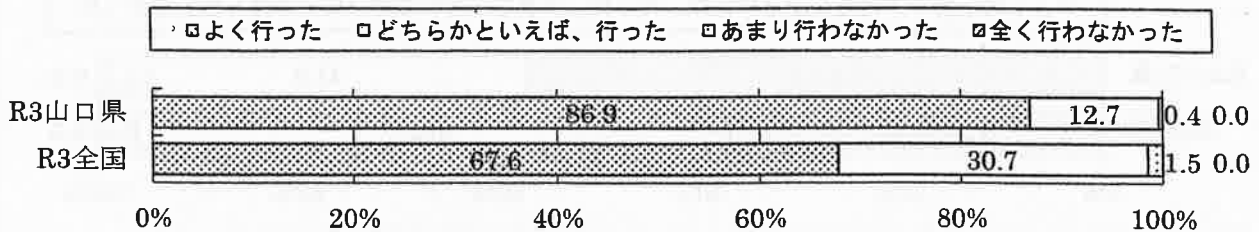
【中学校】 47 創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用など、組織的かつ計画的な取組をした



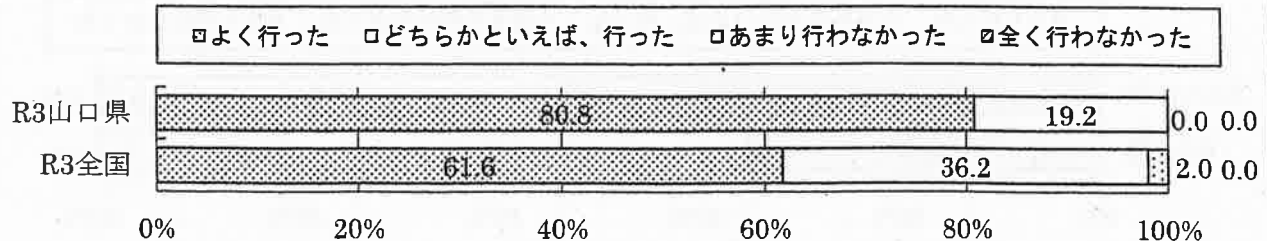
ケ 目標（めあて・ねらい）と振り返りのある授業

- 授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた学校の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】 48 授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた



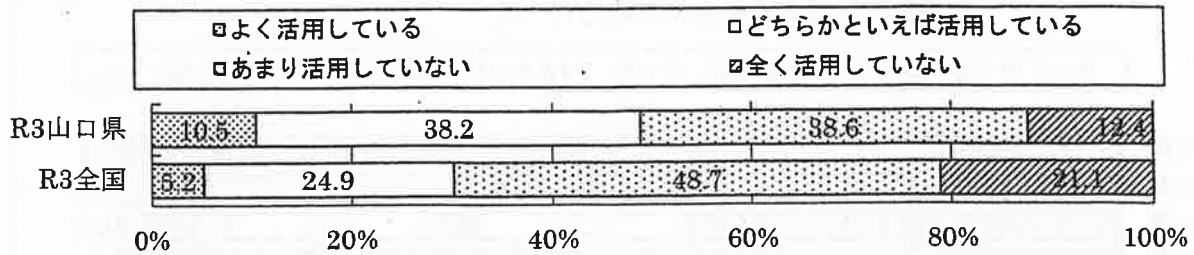
【中学校】 48 授業の中で目標（めあて・ねらい）を生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた



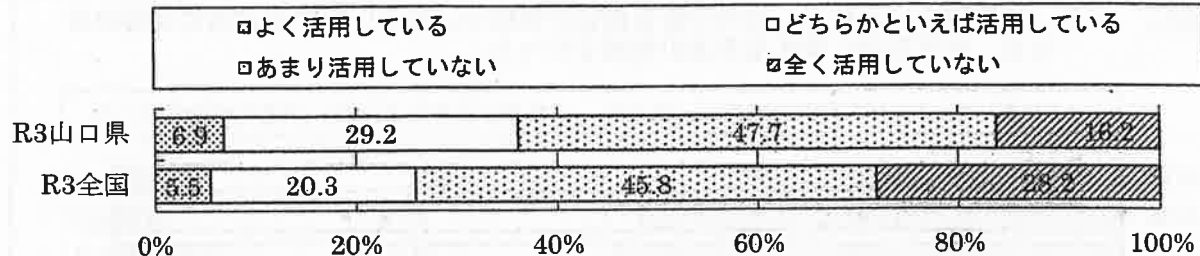
コ ICT機器を活用した児童生徒同士のやりとり

● 児童生徒同士がやりとりする場で、コンピュータなどのICT機器を活用していると回答した学校の割合は、全国と比べて高いが、活用していないと回答している学校の割合の方が高い。

【小学校】 72 【ICT機器を活用した取組】児童同士がやりとりする場面



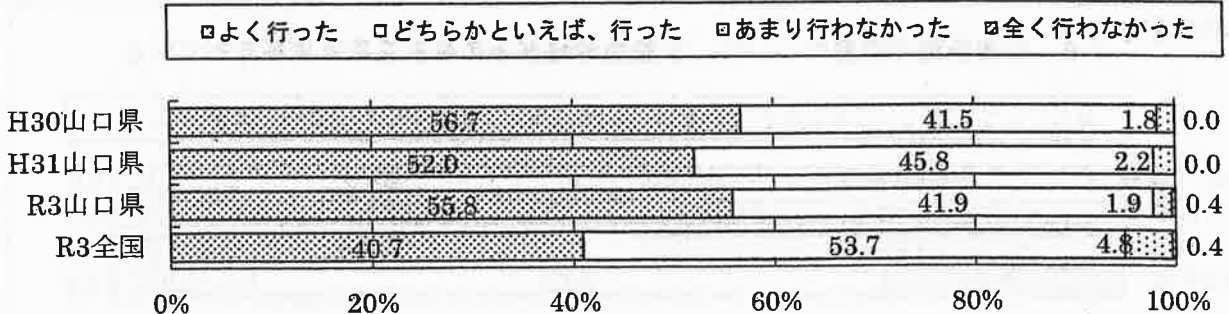
【中学校】 72 【ICT機器を活用した取組】生徒同士がやりとりする場面



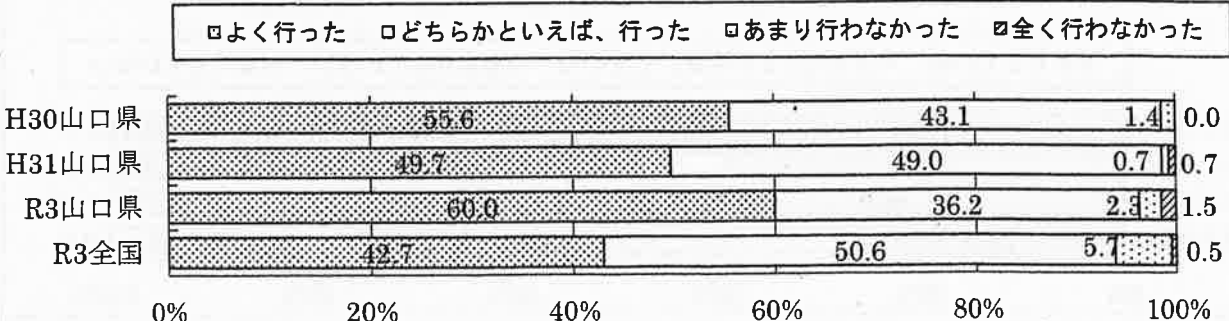
サ 特別支援教育についての理解と、児童生徒の特性に応じた指導の工夫

○ 学校の教員が、特別支援教育について理解し、前年度までに、授業の中で、児童の特性に応じた指導上の工夫を行った学校の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】 76 学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、授業の中で、児童の特性に応じた指導上の工夫を行った



【中学校】 76 学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、授業の中で、生徒の特性に応じた指導上の工夫を行った



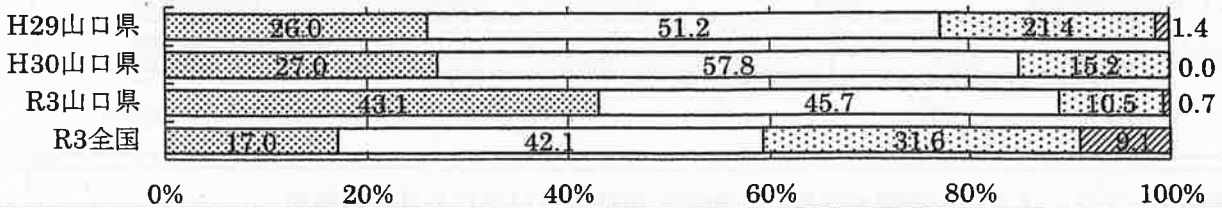
③ 学校・家庭・地域との連携

ア 教育課程に関する小・中学校共通の取組

○ 近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った学校の割合は、全国と比べて高い。

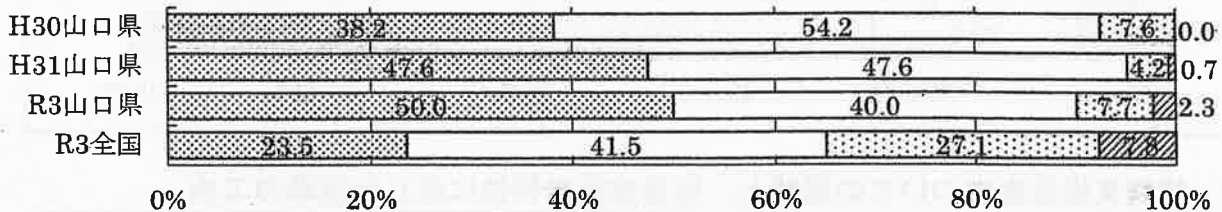
【小学校】 77 近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った

□よく行った □どちらかといえば、行った □あまり行わなかった □全く行わなかった



【中学校】 77 近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った

□よく行った □どちらかといえば、行った □あまり行わなかった □全く行わなかった

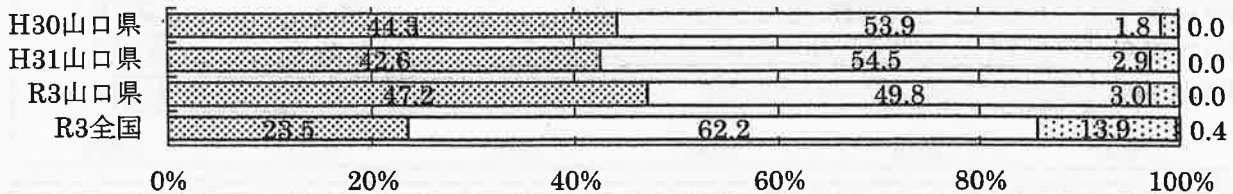


イ 教育課程の趣旨について、家庭や地域と共有する取組

○ 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っている学校の割合は、全国と比べて高い。

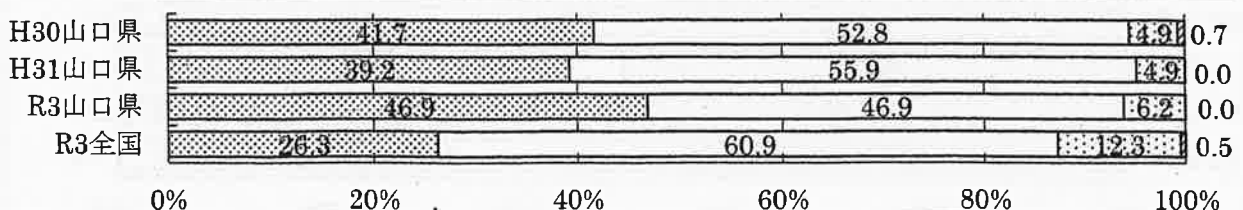
【小学校】 81 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っている

□よくしている □どちらかといえば、している □あまりしていない □全くしていない



【中学校】 81 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っている

□よくしている □どちらかといえば、している □あまりしていない □全くしていない

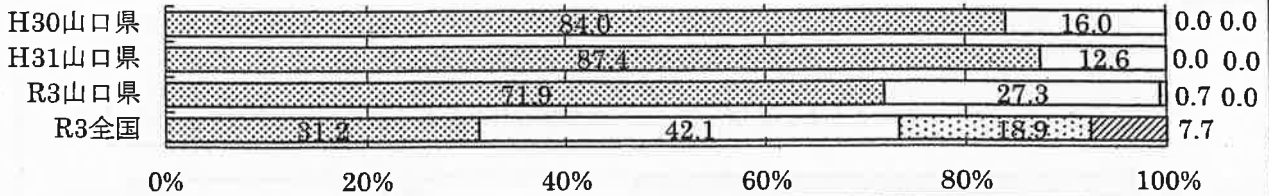


ウ 保護者や地域の人との協働による活動の実施

● 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行った学校の割合は、全国と比べて高いものの、例年より減少している。

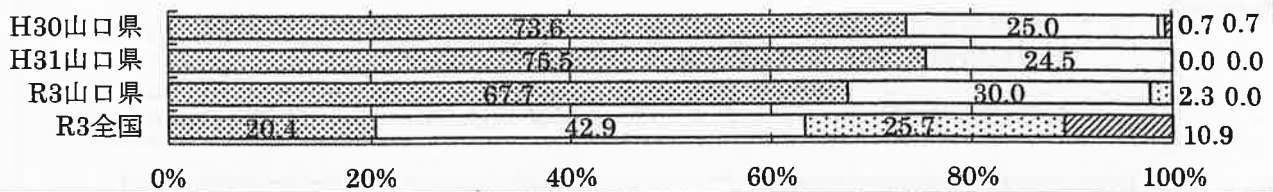
【小学校】 83 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行った

□よく行った □どちらかといえば、行った □あまり行わなかった □全く行わなかった



【中学校】 83 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行った

□よく行った □どちらかといえば、行った □あまり行わなかった □全く行わなかった

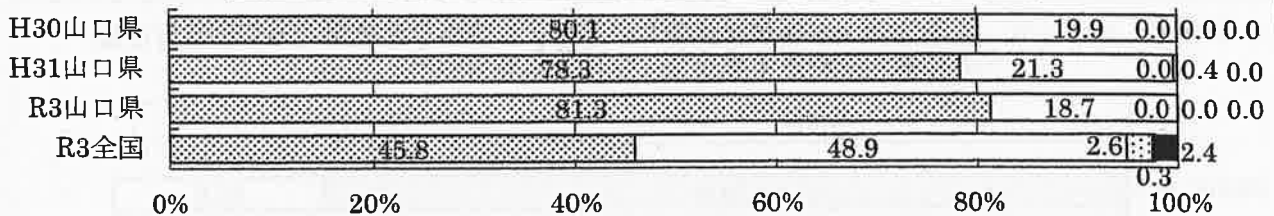


エ 学校の教育水準の向上への効果

○ 保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果があったと回答している学校の割合は、全国と比べて高く、増加傾向にある。

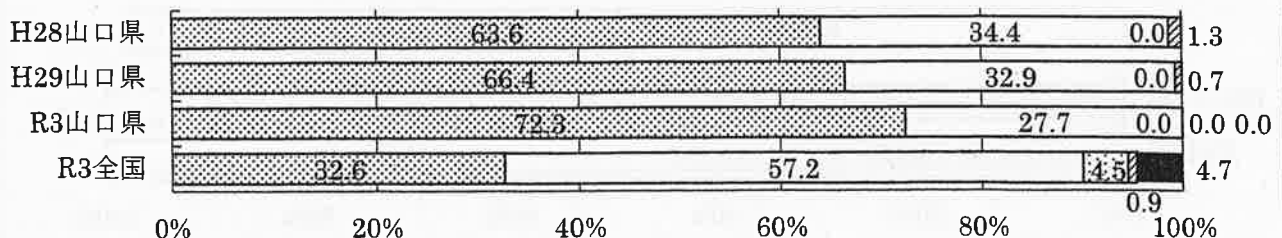
【小学校】 84 保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果があった

□そう思う □どちらかといえばそう思う
□どちらかといえばそう思わない □そう思わない
■取組を行わなかった



【中学校】 84 保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果があった

□そう思う □どちらかといえばそう思う
□どちらかといえばそう思わない □そう思わない
■取組を行わなかった



④ 家庭学習・調査結果の活用

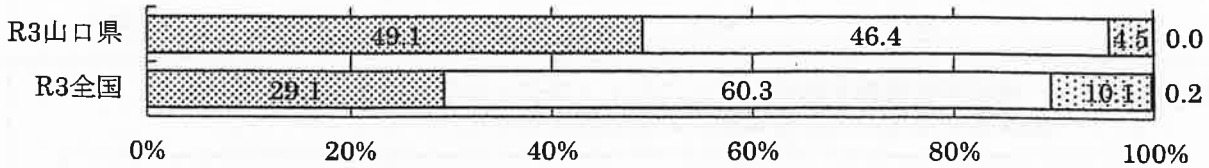
ア 児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かす取組

○ 児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしている学校の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】

87 家庭学習の取組として、学校では、児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かす

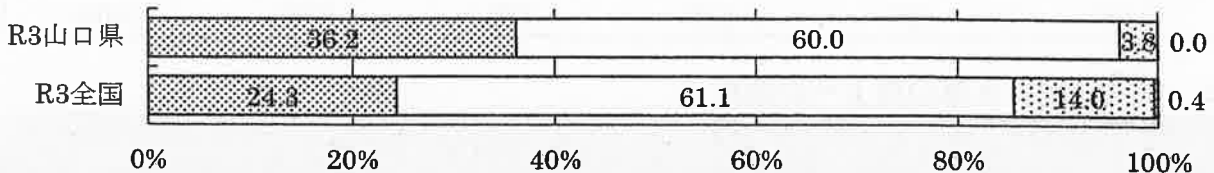
□よく行った □どちらかといえば、行った □あまり行わなかった □全く行わなかった



【中学校】

87 家庭学習の取組として、学校では、生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かす

□よく行った □どちらかといえば、行った □あまり行わなかった □全く行わなかった



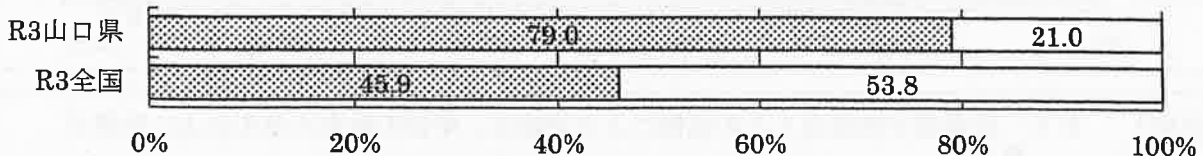
イ 全国学力・学習状況調査の問題の活用

○ 全国学力・学習状況調査の問題を、保護者や地域の人との学校教育活動への協力・連携を進めるために活用している学校の割合は、全国と比べて高い。

【小学校】

88-9 全国学力・学習状況調査の問題を、保護者や地域の人との学校教育活動への協力・連携を進めるために活用している

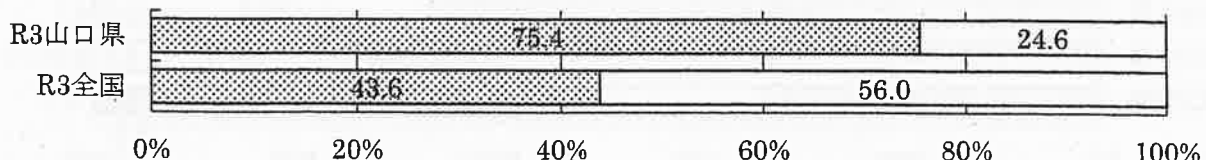
□はい □いいえ



【中学校】

88-9 全国学力・学習状況調査の問題を、保護者や地域の人との学校教育活動への協力・連携を進めるために活用している

□はい □いいえ



3 学力向上に向けた今後の取組

- 県教委、各市町教委、各学校が連携して、以下の二つに取り組む。
- ◆「やまぐち型地域連携教育」による家庭や地域との連携・協働を基盤とし、「学校の組織力の充実」「教員の授業力の向上」「学校・家庭・地域の連携力の強化」の三つの視点からの取組を推進するとともに、検証改善委員会からの客観的評価を受け検証改善サイクルに取り組む。
 - ◆新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の更なる充実を図り、子どもたち一人ひとりの確かな学力の定着と向上を図る。

は今回の調査結果に関連する部分

学校の組織力の充実

- ◆全校体制によるカリキュラム・マネジメント
 - ・教育課程説明会、管理職リーダーシップアップ研修、教育課程研究指定校研究発表会等の成果復伝、教育活動への積極的な反映
- ◆全校体制による年間2回の検証改善サイクルの活用
 - ・全国調査と学力定着状況確認問題の活用による課題解決に向けた取組の検証、改善
- ◆分析結果を活用した課題の焦点化と課題解決
 - ・調査結果の分析結果による、研修の改善、学力向上に向けた取組の充実、学び直しや家庭学習の充実等の推進
- ◆校内研修の活性化による組織的な授業改善
 - ・校長のリーダーシップによる、組織的・継続的な研修の推進
 - ・県教委作成資料の活用、小学校における授業交換や専科指導の活用による教科担任制の推進、中学校における教科の枠組みを越えた授業研修の推進等
 - ・ICTの活用等による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現
- ◆きめ細かな指導体制づくり
 - ・子どもたちの状況に応じたきめ細かな指導（よいところを認める、分からないところを教える等）の充実
 - ・全教職員や地域人材の活用による組織的な補充学習の促進

教員の授業力の向上

- ◆「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善
 - ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、日々の授業計画の作成をはじめとした授業改善の推進
 - ・課題解決や探究の過程を重視した学習機会の設定、話し合いで考えを深め広げる力や身に付けたことを他の学びに生かしたりする力の育成に向けた指導の充実
 - ・1人1台端末を活かした新たな学びの実現に向け、これまでの教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることで資質・能力を効果的に育成することをめざした授業改善の推進
 - ・特別支援教育について理解し、児童生徒の特性に応じた指導の工夫
- ◆教科の専門性やキャリアステージに応じた研修
 - ・若手・中堅・管理職を対象とした各研修会の成果の復伝、教育活動への積極的な反映
- ◆やまぐち総合教育支援センターとの連携
 - ・「やまぐち総合教育支援サイト」等の学習指導用資料の活用促進
- ◆校内研修等の充実による授業改善
 - ・学力向上推進リーダー等を活用した校内研修の充実

学校・家庭・地域の連携力の強化

- ◆コミュニティ・スクールの仕組みの活用
 - ・学校運営協議会における、学力課題の共有や課題解決のための熟議の促進
 - ・地域の子どもの自己肯定感の向上、いじめ撲滅、読書活動の推進等に向けた啓発活動の充実
 - ・地域人材の参加によるユニット型研修の促進
 - ・教育課程の趣旨の共有及び、地域連携による学校教育水準の向上の検証、改善
- ◆情報共有による学習習慣の確立
 - ・家庭や地域への情報提供等による連携強化、学力分析支援ツールによる個人票の活用による、家庭学習（時間の確保、自分で計画を立てる等）習慣の向上
 - ・補充学習等における「やまぐちっ子学習プリント」の活用促進
- ◆異校種間連携の充実による学習環境づくり
 - ・授業力向上実践研究校、小中高連携英語教育推進校・連携校による研究の推進
 - ・小中連携カリキュラムや「学校・地域連携カリキュラム」作成等による小中一貫教育の推進

令和3年3月公立高等学校等卒業生 進路状況調査結果(全日制・定時制)について(概要)

※ 公立高等学校及び中等教育学校後期課程についての調査

【概要】

○ 「大学等進学者」「専修学校進学者」及び「就職者」の割合に大きな変化はない。

卒業生数

7,449人

大学等進学者

- 全卒業生のうち「大学等進学者」の割合は46.2%・・・【第1表】
 - ・ 大学等進学者のうち「国公立大学への進学者」の割合は89.0%・・・【第2表】
 - ・ 大学進学者のうち進学者数が最も多い系統は「商学・経済学」で、その割合は19.9%・・・【第3表】
 - ・ 大学等進学者のうち「県内大学への進学者」の割合は28.6%・・・【第4表】

専修学校等進(入)学者

- 全卒業生のうち「専修学校等進(入)学者」の割合は21.5%・・・【第1表】
 - ・ 専修学校等進(入)学者のうち最も多い区分は「医療」で、その割合は32.6%・・・【第6表】

就職者

- 全卒業生のうち「就職者」の割合は29.8%・・・【第1表】
 - ・ 就職者のうち最も多い「製造・加工従事者」の割合は30.5%・・・【第7表】
 - ・ 就職者のうち最も多い「工業科卒業生」の割合は49.4%・・・【第8表】

その他

- 全卒業生のうち「その他」の割合は1.8%・・・【第1表】
※ 「その他」とは、家事手伝いをしている者、外国の大学等に入学した者等

令和3年3月公立高等学校等卒業生 進路状況調査結果(通信制)について(概要)

※ 令和2年度より調査結果を公表

【概要】

- 「大学等進学者」「専修学校進学者」の割合に大きな変化はない。
- 「就職者」の割合は在籍生徒の状況により大きく変化している。

卒業生数

104人

大学等進学者

- 全卒業生のうち「大学等進学者」の割合は14.4%・・・【第1表】
 - ・ 大学等進学者のうち「国公立大学への進学者」の割合は73.3%・・・【第2表】
 - ・ 大学進学者のうち進学者数が最も多い系統は「商学・経済学」で、その割合は36.4%・・・【第3表】
 - ・ 大学等進学者のうち「県内大学への進学者」の割合は18.2%・・・【第4表】

専修学校等進(入)学者

- 全卒業生のうち「専修学校等進(入)学者」の割合は29.8%・・・【第1表】
 - ・ 専修学校等進(入)学者のうち最も多い区分は「医療」「衛生」「文化教養」で、その割合はそれぞれ19.4%・・・【第5表】

就職者

- 全卒業生のうち「就職者」の割合は32.7%・・・【第1表】
 - ・ 就職者のうち最も多い「販売従事者」「サービス職業従事者」の割合は35.3%・・・【第6表】
 - ・ 就職者のうち最も多い「普通科卒業生」の割合は100%・・・【第7表】

その他

- 全卒業生のうち「その他」の割合は23.1%・・・【第1表】
- ※ 「その他」とは、家事手伝いをしている者、外国の大学等に入学した者等

令和3年3月県立特別支援学校高等部卒業生 進路状況調査結果について(概要)

卒業生数	232人 (前年度比-28人)	【第1表】
------	-----------------	-------

※専攻科を除く

1. 大学等進学者

- 全卒業生のうち「大学等進学者」は6人で、割合は2.6% 【第1表】
(前年度比-4人で1.3ポイント減少)
 - ・ 「国公立大学への進学者」数は0人 (前年度より3人減少) 【第2表】
 - ・ 「私立大学への進学者」数は3人 (前年度より1人増加) 【第2表】
 - ・ 「専攻科への進学者」数は0人 (前年度より1人減少) 【第2表】
 - ・ 「職業能力開発校への進学者」数は3人 (前年度より1人減少)
. 【第2表】

2. 就職者

- 全卒業生のうち「就職者」は67人で、割合は28.9% 【第1表】
(前年度比-17人で3.4ポイント減少)
 - ・ 就職決定率 (就職希望者に対する就職者の割合) は93.1%と90%台を維持
 - ・ 「サービス職業従事者」が最も多く、割合は28.4% 【第3表】
以下多い順に
 - ・ 「生産工程従事者」の割合は23.9% 【第3表】
 - ・ 「運搬・清掃等従事者」の割合は16.4% 【第3表】

3. 福祉施設利用者

- 全卒業生のうち「福祉施設利用者」は145人で、割合は62.5% 【第1表】
(前年度比-11人で2.5ポイント増加)
 - ・ 福祉施設利用者のうち「就労系サービス (就労移行支援・就労継続支援B型)」利用者数は86人。前年度比+9人で、「福祉施設利用者全体の半数以上を占める。
. 【第4表】
 - ・ 福祉施設利用者のうち「生活介護」利用者数は、47人 【第4表】

4. その他

- 全卒業生のうち「在宅者」は14人で、割合は6.0% 【第1表】
(前年度比+4人で2.1ポイント増加)

令和3年3月公立高等学校等
卒業生進路状況調査結果

令和3年9月

山口県教育委員会

目 次

《令和3年3月公立高等学校等（全日制・定時制）卒業生進路状況調査結果》

【第1表】	卒業生進路別状況	1
【第2表】	設置者別大学等進学状況	2
【第3表】	大学・短期大学 学部系統別進学状況	3
【第4表】	大学・短期大学 所在地別進学状況	4
【第5表】	大学・短期大学進学者の主な進学先一覧	5
【第6表】	専修学校等進(入)学者の系統別状況	7
【第7表】	就職者の職業別状況	8
【第8表】	学科別の就職状況	9

《令和3年3月公立高等学校等（通信制）卒業生進路状況調査結果》

【第1表】	卒業生進路別状況	10
【第2表】	設置者別大学等進学状況	11
【第3表】	大学・短期大学 学部系統別進学状況	12
【第4表】	大学・短期大学 所在地別進学状況	13
【第5表】	専修学校等進(入)学者の系統別状況	14
【第6表】	就職者の職業別状況	15
【第7表】	学科別の就職状況	16

令和3年3月公立高等学校等（全日制・定時制）卒業者
進路状況調査結果

令和3年3月に山口県内の公立高等学校及び公立中等教育学校（49校8分校）の全日制・定時制課程を卒業した生徒について、令和3年5月1日現在における進路状況を調査した結果は、次のとおりである。

【第1表】

卒業生進路別状況

卒業年月	実数・割合	卒業生総数	大学等進学者 (A)	専修学校等 進(入)学者 (B)	公共職業能力 開発施設等 入学者(C)	就職者 (D)	その他 (E)
令和 3年3月	実数(人)	7,449	3,439	1,605	51	2,217	137
	割合(%)	100.0	46.2	21.5	0.7	29.8	1.8
令和 2年3月	実数(人)	7,906	3,647	1,718	45	2,369	127
	割合(%)	100.0	46.1	21.7	0.6	30.0	1.6
平成31年3月	実数(人)	7,856	3,467	1,818	27	2,370	174
	割合(%)	100.0	44.1	23.1	0.3	30.2	2.2
平成30年3月	実数(人)	8,111	3,648	1,913	60	2,361	129
	割合(%)	100.0	45.0	23.6	0.7	29.1	1.6
平成29年3月	実数(人)	8,134	3,653	1,832	59	2,425	165
	割合(%)	100.0	44.9	22.5	0.7	29.8	2.0

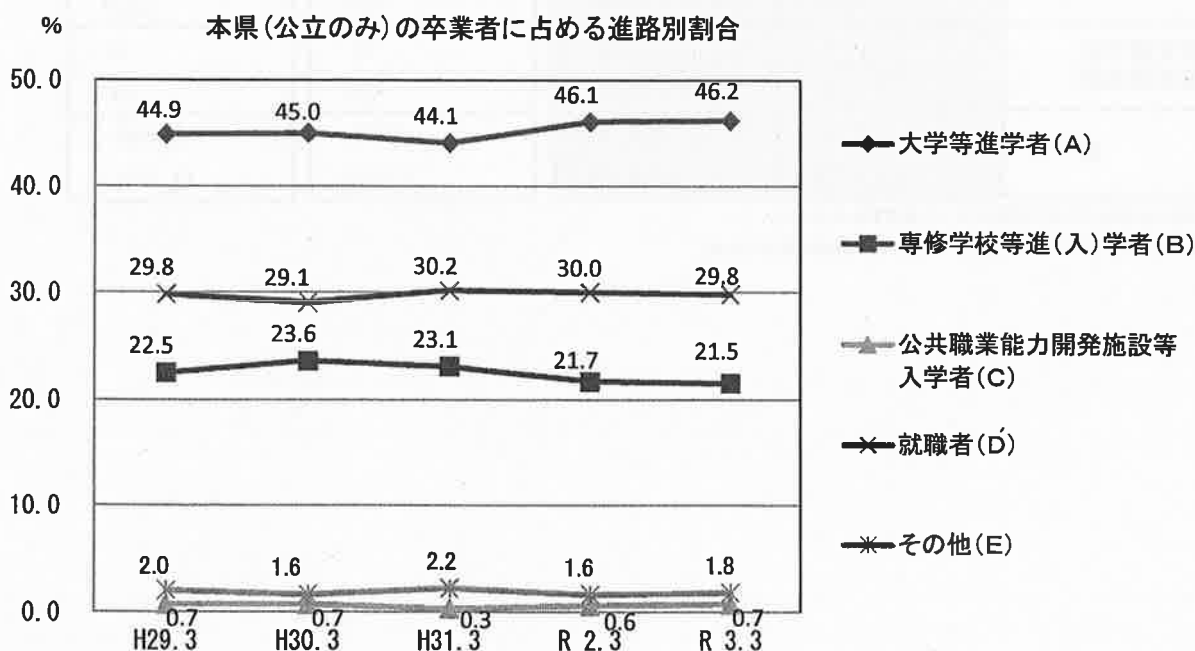
(注1) 「大学等進学者(A)」とは、大学の学部・通信教育部・別科、短期大学の本科・通信教育部・別科、高等学校専攻科に進学した者である。

(注2) 「専修学校等進(入)学者(B)」とは、専修学校の専門課程進学者、一般課程及び各種学校(予備校を含む)入学者である。

(注3) 「公共職業能力開発施設等入学者(C)」とは、職業能力開発総合大学校、水産大学校等に入学した者である。

(注4) 「就職者(D)」とは、(A)～(C)の各項目に該当しない者で、就職した者である。

(注5) 「その他(E)」とは、令和2年度調査までは、一時的な仕事に就いた者、家事手伝いをしている者、外国の大学等に入学した者及び(A)～(D)の各項目に該当しない者であり、令和3年度調査は、家事手伝いをしている者、外国の大学等に入学した者及び(A)～(D)の各項目に該当しない者である。



【第2表】

設置者別大学等進学状況

() 内は前年調査の数値

区 分		計	構成比 (%)	過年度卒業者	令和3年3月卒業 者と過年度卒業 者の計
大 学	国 立	951 (960)	27.7 (26.3)	137 (238)	1,088 (1,198)
	公 立	467 (425)	13.6 (11.7)	18 (29)	485 (454)
	私 立	1,641 (1,878)	47.7 (51.5)	104 (154)	1,745 (2,032)
	計	3,059 (3,263)	89.0 (89.5)	259 (421)	3,318 (3,684)
短期大学	国公立	6 (13)	0.2 (0.4)	0 (0)	6 (13)
	私 立	322 (319)	9.4 (8.7)	1 (3)	323 (322)
	計	328 (332)	9.5 (9.1)	1 (3)	329 (335)
大学・短期大学の通信教 育学部及び放送大学		1 (0)	0.0 (0.0)	0 (0)	1 (0)
大学・短期大学（別科）		0 (0)	0.0 (0.0)	0 (0)	0 (0)
高等学校専攻科		51 (52)	1.5 (1.4)	0 (0)	51 (52)
特別支援学校 高等部専攻科		0 (0)	0.0 (0.0)	0 (0)	0 (0)
合 計		3,439 (3,647)	100.0 (100.0)	260 (424)	3,699 (4,071)

(注1) 外国の大学及び外国の短期大学への進学者を含まない。

(注2) 過年度卒業者のデータは、学校で把握できた範囲の数字である。

【第3表】

大学・短期大学 学部系統別進学状況

1 大 学

() 内は前年調査の数値

系 統		計	構成比(%)
大 分 類	中 分 類		
人 文 科 学		401 (447)	13.1 (13.7)
社会科学	法学・政治学	165 (183)	5.4 (5.6)
	商学・経済学	610 (655)	19.9 (20.1)
	上記以外	175 (138)	5.7 (4.2)
理 学		129 (137)	4.2 (4.2)
工 学		453 (515)	14.8 (15.8)
農 学	獣医学・畜産学	12 (15)	0.4 (0.5)
	上記以外	83 (58)	2.7 (1.8)
保 健	医 学	29 (26)	0.9 (0.8)
	歯 学	9 (5)	0.3 (0.2)
	薬 学	80 (84)	2.6 (2.6)
	看 護	163 (184)	5.3 (5.6)
	上記以外	209 (205)	6.8 (6.3)
商 船		0 (0)	0.0 (0.0)
家 政		71 (91)	2.3 (2.8)
教 育		287 (341)	9.4 (10.5)
芸 術		48 (70)	1.6 (2.1)
上 記 以 外		135 (109)	4.4 (3.3)
計		3,059 (3,263)	100.0 (100.0)

2 短期大学

() 内は前年調査の数値

系 統		計	構成比(%)
大 分 類	中 分 類		
人 文		23 (9)	7.0 (2.7)
社 会		2 (11)	0.6 (3.3)
教 養		5 (6)	1.5 (1.8)
工 業		4 (12)	1.2 (3.6)
農 業		3 (1)	0.9 (0.3)
保 健		19 (21)	5.8 (6.3)
家 政		52 (50)	15.9 (15.1)
教 育		182 (180)	55.5 (54.2)
芸 術		36 (33)	11.0 (9.9)
上記以外		2 (9)	0.6 (2.7)
計		328 (332)	100.0 (100.0)

(注1) 大学進学者には、外国の大学に入学した者を含まない。

(注2) 短期大学進学者には、外国の短期大学及び高等学校専攻科に入学した者を含まない。

(注3) 系統は、学校基本調査を準用している。

1 大学について

(注4) 社会科学の中分類のうち「上記以外」とは、政経学、法経学、国際関係(総合)学類 等

(注5) 農学の中分類うち、「上記以外」とは、栄養学、生物生産学、森林資源科学 等

(注6) 保健の中分類のうち、「上記以外」とは、生命科学、理学・作業療法学、保健衛生学 等

(注7) 大分類のうち、「上記以外」とは、教養学関係、総合科学関係、教養課程 等

2 短期大学について

(注8) 大分類のうち、「上記以外」とは、理学関係、秘書関係 等

【第4表】

大学・短期大学 所在地別進学状況

1 大学進学者

() 内は前年調査の数値

区分	実数・ 所在地の 構成比	全国	山口県	広島県	福岡県	地域ブロック別					
						九州	中国	近畿	東海	関東	その他
国立	実数 (人)	951 (960)	399 (401)	65 (72)	130 (124)	217 (240)	574 (566)	61 (56)	7 (19)	48 (37)	44 (42)
	所在地の 構成比(%)	100.0 (100.0)	42.0 (41.8)	6.8 (7.5)	13.7 (12.9)	22.8 (25.0)	60.4 (59.0)	6.4 (5.8)	0.7 (2.0)	5.0 (3.9)	4.6 (4.4)
公立	実数 (人)	467 (425)	275 (257)	32 (23)	68 (65)	92 (85)	324 (294)	21 (21)	5 (1)	10 (9)	15 (15)
	所在地の 構成比(%)	100.0 (100.0)	58.9 (60.5)	6.9 (5.4)	14.6 (15.3)	19.7 (20.0)	69.4 (69.2)	4.5 (4.9)	1.1 (0.2)	2.1 (2.1)	3.2 (3.5)
私立	実数 (人)	1,641 (1,878)	202 (219)	381 (440)	360 (463)	379 (487)	664 (765)	341 (339)	21 (18)	215 (243)	21 (26)
	所在地の 構成比(%)	100.0 (100.0)	12.3 (11.7)	23.2 (23.4)	21.9 (24.7)	23.1 (25.9)	40.5 (40.7)	20.8 (18.1)	1.3 (1.0)	13.1 (12.9)	1.3 (1.4)
合計	実数 (人)	3,059 (3,263)	876 (877)	478 (535)	558 (652)	688 (812)	1,562 (1,625)	423 (416)	33 (38)	273 (289)	80 (83)
	所在地の 構成比(%)	100.0 (100.0)	28.6 (26.9)	15.6 (16.4)	18.2 (20.0)	22.5 (24.9)	51.1 (49.8)	13.8 (12.7)	1.1 (1.2)	8.9 (8.9)	2.6 (2.5)

2 短期大学進学者

() 内は前年調査の数値

区分	実数・ 所在地の 構成比	全国	山口県	広島県	福岡県	地域ブロック別					
						九州	中国	近畿	東海	関東	その他
国公立	実数 (人)	6 (13)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (5)	1 (5)	0 (0)	2 (2)	0 (1)	0 (0)
	所在地の 構成比(%)	100.0 (100.0)	16.7 (7.7)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	50.0 (38.5)	16.7 (38.5)	0.0 (0.0)	33.3 (15.4)	0.0 (7.7)	0.0 (0.0)
私立	実数 (人)	322 (319)	174 (165)	45 (48)	72 (75)	73 (76)	228 (223)	13 (16)	3 (0)	4 (3)	1 (1)
	所在地の 構成比(%)	100.0 (100.0)	54.0 (51.7)	14.0 (15.0)	22.4 (23.5)	22.7 (23.8)	70.8 (69.9)	4.0 (5.0)	0.9 (0.0)	1.2 (0.9)	0.3 (0.3)
合計	実数 (人)	328 (332)	175 (166)	45 (48)	72 (75)	76 (81)	229 (228)	13 (16)	5 (2)	4 (4)	1 (1)
	所在地の 構成比(%)	100.0 (100.0)	53.4 (50.0)	13.7 (14.5)	22.0 (22.6)	23.2 (24.4)	69.8 (68.7)	4.0 (4.8)	1.5 (0.6)	1.2 (1.2)	0.3 (0.3)

(注1) 短期大学進学者には、高等専門学校への編入者を含む。

(注2) 地域ブロック別の区分は次のとおりである。

- 九州・・・福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
 中国・・・鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
 近畿・・・滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
 東海・・・岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
 関東・・・茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
 その他・・・「北海道」、「東北」、「北陸・甲信越」、「四国」地域

【第5表】

大学・短期大学進学者の主な進学先一覧

1 大学（国公立は3人以上、私立は10人以上が進学した大学）

（ ）内は前年調査の数値

地 域 進学者数計	国立大学		公立大学		私立大学			
	大学名	進学者数	大学名	進学者数	大学名	進学者数	大学名	進学者数
北海道・東北 13 (16)								
関 東 273 (289)	筑波大学	9 (9)	東京都立大学	4 (2)	慶應義塾大学	11 (10)		
	埼玉大学	4 (2)	横浜国立大学	3 (3)	中央大学	13 (9)		
	千葉大学	4 (2)			明治大学	16 (10)		
	お茶の水女子大学	3 (5)			早稲田大学	21 (24)		
	東京大学	5 (7)						
	東京海洋大学	4 (0)						
	東京芸術大学	6 (0)						
	東京工業大学	3 (3)						
一橋大学	3 (0)							
北陸・甲信越 17 (17)	信州大学	3 (3)	都留文科大学	3 (2)				
東 海 33 (38)	静岡大学	4 (4)						
近 畿 423 (416)	京都大学	9 (6)	大阪市立大学	6 (5)	京都産業大学	11 (16)		
	京都教育大学	3 (2)	大阪府立大学	7 (4)	同志社大学	27 (24)		
	京都工芸繊維大学	3 (1)	神戸市外国語大学	5 (3)	立命館大学	31 (28)		
	大阪大学	24 (20)			龍谷大学	21 (7)		
	大阪教育大学	4 (0)			関西大学	21 (24)		
	神戸大学	12 (19)			近畿大学	36 (30)		
	奈良女子大学	3 (3)			関西学院大学	33 (40)		
中 国 1,562 (1,625)	鳥取大学	8 (8)	島根県立大学	6 (5)	岡山理科大学	22 (30)	福山大学	14 (17)
	島根大学	23 (19)	岡山県立大学	4 (4)	川崎医療福祉大学	34 (40)	安田女子大学	71 (70)
	岡山大学	79 (66)	新見公立大学	6 (4)	比治山大学	19 (10)	宇部フロンティア大学	36 (38)
	広島大学	65 (72)	観音大学	4 (—)	広島経済大学	27 (31)	東亜大学	19 (20)
	山口大学	399 (401)	尾道市立大学	9 (10)	広島工業大学	51 (61)	徳山大学	35 (36)
			県立広島大学	12 (6)	広島国際大学	60 (54)	梅光学院大学	55 (70)
			福山市立大学	5 (1)	広島修道大学	78 (128)	山口学芸大学	53 (54)
			下関市立大学	84 (86)	広島女学院大学	11 (14)		
			山口県立大学	123 (114)	広島文化学園大学	11 (13)		
			山口東京理科大学	68 (57)	広島文教女子大学	22 (20)		
四 国 50 (50)	徳島大学	5 (1)						
	香川大学	7 (4)						
	愛媛大学	18 (11)						
	高知大学	3 (7)						
九 州 688 (812)	九州大学	70 (74)	北九州市立大学	56 (58)	九州栄養福祉大学	21 (17)	福岡工業大学	11 (26)
	九州工業大学	38 (37)	福岡県立大学	9 (3)	九州共立大学	28 (31)	福岡国際医療福祉大学	12 (10)
	福岡教育大学	22 (13)	福岡女子大学	3 (2)	九州国際大学	17 (21)		
	佐賀大学	9 (10)	長崎県立大学	14 (11)	九州産業大学	57 (76)		
	長崎大学	20 (23)	熊本県立大学	3 (3)	久留米大学	16 (23)		
	熊本大学	22 (22)			西南学院大学	30 (27)		
	大分大学	21 (33)			西南女学院大学	23 (35)		
	宮崎大学	7 (9)			西日本工業大学	12 (17)		
	鹿児島大学	7 (16)			福岡大学	92 (121)		

2 短期大学（国公立は3人以上、私立は10人以上が進学した大学）

（ ）内は前年調査の数値

地域 進学者数計	国公立短期大学		私立大学			
	短期大学名	進学者数	大学名	進学者数	大学名	進学者数
北海道・東北 0 (0)						
関東 4 (4)						
北陸・甲信越 0 (0)						
東海 5 (2)						
近畿 13 (16)						
中国 229 (228)			山陽女子短期大学	20 (17)	下関短期大学	12 (20)
			安田女子短期大学	10 (12)	山口芸術短期大学	91 (77)
			岩国短期大学	25 (25)	山口短期大学	18 (17)
			宇部フロンティア大学短期大学部	28 (26)		
四国 1 (1)						
九州 76 (81)	大分県芸術文化短期大学	3 (5)	東筑紫短期大学	11 (14)		

(注1) 短期大学進学者には、高等専門学校への編入者を含む。

【第6表】

専修学校等進(入)学者の系統別状況

()内は前年調査の数値

区 分	工業	農業	医療	衛生	教育福祉	商業実務	服飾家政	文化教養	予備校	その他	計
実数(人)	147 (127)	32 (26)	523 (546)	151 (171)	20 (23)	125 (142)	60 (50)	185 (239)	304 (333)	58 (61)	1,605 (1,718)
専修学校等進(入)学者の構成比(%)	9.2 (7.4)	2.0 (1.5)	32.6 (31.8)	9.4 (10.0)	1.2 (1.3)	7.8 (8.3)	3.7 (2.9)	11.5 (13.9)	18.9 (19.4)	3.6 (3.6)	100.0 (100.0)

(注1) 各系統の内容は次のとおりである

- 工業 …… 情報処理、土木・建築、電気・電子、自動車整備 等
- 農業 …… 農業、園芸、畜産、バイオテクノロジー、ガーデンビジネス、フラワービジネス、動物管理 等
- 医療 …… 看護、歯科衛生、歯科技工、臨床検査、診療放射線、柔道整復、理学・作業療法 等
- 衛生 …… 栄養、調理、理容・美容、製菓・製パン、エステティック 等
- 教育福祉 …… 保育、社会福祉、介護福祉、医療福祉 等
- 商業実務 …… 経理・簿記、秘書、経営、情報、観光・ホテル、医療事務 等
- 服飾家政 …… 和洋裁、服飾、ファッションデザイン、ファッションビジネス 等
- 文化教養 …… 音楽、美術、グラフィックデザイン、外国語、演劇・映画、通訳・翻訳、法律行政、スポーツ 等
- 予備校 …… 大学受験予備校、資格試験予備校 等

【第7表】

就職者の職業別状況

() 内は前年調査の数値

区 分	計	職業別の構成比 (%)
専門的・技術的職業従事者	218 (223)	9.9 (9.4)
事務従事者	320 (373)	14.5 (15.7)
販売従事者	163 (114)	7.4 (4.8)
サービス職業従事者	152 (179)	6.9 (7.5)
保安職業従事者	92 (113)	4.2 (4.8)
農林漁業従事者	1 農林業従事者 7 (3)	0.3 (0.1)
	2 漁業従事者 1 (6)	0.0 (0.3)
生産工程従事者	1 製造・加工従事者 675 (754)	30.5 (31.7)
	2 機械組立従事者 175 (207)	7.9 (8.7)
	3 整備修理従事者 51 (54)	2.3 (2.3)
	4 検査従事者 47 (89)	2.1 (3.7)
	5 その他 35 (29)	1.6 (1.2)
輸送・機械運転従事者	65 (74)	2.9 (3.1)
建設・採掘従事者	105 (74)	4.7 (3.1)
運搬・清掃等従事者	52 (57)	2.4 (2.4)
上記以外のもの	53 (27)	2.4 (1.1)
計	2,211 (2,376)	100.0 (100.0)

(注1) 就職者には、大学等進学者、専修学校等進(入)学者及び公共職業能力開発施設等入学者のうち、就職した者を含む。

(注2) 区分は、学校基本調査を準用している。平成23年3月卒業者の調査からは、平成21年12月に改訂された日本標準職業分類による集計である。内容は次のとおりである。

専門的・技術的職業従事者	研究者、農業水産技術者、製造技術者、建築・土木・測量技術者、医療従事者、法務従事者、教員、著述家、音楽家 等
事務従事者	庶務事務員、受付・案内事務員、出荷・受荷事務員、郵便事務員 等
販売従事者	小売店主、食品営業職業従事者、商品訪問・移動販売従事者、不動産仲介・売買人 等
サービス職業従事者	介護職員、歯科助手、理容師、美容師、旅館主、マンション管理人、旅行・観光案内人 等
保安職業従事者	自衛官、警察官、消防員、警備員 等
農林漁業従事者	1 農林業従事者 農耕従事者、養畜従事者、造園師、育林従事者 等
	2 漁業従事者 漁労従事者、水産・養殖従事者 等
生産工程従事者	1 製造・加工従事者 製鉄・製鋼・非鉄金属製錬設備制御・監視員、金属工作機械作業従事者、食品製造従事者、紡織・衣服・繊維製品製造従事者、印刷・製本従事者 等
	2 機械組立従事者 機械器具組立設備制御・監視員、自動車組立従事者 等
	3 整備修理従事者 電気機械機器整備・修理従事者、自動車整備・修理従事者 等
	4 検査従事者 金属材料検査従事者、食品検査従事者、自動車検査従事者 等
	5 その他 生産関連作業従事者 等
輸送・機械運転従事者	電車運転士、バス運転者、航海士、ボイラー・オペレーター、建設機械運転従事者 等
建設・採掘従事者	大工、左官、鉄筋作業者、通信線架線敷設従事者、電気通信設備工事従事者、採鉱員 等
運搬・清掃等従事者	郵便・電報外交員、倉庫作業従事者、ビル・建物清掃員、包装従事者 等
上記以外のもの	分類不能の職業

【第8表】

学科別の就職状況

1 就職者に占める各学科の状況

()内は前年調査の数値

区 分	普通科、理数科、 英語科、探究科	農業科、水産科	工業科	商業科	家庭科、看護科	総合学科	その他 の学科	計
就職者 (人)	249 (318)	198 (202)	1,095 (1,167)	459 (430)	41 (49)	169 (193)	6 (10)	2,217 (2,369)
学科の構成比 (%)	11.2 (13.4)	8.9 (8.5)	49.4 (49.3)	20.7 (18.2)	1.8 (2.1)	7.6 (8.1)	0.3 (0.4)	100.0 (100.0)

(注1) 就職者には、大学等進学者、専修学校等進(入)学者及び公共職業能力開発施設等入学者のうち就職した者を含まない。

(注2) その他の学科は、県立周防大島高等学校地域創生科を示している。

(注3) 探究科は、人文社会科学科及び自然科学科を示している。

2 各学科に占める就職者の状況

()内は前年調査の数値

区 分	普通科、理数科、 英語科、探究科	農業科、水産科	工業科	商業科	家庭科、看護科	総合学科	その他 の学科	計
学科の人数 (人)	4,138 (4,461)	355 (360)	1,307 (1,334)	878 (910)	125 (137)	627 (683)	19 (21)	7,449 (7,906)
就職者数 (人)	249 (318)	198 (202)	1,095 (1,167)	459 (430)	41 (49)	169 (193)	6 (10)	2,217 (2,369)
就職者の 構成比 (%)	6.0 (7.1)	55.8 (56.1)	83.8 (87.5)	52.3 (47.3)	32.8 (35.8)	27.0 (28.3)	31.6 (47.6)	29.8 (30.0)

(注1) 就職者には、大学等進学者、専修学校等進(入)学者及び公共職業能力開発施設等入学者のうち就職した者を含まない。

(注2) その他の学科は、県立周防大島高等学校地域創生科を示している。

(注3) 探究科は、人文社会科学科及び自然科学科を示している。

令和3年3月公立高等学校等（通信制）卒業生
進路状況調査結果

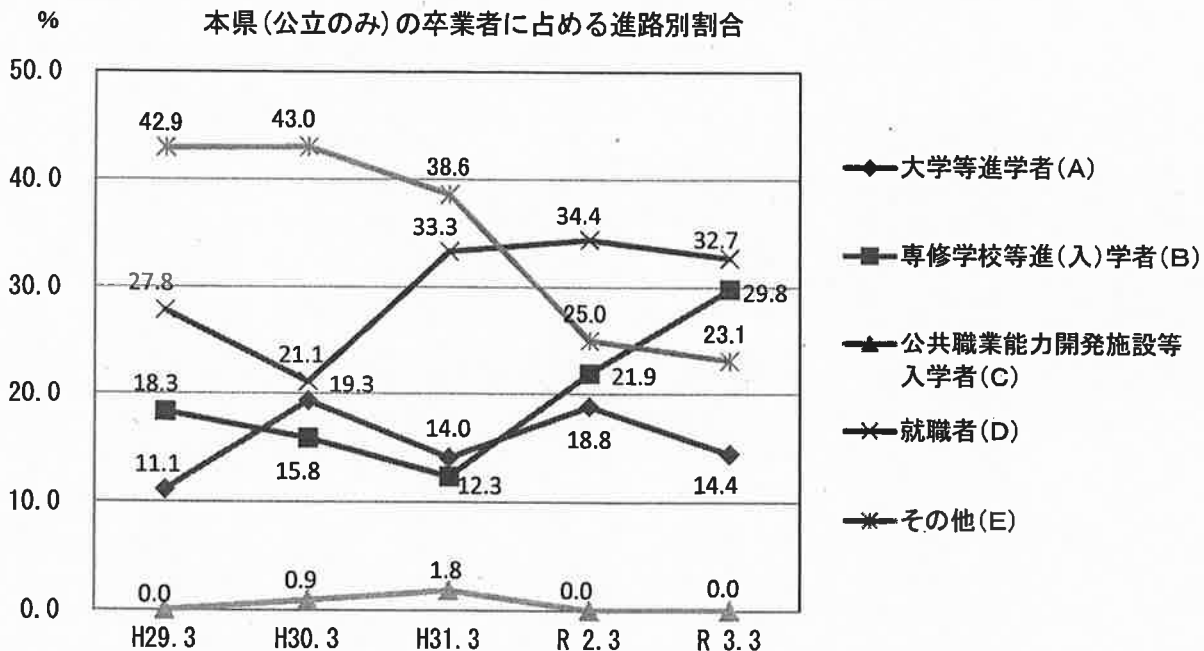
令和3年3月に山口県内の公立高等学校（1校）の通信制課程を卒業した生徒について、令和3年5月1日現在における進路状況を調査した結果は、次のとおりである。

【第1表】

卒業生進路別状況

卒業年月	実数・割合	卒業生総数	大学等進学者 (A)	専修学校等 進(入)学者 (B)	公共職業能力 開発施設等 入学者(C)	就職者 (D)	その他 (E)
令和 3年3月	実数(人)	104	15	31	0	34	24
	割合(%)	100.0	14.4	29.8	0.0	32.7	23.1
令和 2年3月	実数(人)	128	24	28	0	44	32
	割合(%)	100.0	18.8	21.9	0.0	34.4	25.0
平成31年3月	実数(人)	114	16	14	2	38	44
	割合(%)	100.0	14.0	12.3	1.8	33.3	38.6
平成30年3月	実数(人)	114	22	18	1	24	49
	割合(%)	100.0	19.3	15.8	0.9	21.1	43.0
平成29年3月	実数(人)	126	14	23	0	35	54
	割合(%)	100.0	11.1	18.3	0.0	27.8	42.9

- (注1) 「大学等進学者(A)」とは、大学の学部・通信教育部・別科、短期大学の本科・通信教育部・別科、高等学校専攻科に進学した者である。
 (注2) 「専修学校等進(入)学者(B)」とは、専修学校の専門課程進学者、一般課程及び各種学校(予備校を含む)入学者である。
 (注3) 「公共職業能力開発施設等入学者(C)」とは、職業能力開発総合大学校、水産大学校等に入学した者である。
 (注4) 「就職者(D)」とは、(A)～(C)の各項目に該当しない者で、就職した者である。
 (注5) 「その他(E)」とは、令和2年度調査までは、一時的な仕事に就いた者、家事手伝いをしている者、外国の大学等に入学した者及び(A)～(D)の各項目に該当しない者であり、令和3年度調査は、家事手伝いをしている者、外国の大学等に入学した者及び(A)～(D)の各項目に該当しない者である。



【第2表】

設置者別大学等進学状況

() 内は前年調査の数値

区 分		計	構成比 (%)	過年度卒業生	令和3年3月卒業 者と過年度卒業者 の計
大 学	国 立	1 (3)	6.7 (12.5)	1 (1)	2 (4)
	公 立	0 (0)	0.0 (0.0)	0 (0)	0 (0)
	私 立	10 (15)	66.7 (62.5)	3 (1)	13 (16)
	計	11 (18)	73.3 (75.0)	4 (2)	15 (20)
短期大学	国公立	0 (0)	0.0 (0.0)	0 (0)	0 (0)
	私 立	1 (3)	6.7 (12.5)	0 (0)	1 (3)
	計	1 (3)	6.7 (12.5)	0 (0)	1 (3)
大学・短期大学の通信教 育学部及び放送大学		3 (3)	20.0 (12.5)	0 (1)	3 (4)
大学・短期大学（別科）		0 (0)	0.0 (0.0)	0 (0)	0 (0)
高等学校専攻科		0 (0)	0.0 (0.0)	0 (0)	0 (0)
特別支援学校 高等部専攻科		0 (0)	0.0 (0.0)	0 (0)	0 (0)
合 計		15 (24)	100.0 (100.0)	4 (3)	19 (27)

(注1) 外国の大学及び外国の短期大学への進学者を含まない。

(注2) 過年度卒業者のデータは、学校で把握できた範囲の数字である。

【第3表】

大学・短期大学 学部系統別進学状況

1 大 学

2 短期大学

() 内は前年調査の数値

() 内は前年調査の数値

系 統		計	構成比(%)
大 分 類	中 分 類		
人 文 科 学		3 (7)	27.3 (38.9)
社会科学	法学・政治学	0 (0)	0.0 (0.0)
	商学・経済学	4 (3)	36.4 (16.7)
	上記以外	1 (0)	9.1 (0.0)
理 学		1 (1)	9.1 (5.6)
工 学		0 (3)	0.0 (16.7)
農 学	獣医学・畜産学	1 (0)	9.1 (0.0)
	上記以外	0 (0)	0.0 (0.0)
保 健	医 学	0 (0)	0.0 (0.0)
	歯 学	0 (0)	0.0 (0.0)
	薬 学	0 (0)	0.0 (0.0)
	看 護	0 (1)	0.0 (5.6)
	上記以外	0 (0)	0.0 (0.0)
商 船		0 (0)	0.0 (0.0)
家 政		0 (1)	0.0 (5.6)
教 育		0 (1)	0.0 (5.6)
芸 術		1 (1)	9.1 (5.6)
上 記 以 外		0 (0)	0.0 (0.0)
計		11 (18)	100.0 (100.0)

系 統	計	構成比(%)
大 分 類		
人 文	0 (0)	0.0 (0.0)
社 会	0 (1)	0.0 (33.3)
教 養	0 (0)	0.0 (0.0)
工 業	0 (0)	0.0 (0.0)
農 業	0 (0)	0.0 (0.0)
保 健	0 (0)	0.0 (0.0)
家 政	0 (0)	0.0 (0.0)
教 育	1 (0)	100.0 (0.0)
芸 術	0 (2)	0.0 (66.7)
上記以外	0 (0)	0.0 (0.0)
計	1 (3)	100.0 (100.0)

(注1) 大学進学者には、外国の大学に入学した者を含まない。

(注2) 短期大学進学者には、外国の短期大学及び高等学校専攻科に入学した者を含まない。

(注3) 系統は、学校基本調査を準用している。

1 大学について

(注4) 社会科学の中分類のうち「上記以外」とは、政経学、法経学、国際関係(総合)学類 等

(注5) 農学の中分類うち、「上記以外」とは、栄養学、生物生産学、森林資源科学 等

(注6) 保健の中分類のうち、「上記以外」とは、生命科学、理学・作業療法学、保健衛生学 等

(注7) 大分類のうち、「上記以外」とは、教養学関係、総合科学関係、教養課程 等

2 短期大学について

(注8) 大分類のうち、「上記以外」とは、理学関係、秘書関係 等

【第4表】

大学・短期大学 所在地別進学状況

1 大学進学者

() 内は前年調査の数値

区分	実数・ 所在地の 構成比	全 国	山口県	広島県	福岡県	地 域 ブ ロ ッ ク 別					
						九州	中国	近畿	東海	関東	その他
国 立	実 数 (人)	1 (3)	0 (3)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	所在地の 構成比(%)	100.0 (100.0)	0.0 (100.0)	0.0 (0.0)	100.0 (0.0)	100.0 (0.0)	0.0 (100.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)
公 立	実 数 (人)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	所在地の 構成比(%)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)
私 立	実 数 (人)	10 (15)	2 (7)	2 (2)	1 (4)	1 (4)	4 (9)	0 (0)	0 (0)	5 (2)	0 (0)
	所在地の 構成比(%)	100.0 (100.0)	20.0 (46.7)	20.0 (13.3)	10.0 (26.7)	10.0 (26.7)	40.0 (60.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	50.0 (13.3)	0.0 (0.0)
合 計	実 数 (人)	11 (18)	2 (10)	2 (2)	2 (4)	2 (4)	4 (12)	0 (0)	0 (0)	5 (2)	0 (0)
	所在地の 構成比(%)	100.0 (100.0)	18.2 (55.6)	18.2 (11.1)	18.2 (22.2)	18.2 (22.2)	36.4 (66.7)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	45.5 (11.1)	0.0 (0.0)

2 短期大学進学者

() 内は前年調査の数値

区分	実数・ 所在地の 構成比	全 国	山口県	広島県	福岡県	地 域 ブ ロ ッ ク 別					
						九州	中国	近畿	東海	関東	その他
国公立	実 数 (人)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	所在地の 構成比(%)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)
私 立	実 数 (人)	1 (3)	1 (2)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	1 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	所在地の 構成比(%)	100.0 (100.0)	100.0 (66.7)	0.0 (0.0)	0.0 (33.3)	0.0 (33.3)	100.0 (66.7)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)
合 計	実 数 (人)	1 (3)	1 (2)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	1 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	所在地の 構成比(%)	100.0 (100.0)	100.0 (66.7)	0.0 (0.0)	0.0 (33.3)	0.0 (33.3)	100.0 (66.7)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)

(注1) 短期大学進学者には、高等専門学校への編入者を含む。

(注2) 地域ブロック別の区分は次のとおりである。

- 九 州 …… 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
- 中 国 …… 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
- 近 畿 …… 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
- 東 海 …… 岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
- 関 東 …… 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
- その他 …… 「北海道」、「東北」、「北陸・甲信越」、「四国」地域

【第5表】

専修学校等進(入)学者の系統別状況

()内は前年調査の数値

区 分	工業	農業	医療	衛生	教育福祉	商業実務	服飾家政	文化教養	予備校	その他	計
実数(人)	2 (3)	0 (4)	6 (10)	6 (2)	1 (1)	5 (2)	0 (1)	6 (3)	5 (2)	0 (0)	31 (28)
専修学校等進(入) 学者の構成比 (%)	6.5 (10.7)	0.0 (14.3)	19.4 (35.7)	19.4 (7.1)	3.2 (3.6)	16.1 (7.1)	0.0 (3.6)	19.4 (10.7)	16.1 (7.1)	0.0 (0.0)	100.0 (100.0)

(注1) 各系統の内容は次のとおりである

- 工 業 …… 情報処理、土木・建築、電気・電子、自動車整備 等
- 農 業 …… 農業、園芸、畜産、バイオテクノロジー、ガーデンビジネス、フラワービジネス、動物管理 等
- 医 療 …… 看護、歯科衛生、歯科技工、臨床検査、診療放射線、柔道整復、理学・作業療法 等
- 衛 生 …… 栄養、調理、理容・美容、製菓・製パン、エステティック 等
- 教 育 福 祉 …… 保育、社会福祉、介護福祉、医療福祉 等
- 商 業 実 務 …… 経理・簿記、秘書、経営、情報、観光・ホテル、医療事務 等
- 服 飾 家 政 …… 和洋裁、服飾、ファッションデザイン、ファッションビジネス 等
- 文 化 教 養 …… 音楽、美術、グラフィックデザイン、外国語、演劇・映画、通訳・翻訳、法律行政、スポーツ 等
- 予 備 校 …… 大学受験予備校、資格試験予備校 等

【第6表】

就職者の職業別状況

()内は前年調査の数値

区 分		計	職 業 別 の 構 成 比 (%)
専門的・技術的職業従事者		1 (0)	2.9 (0.0)
事務従事者		2 (8)	5.9 (17.4)
販売従事者		12 (14)	35.3 (30.4)
サービス職業従事者		12 (9)	35.3 (19.6)
保安職業従事者		1 (0)	2.9 (0.0)
農林漁業従事者	1 農林業従事者	1 (0)	2.9 (0.0)
	2 漁業従事者	0 (0)	0.0 (0.0)
生産工程従事者	1 製造・加工従事者	2 (10)	5.9 (21.7)
	2 機械組立従事者	1 (0)	2.9 (0.0)
	3 整備修理従事者	0 (0)	0.0 (0.0)
	4 検査従事者	0 (0)	0.0 (0.0)
	5 その他	0 (0)	0.0 (0.0)
輸送・機械運転従事者		2 (0)	5.9 (0.0)
建設・採掘従事者		0 (5)	0.0 (10.9)
運搬・清掃等従事者		0 (0)	0.0 (0.0)
上記以外のもの		0 (0)	0.0 (0.0)
計		34 (46)	100.0 (100.0)

(注1) 就職者には、大学等進学者、専修学校等進(入)学者及び公共職業能力開発施設等入学者のうち、就職した者を含む。

(注2) 区分は、学校基本調査を準用している。平成23年3月卒業者の調査からは、平成21年12月に改訂された日本標準職業分類による集計である。内容は次のとおりである。

専門的・技術的職業従事者	研究者、農業水産技術者、製造技術者、建築・土木・測量技術者、医療従事者、法務従事者、教員、著述家、音楽家 等
事務従事者	庶務事務員、受付・案内事務員、出荷・受荷事務員、郵便事務員 等
販売従事者	小売店主、食料品営業職業従事者、商品訪問・移動販売従事者、不動産仲介・売買人 等
サービス職業従事者	介護職員、歯科助手、理容師、美容師、旅館主、マンション管理人、旅行・観光案内人 等
保安職業従事者	自衛官、警察官、消防員、警備員 等
農林漁業従事者	1 農林業従事者 農耕従事者、養畜従事者、造園師、育林従事者 等
	2 漁業従事者 漁労従事者、水産・養殖従事者 等
生産工程従事者	1 製造・加工従事者 製鉄・製鋼・非鉄金属製錬設備制御・監視員、金属工作機械作業従事者、食料品製造従事者、紡織・衣服・繊維製品製造従事者、印刷・製本従事者 等
	2 機械組立従事者 機械器具組立設備制御・監視員、自動車組立従事者 等
	3 整備修理従事者 電気機械器具整備・修理従事者、自動車整備・修理従事者 等
	4 検査従事者 金属材料検査従事者、食料品検査従事者、自動車検査従事者 等
	5 その他 生産関連作業従事者 等
輸送・機械運転従事者	電車運転士、バス運転者、航海士、ボイラー・オペレーター、建設機械運転従事者 等
建設・採掘従事者	大工、左官、鉄筋作業者、通信線架線・敷設従事者、電気通信設備工事従事者、採鉱員 等
運搬・清掃等従事者	郵便・電報外交員、倉庫作業従事者、ビル・建物清掃員、包装従事者 等
上記以外のもの	分類不能の職業

【第7表】

学科別の就職状況

1 就職者に占める各学科の状況

()内は前年調査の数値

区 分	普通科	衛生看護科	計
就職者 (人)	34 (44)	0 (0)	34 (44)
学科の構成比 (%)	100.0 (100.0)	0.0 (0.0)	100.0 (100.0)

(注1) 就職者には、大学等進学者、専修学校等進(入)学者及び公共職業能力開発施設等入学者のうち就職した者を含まない。

2 各学科に占める就職者の状況

()内は前年調査の数値

区 分	普通科	衛生看護科	計
学科の人数 (人)	104 (128)	0 (0)	104 (128)
就職者数 (人)	34 (44)	0 (0)	34 (44)
就職者の 構成比 (%)	32.7 (34.4)	0.0 (0.0)	32.7 (34.4)

(注1) 就職者には、大学等進学者、専修学校等進(入)学者及び公共職業能力開発施設等入学者のうち就職した者を含まない。

令和3年3月県立特別支援学校高等部卒業者
進路状況調査結果

令和3年9月

山口県教育委員会

目 次

【第1表】	卒業生進路別状況	-----	1
【第2表】	進学先一覧	-----	1
【第3表】	就職者の職業別状況	-----	2
【第4表】	利用福祉サービス一覧	-----	3

令和3年3月県立特別支援学校高等部卒業者 進路状況調査結果

令和3年3月に山口県内の県立特別支援学校高等部(12校)を卒業した生徒について、令和3年5月1日現在における進路状況を調査した結果は、次のとおりである。

【第1表】

卒業生進路別状況

卒業年月	実数・割合	卒業生総数	進学者数(A)	就職者数(B)	福祉施設利用者(C)	在宅者(D)
令和3年3月	実数(人)	232	6	67	145	14
	割合(%)	100.0	2.6	28.9	62.5	6.0
令和2年3月	実数(人)	260	10	84	156	10
	割合(%)	100.0	3.9	32.3	60.0	3.9
平成31年3月	実数(人)	260	11	93	143	13
	割合(%)	100.0	4.2	35.8	55.0	5.0
平成30年3月	実数(人)	249	11	70	153	15
	割合(%)	100.0	4.4	28.1	61.4	6.1
平成29年3月	実数(人)	252	11	90	137	14
	割合(%)	100.0	4.4	35.7	54.4	5.5

※平成31年3月から専攻科を除く
※構成比(%)については、小数点第2位を四捨五入しているため、合計しても100%にならないことがある。

【第2表】

進学先一覧

区分	学校名	進学者数		
		令和3年3月	令和2年3月	平成31年3月
国公立大学等	筑波技術大学		1	
	山口大学		1	
	山口東京理科大学		1	
私立大学等	梅光学院大学	1		
	東亜大学		2	
	大阪体育大学	1		
	岡山理科大学	1		
専門学校	KCS北九州情報専門学校			1
専攻科	下関南総合支援学校		1	
職業能力開発校	国立吉備高原職業リハビリテーションセンター			1
	広島障害者職業能力開発校	1	2	3
	福岡障害者職業能力開発校	2		2
	山口県立東部高等産業技術学校			1
	山口県立西部高等産業技術学校			3
	山口県立農業大学校		1	
	島根県立東部高等技術校		1	
計		6	10	11

【第3表】

就職者の職業別状況

区 分		計	職業別の 構成比(%)
事務的職業従事者		2	3.0
販売の職業従事者		8	11.9
サービス職業従事者		19	28.4
保安職業従事者		2	3.0
農林漁業の職業従事者		2	3.0
生産工程従事者	1 製造・加工従事者	8	11.9
	2 機械組立従事者	5	7.5
	3 整備・修理従事者	1	1.5
	4 検査従事者	1	1.5
	5 その他	1	1.5
建設・採掘従事者		1	1.5
運搬・清掃等従事者		11	16.4
分類不能の職業		6	9.0
計		67	

※職業別の構成比(%)について、小数点第2位を四捨五入しているため、合計しても100%にならないことがある。

(注1) 就職者には、大学等進学者、専修学校等進(入)学者及び公共職業能力開発施設等入学者のうち、就職した者を含む。

(注2) 区分は、学校基本調査を準用している。内容は次のとおりである。

専門的・技術的職業従事者…研究者、農業水産技術者、製造技術者、建築・土木・測量技術者、医療従事者、法務従事者、教員、著述家、音楽家等

事務従事者…庶務事務員、受付・案内事務員、出荷・受荷事務員、郵便事務員等

販売従事者…小売店主、食料品営業職業従事者、商品訪問・移動販売従事者、不動産仲介人・売買人等

サービス職業従事者…介護職員、歯科助手、理容師、美容師、旅館主、マンション管理人、旅行・観光案内人等

農林漁業従事者…農耕従事者、養畜従事者、植木職、造園師、林業従事者、育林従事者、伐木・造材・集材従事者、漁業従事者、漁労従事者、海藻・貝採取従事者、水産養殖従事者

生産工程従事者「1 製造・加工従事者」…製鉄・製鋼・非鉄金属製錬設備制御・監視員、金属工作機械作業従事者、食料品製造従事者、紡績・衣服・繊維製品製造従事者、印刷・製本従事者等

生産工程従事者「2 機械組立従事者」…機械器具組立設備制御・監視員、自動車組立従事者等

生産工程従事者「3 その他」…生産関連作業従事者等

運搬・清掃等従事者…郵便・電報外交員、倉庫作業従事者、ビル・建物清掃員、包装従事者等

【第4表】

利用福祉サービス一覧

区 分	利用人数
就労移行支援	25
就労継続支援B型	61
自立訓練	7
生活介護	47
地域活動支援センター	1
日中一時支援	1
施設入所支援	2
福祉型障害児入所支援	0
その他	1
計	145

【参考 福祉サービス一覧】

サービス・施設の種類	利用形態	サービス・施設の目的及び対象者
就労移行支援	通所	就労を希望する障害者に対し、生産活動その他の活動の機会の提供を通じて、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練等の便宜を供与する。
就労継続支援	通所	通常の事業所に雇用されることが困難な障害者に対し、就労の機会を提供するとともに、生産活動その他の活動の機会の提供を通じて、その知識及び能力の向上のために必要な訓練等の便宜を供与する。
自立訓練	通所	障害者に対し、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、身体機能又は生活能力の向上のために必要な訓練等の便宜を供与する。
生活介護	通所	常時介護を要する障害者に対し、主として屋間、入浴、排せつ又は食事の介護、創作的活動又は生産活動の機会の提供等の便宜を供与する。
地域活動支援センター	通所	障害者に対し、創作的活動又は生産活動の機会の提供、社会との交流の促進等の便宜を供与する。
日中一時支援	—	障害者に日中における活動の場を一時的に提供し、介護している家族の就労や休息を支援する。
施設入所支援	入所	施設に入所する方に、夜間や休日、入浴、排せつ、食事の介護等を行う。
福祉型障害児入所支援	入所	日常生活における基本動作の指導、独立自活に必要な知識技能の付与又は集団生活への適応のための訓練を行う。

